

令和 6 年度
就労困難者訓練支援モデル事業
報告書

令和 7 年3月

福岡県就労支援協同組合



事例集②

事例 3 1

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	男	年 齢	30代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2023年9月5日～2024年2月29日 就職		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労の経験あり（パート）		
無業期間（年）	1年	通算勤務年数（年）	9年
具体的な職歴 就労経験（備考）	工場や食品関係の仕事 スイッチの製造（半年）・食品会社（1年半）・ディスカウントスーパー2カ所（2年）（1年）・車のエンブレム検品（派遣）・土木関係（2ヶ月）		
困っていたこと	・就職先で理由がわからないまま契約終了や勤務時間が減られ給与が減り退職 ・ハローワークの紹介で50社受けたが面接で落ちる ・働きたいが、就職できない理由がわからない		
課 題	苦手なこと、得意なことを把握し、出来る仕事を探す		
支援内容・詳細	・通所によりコミュニケーションの場を通して対人面に慣れる ・得意なことと苦手なことを把握する ・相談できる環境作り		
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・職場（企業）実習をしたい		
支援状況 1カ月目 (9月19日)	状況 ・週5日 10:00～15:00 ・訓練内容：企業実習 野菜を詰める作業 ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・就労移行での訓練のイメージ通りだった ・企業実習はまだ1回ずつしか行っていないので、得意なことはまだわからない		
支援状況 2カ月目 (11月2日)	状況 ・週5日 10:00～15:00 変わりなし ・訓練内容：企業実習 創作活動 ・健康状態：体力は時々疲れる 本人の発言 ・得意なことはないが、苦手なこともない。窮屈なこともない ・今は自信がある		

支援状況
3カ月目
(12月19日)

状況

- ・訓練状況に変わりなし
- ・企業見学については、自分に合ったものがなかったため実施なし
- ・健康状態：11月中旬に実父が亡くなり、気分に影響している

本人の発言

- ・フルタイム希望。どんな仕事でも大丈夫
- ・3月までには就職したい

支援員の発言

- ・これまで言っていることと行動が不一致だったが、一致してきている

終了面談
6カ月目
(2024年2月29日)

【就職】

- ・R6年3月1日から電気機械器具製造の企業にて就労
- ・パート、週5日 9:00～15:00

本人の発言

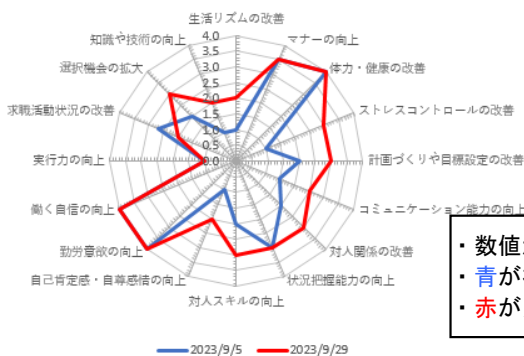
- ・ウイングからの紹介で実習に行き、就職の話がきたので、やってみようかなと思った
- ・訓練期間は色んな人と話せたことが良かった

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

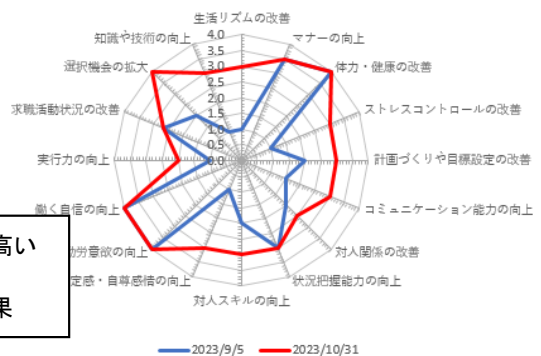
2023年9月末

2023年10月末

1回目と2回目の比較



1回目と3回目の比較

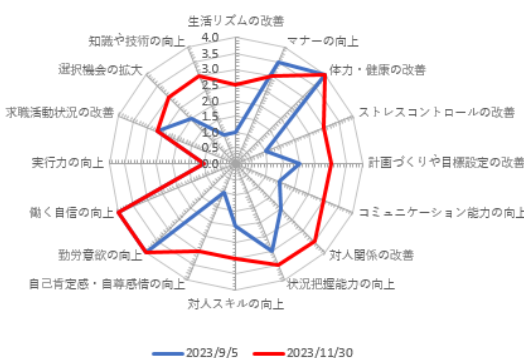


- ・数値が大きいくほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

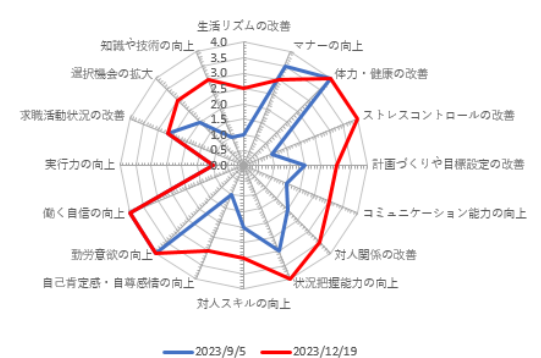
2023年11月末

2023年12月末

1回目と4回目の比較



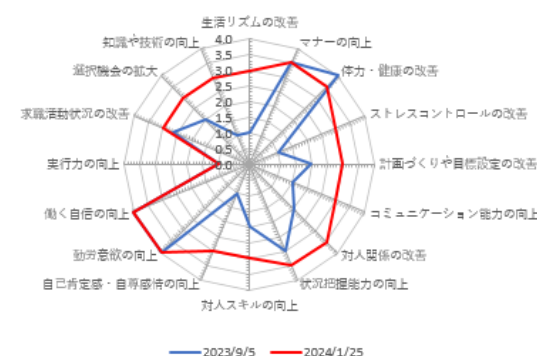
1回目と5回目の比較



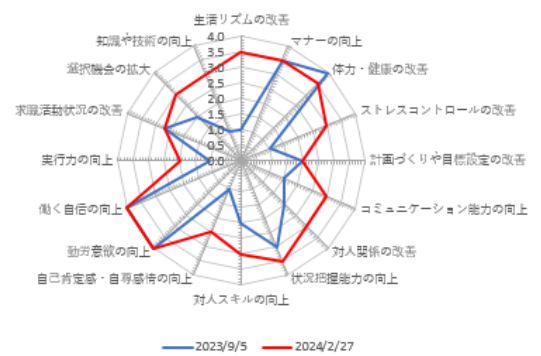
2024年1月末

2024年2月末

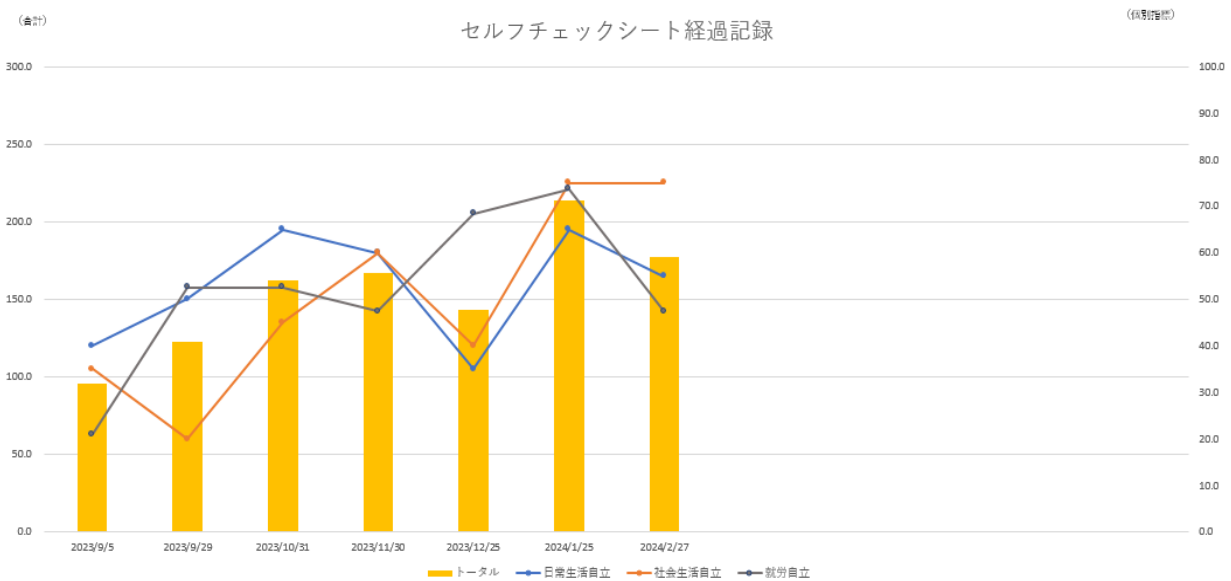
1回目と6回目の比較



1回目と7回目の比較



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、事業参加時と比べて全体的な上昇が認められ、特に社会的領域や環境において顕著である。

就労継続が難し理由を明らかにして、就職することが目標の一つになると考える。

事例 3 2

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング直方
性 別	女	年 齢	20代
紹介機関等	宮若市自立相談支援室（困りごと相談室）		
支援開始年月日	2023/09/06～2024/03/08 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	ひきこもり		
学 歴	専門学校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労（アルバイトなど）		
無業期間（年）	5年	通算勤務年数（年）	5年
具体的な職歴 就労経験（備考）	・ 居酒屋のバイト 4年 ・ 旅館の調理師1年（住み込み）		

困っていたこと	・ ネットで知り合った知人宅へ他県から転居し、土地勘がなく約5年ひきこもり状態 ・ 人と関わるのが苦手な断れない ・ 収入がない ・ 膝が悪く、体力がない
課 題	・ 自立した生活をする為、収入がある状態になること ・ 体力をつける ・ 社会との接点を作る
支援内容・詳細	・ 生活リズムの安定化 ・ 適切な意思表示 ・ 作業、勉強などの優先順位の適切な選択 ・ 新規の体験に対する前向きな取り組み
事業所での活動に期待していること	・ 自信をつけたい ・ 生活習慣を整えたい ・ 対人スキルを身につけたい ・ 働く勘を取り戻したい ・ 職場実習をしたい ・ 職業訓練プログラムを受けたい
支援状況 2カ月目 (2023年10月31日)	状況 ・ 週5日 9：30～15：00 ・ 訓練内容：野菜の梱包作業、創作活動 ・ 健康状態：睡眠がとれていない、1日2時間の散歩を開始 本人の発言 ・ まだ階段がのぼれなため、施設外の作業が限られている ・ ちょっとキツイ時はあるが、休もうとは思わない 支援員の発言 ・ 苦手な人や要望はよく言う ・ 今、上り調子と思っている

支援状況 4カ月目 (2023年12月25日)	状況 ・週5日 9:30～15:00 ・訓練内容: 週4日は施設外実習 ・健康状態: 手すりがあれば、階段の上り下りは出来るようになっている 本人の発言 ・頑張りすぎて疲れている ・苦手な人がひとりいるが、相談は出来ている ・お金が貯まったら、まず携帯を買って、それから一人暮らしと就職をする 支援員の発言 ・以前聞いた話と整合性がとれなかったり、作話傾向がある。人に見せる自分と実際の自分が違うところがあるのかもしれない ・生活保護申請予定
支援状況 6カ月目 (2024年2月15日)	状況 ・週5～6日 9:30～15:00 ・訓練内容: 朝からの清掃にも行くようになった ・健康状態: 2時間睡眠は続いていたが、精神科病院に通院することになり、薬がでて6時間寝ている 本人の発言 ・頑張りすぎて疲れているのは、今も変わらず ・もうすぐ病名がつくかもしれないので、ザワザワしている
終了面談 6カ月目 (2024年3月8日)	(面談日: 2024年5月15日) 状況 ・障害福祉サービス受給者証取得により障害福祉サービスへ移行 (WD最終日: 3月8日)。引き続き同事業所にて支援を受け就職活動を実施 本人の発言 ・周りの人と協力できるようになった ・よく笑うようになった ・ジムに行っている 支援員の発言 ・料理が上手なため、仕出し屋の体験実習を経て就職を考えていたが、求人がなくなり、体験のみになってしまった ・非常に体力が回復されている ・最初からコミュニケーションに問題はなかったが、気の遣い過ぎで疲れていることがある口

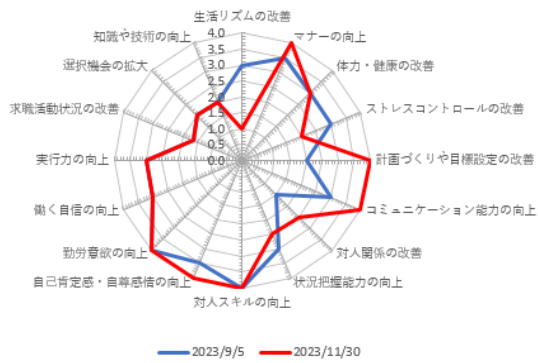


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

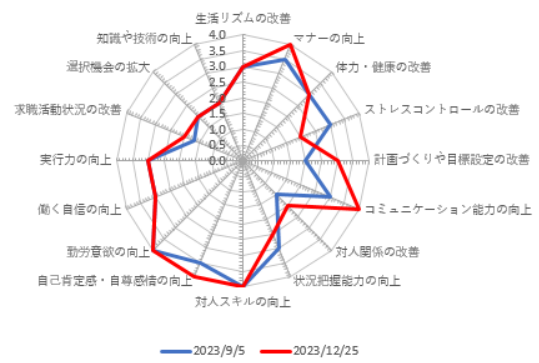
2023年11月末

2023年12月末

1回目と4回目の比較



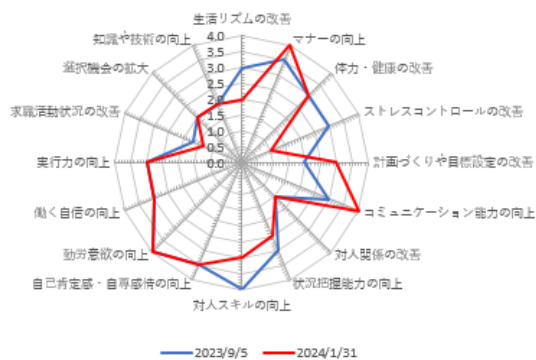
1回目と5回目の比較



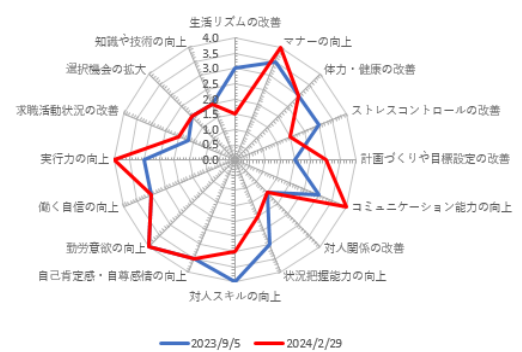
2024年1月末

2024年2月末

1回目と6回目の比較

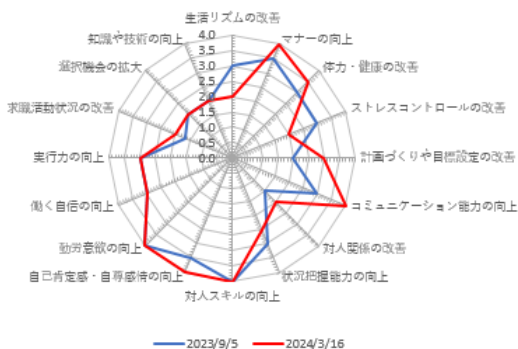


1回目と7回目の比較



2024年3月末

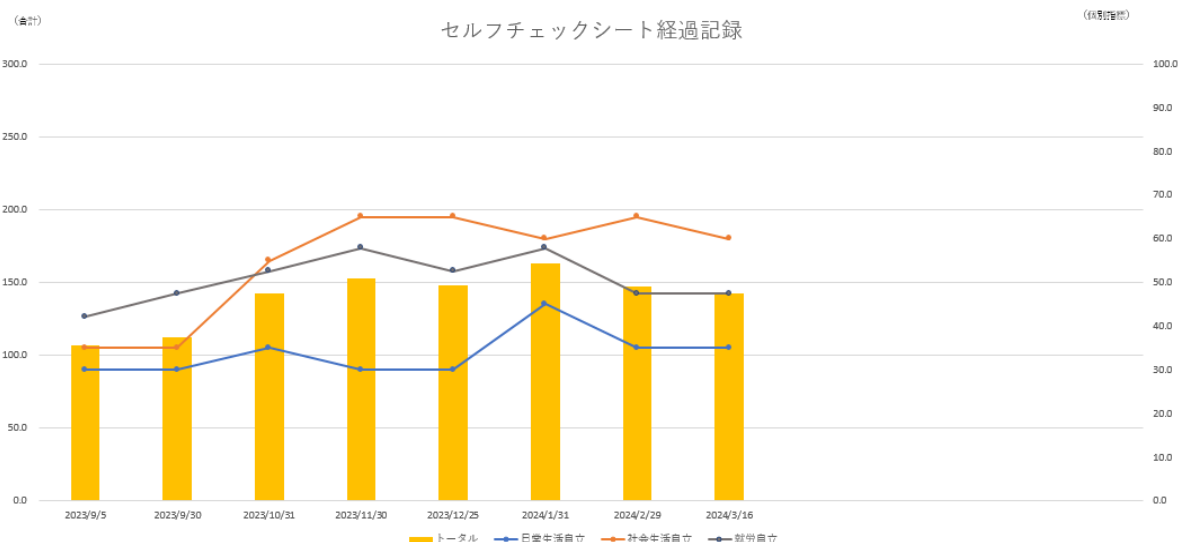
1回目と8回目の比較



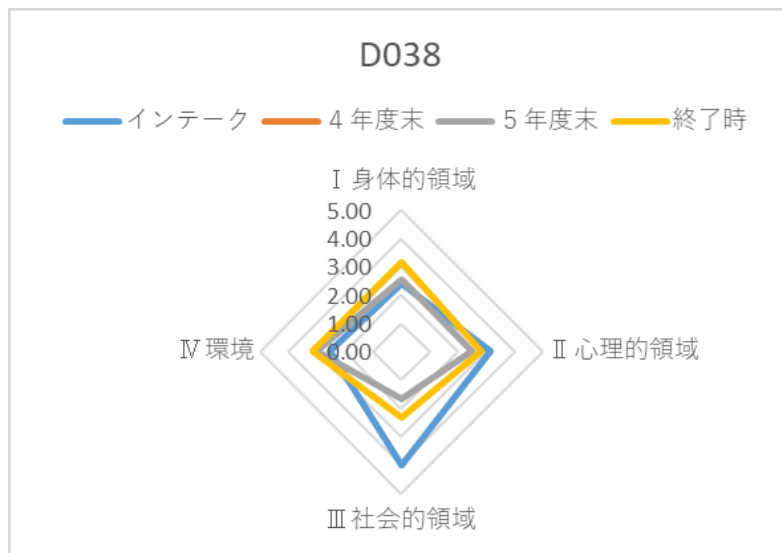
- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）

セルフチェックシート経過記録



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、事業参加時と比べて身体的領域と環境においては上昇しているが、心理的領域と社会的領域で低下が認められる。支援状況から、どのような困難さが生じているのか明らかではなく、マネジメントセンターとして情報の収集が求められる。

事例 3 3

地 区	福岡地区	支援機関名	ウイング粕屋
性 別	男	年 齢	40代
紹介機関等	県だより		
支援開始年月日	2023年9月8日～2024年1月15日 事業利用終了		
就労困難要因	ひきこもり		
学 歴	専門学校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労の経験あり（アルバイトなど）		
無業期間(年)	2年	通算勤務年数(年)	25年
具体的な職歴 就労経験(備考)	専門学校卒業後、知人の紹介で事務職 2年弱（上司とうまくいかず退職） 家業（米屋と惣菜）のスーパーに入っている惣菜店の手伝い		

困っていたこと	・自分が大丈夫だと思っても客観的に大丈夫かどうか判断できない ・自分のところで仕事が止まると迷惑をかけるのではないかと想像してしまう
課 題	コミュニケーション力の向上
支援内容・詳細	・社会生活に対応した生活リズム作り ・活動を通して人と関わり、コミュニケーション力を向上させる ・経験を積み重ね、できることを増やしていく ・どんな仕事があるか体験を通して見つける
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい
支援状況 1カ月目 (2023年10月18日)	状況 ・週5日 10:00～15:00 ・訓練内容：企業実習 創作活動 イベント参加 ・健康状態：帰ったら疲れて寝てしまい、夜中に目が覚める 本人の発言 ・暑かったときはきつかったが、仕事は慣れればわかる 支援員の発言 ・実習では臨機応変な対応ができています。新しい作業に変わったが、メンバーで一番作業が速かった ・単調な作業が得意。コツをつかめばすぐわかるが、我流にやってしまうところがある ・ルーティンが変わるとむずかしい
支援状況 2カ月目 (2023年11月14日)	状況 ・週5日 変わりなし ・訓練内容：企業実習 創作活動 イベント参加 ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・実習は同行してくれる人がいるので、気分的にはラク ・訓練に行きたくないとかきついと思うことはない ・就職については、経験を活かしてスキルアップするのがいいと思うが…

支援状況
3カ月目
(2023年12月)

12月21日面談予定であったが、前日母親が急逝し中止

終了面談
4カ月目
(2024年1月15日)

※家族面談（義姉、支援員同席、本人不在）

状況

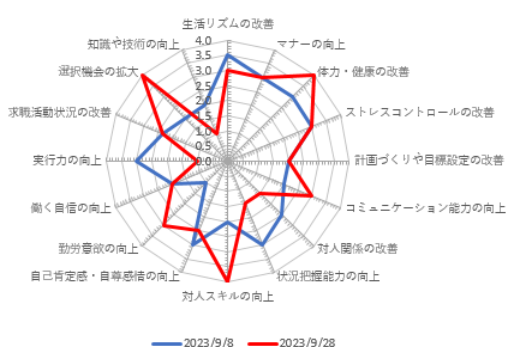
- ・12月21日以降通所なく、1月15日付で終了
- ・家族としては、訓練を継続してほしいと思っているが、本人は聞く耳を持たない状況で、頑なに「もう辞めた」という
- ・これまで母親の言うことを一番聞き入れていた（父親要介護状態）
- ・以前いじめを受け、その後人との付き合いを閉ざしていたので、ここで馴染んでいたと聞いて嬉しい
- ・これまでの通所の様子から特性もあることが分かり、今後家族だけで関わっても動きがみられない可能性があるため、地域の支援機関に繋がるか、医療機関に受診し、福祉サービスを利用することも検討してはどうかと提案

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

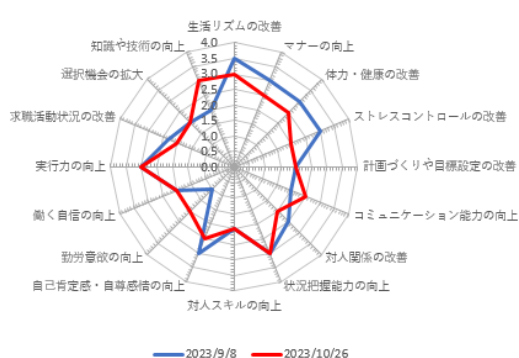
2023年9月末

2023年10月末

1回目と2回目の比較



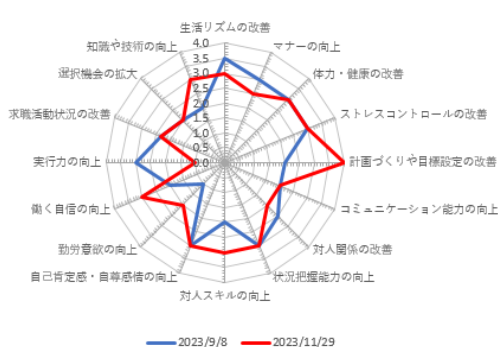
1回目と3回目の比較



2023年11月末

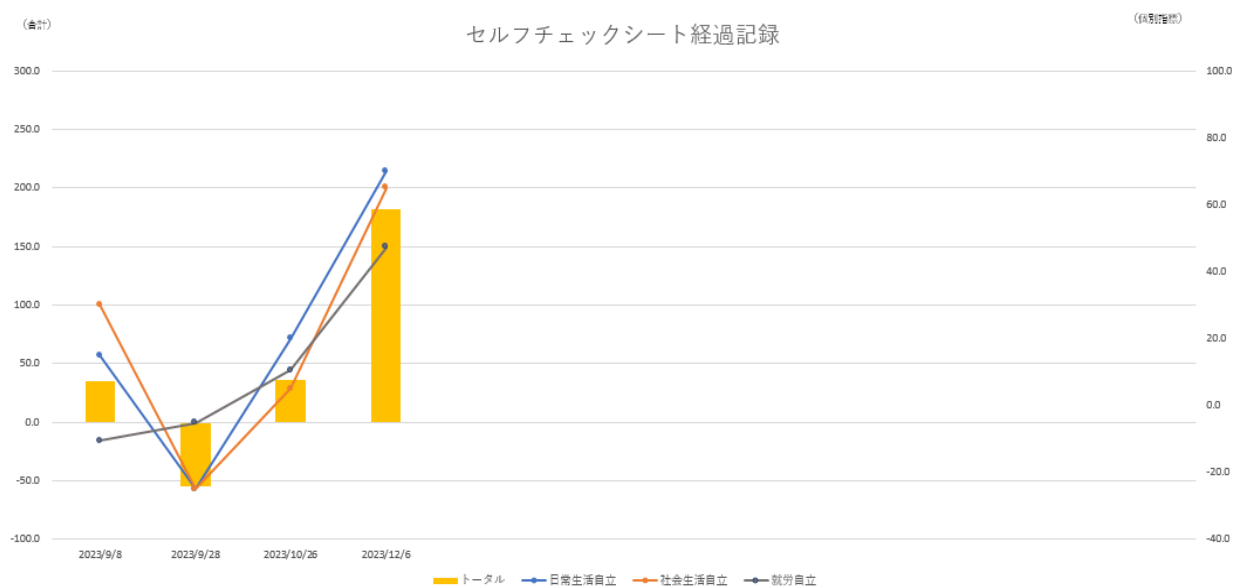
2023年12月末

1回目と4回目の比較

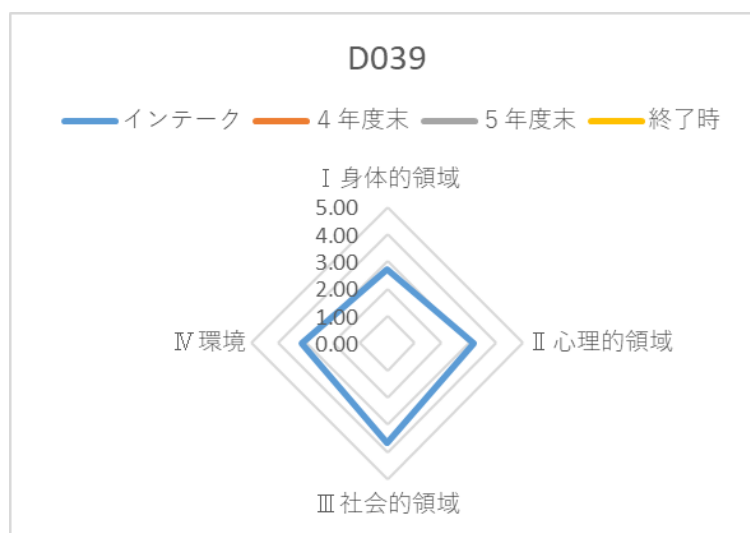


- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

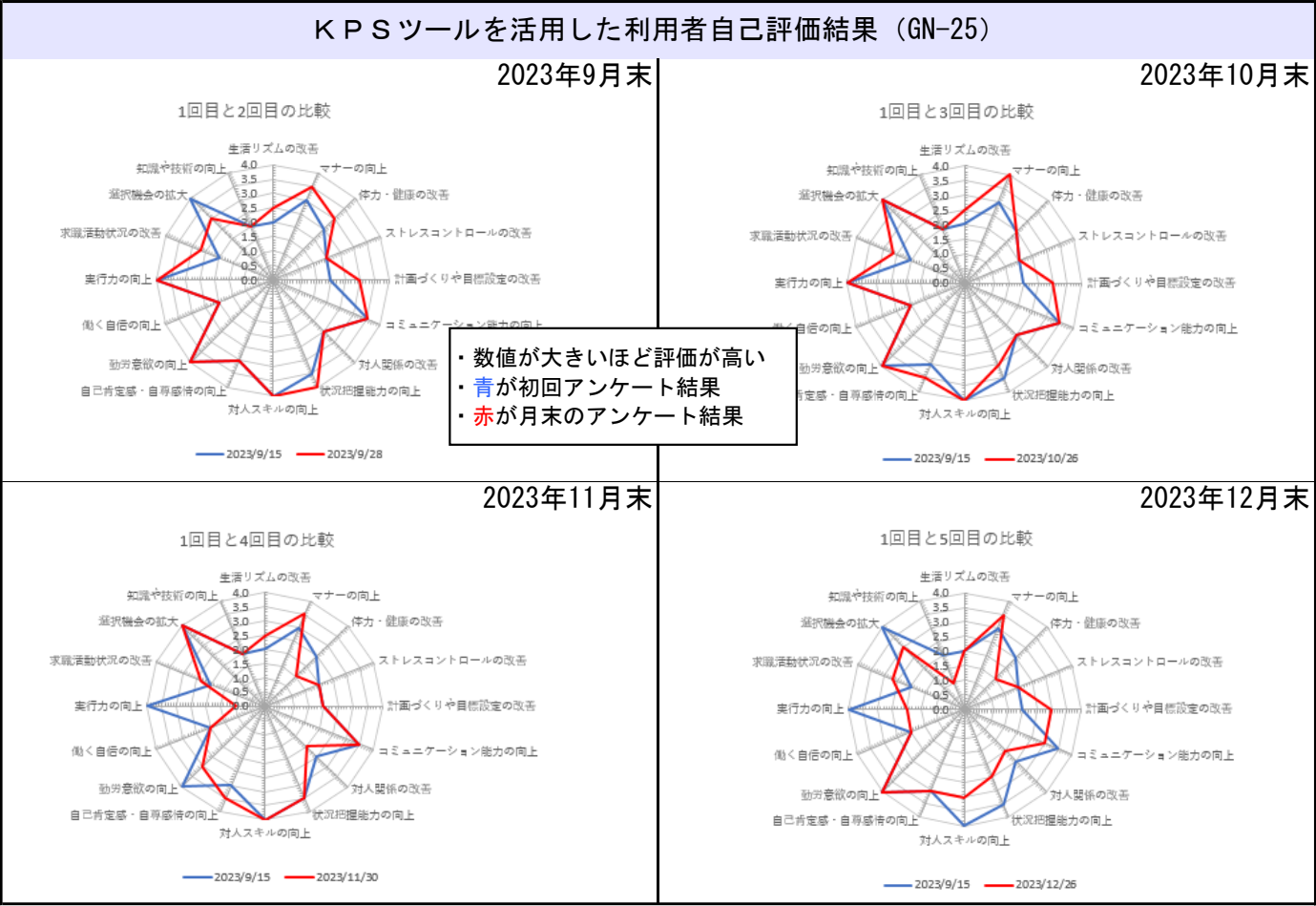
支援機関の関わりにより、得意なことが明らかになりつつあった事例である。支援状況の記載にもあるが、発達特性の精査を含め、医療や福祉につなげていくことが必要であるとする。

事例 3 4

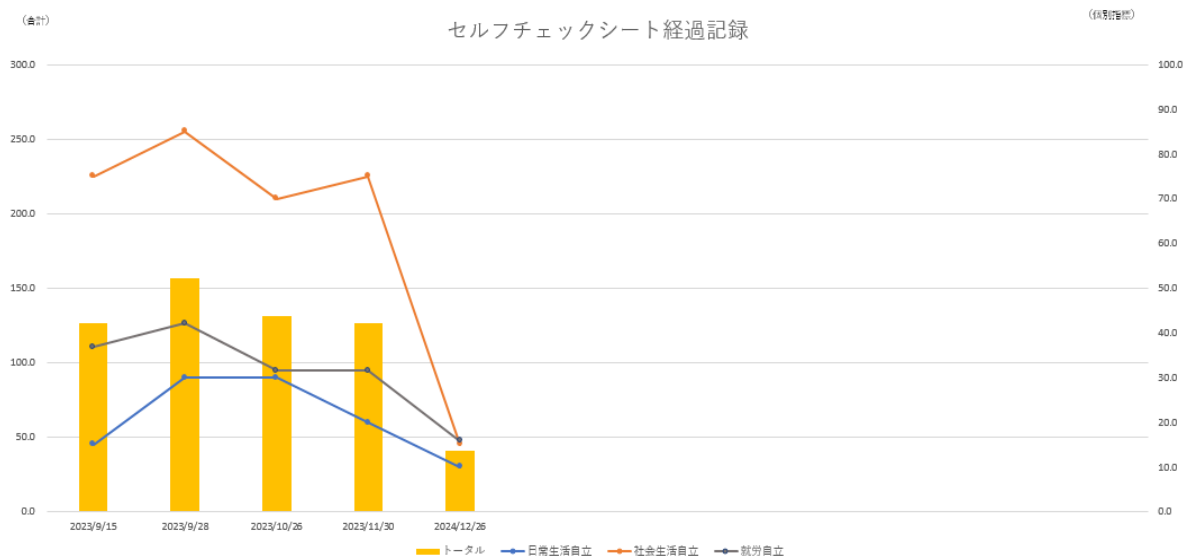
地 区	福岡地区	支援機関名	ウイング粘屋
性 別	男	年 齢	50代
紹介機関等	福岡県だより		
支援開始年月日	2023/09/15～2024/3/27 事業利用終了		
就労困難要因	その他の困難要因		
学 歴	大卒以上		
就労経験	正社員経験あり 一般就労の経験あり（アルバイトなど）		
無業期間(年)	0年	通算勤務年数(年)	30年
具体的な職歴 就労経験(備考)	スーパー品出し・出荷：パート レストラン・コンビニ：アルバイト 看護師15年：病院、施設		

困っていたこと	・ 病院の看護師だったが、よくしてくれていた上司がいなくなり、気力がなくなった ・ 病院から施設に転職したが、残業や人間関係で慣れずに退職。異業種でも働いたが黙々とする作業が合わずにすぐ退職 ・ 難病の子どもの介護ため、家事育児が必要 ・ 年齢的にも自信がなくなってきた
課 題	・ 看護師以外の職で仕事に就きたい ・ 自信をつけたい ・ 家事育児との両立
支援内容・詳細	・ 通所による生活リズムの改善 ・ 人との関わりの練習 ・ 個別実習を通して自分にあった環境、職種を見つける ・ 家事、育児を考慮したスケジュールの組み立て
事業所での活動に期待していること	・ 自信をつけたい ・ 職場（企業）実習をしたい ・ 職業訓練プログラムを受けたい
支援状況 2カ月目 (2023年11月14日)	状況 ・ 週4日 9：30～15：00 ・ 訓練内容：半日（AMかPM）企業実習（ピッキング作業、ラベル剥がし） ・ 健康状態：子どもと自分も体調を壊し休むことが多かった 本人の発言 ・ ここに来るようになって社会との繋がりを感じられ、閉鎖的にならないの ・ レクやイベントの時、家族のことを考えてしまい、自分だけ楽しんでいいのかと思ってしまう ・ 色んなところに実習に行き、自己発見をして就労につなげたい
支援状況 3カ月目 (2023年12月)	状況 ・ 車両事故にあったと12月初め事業所に連絡あり。大事には至ってないが、妻が不安定になっているため少し休みたい 支援員からの情報 ・ 来所数が少なかったり、突発的な休みも多い ・ 最初の印象と違い、WD利用者で一番交流が少ないが、最近話せるスタッフが増えて、表情が穏やかになった ・ 実習に行くのが楽しそうでなく、作業に集中できていない

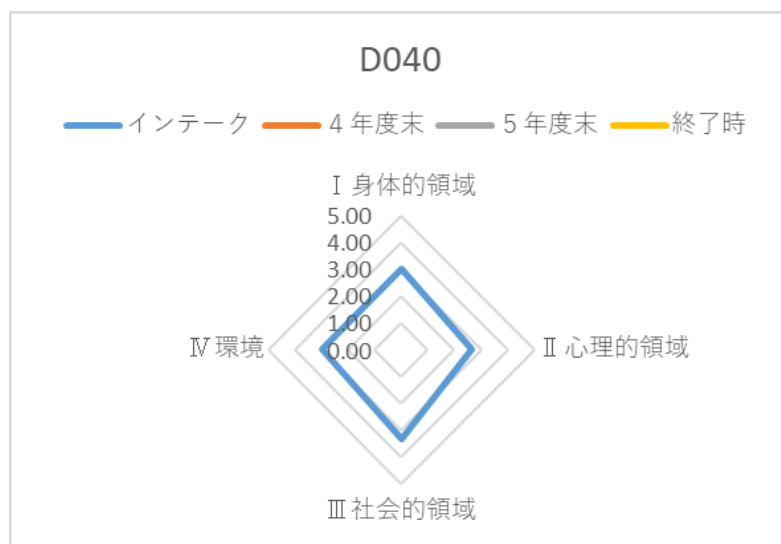
支援状況 4カ月目 (2024年1月)	支援員からの情報 ・ 年明け（にインフルエンザで休んでから通所ができていない ・ 連絡はあるもののメンタル面が不安定で人と接することができない状況 ・ 年末奥様も精神面で落ちていたのか、義父から責められた様子 ・ 自分で就活、面接を受けたが不採用であった ・ 本人もまだ働けるような状態ではなかったと思ったとのこと ・ このまま来れなくなる可能性あり
支援状況 5カ月目 (2024年2月)	2月中旬、組合から電話、メールをするが返信無し
利用終了 6カ月目 (2024年3月)	連絡が取れず、契約期間の2024年3月末をもって終了



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

本人の発言にもあるように、支援機関に通うことで社会とのつながりを感じることができていたと思われる。体調を崩すとの記載があるが、医療的な支援が必要な水準のものであったのか、支援機関との情報共有が必要である。

事例 35

地 区	福岡地区	支援機関名	ウイング粕屋
性 別	男	年 齢	30代
紹介機関等	糟屋郡困りごと相談室		
支援開始年月日	2023/09/19～2025/01/04 就職		
就労困難要因	生活困窮 難病その他の病気、障がい者		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり		
無業期間(年)	3年	通算勤務年数(年)	16年
具体的な職歴 就労経験(備考)	食品関係16年：製造10年／ライン1年／パソコン資料作成、衛生チェック、備品管理		

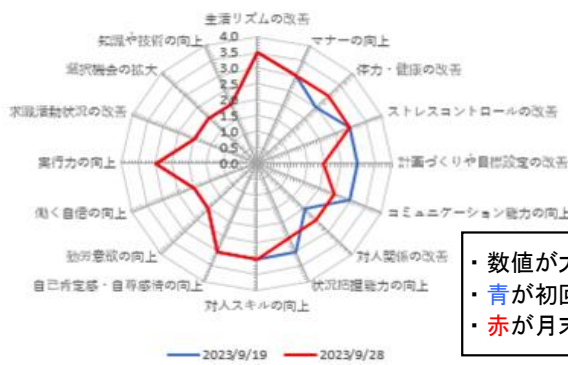
困っていたこと	・糖尿病により3年前に網膜剥離となり、右目がほとんど見えない ・左右差で気持ち悪さもあり、集中力がなくなった ・主治医から止められている仕事はないが、高さや段差、力を使う作業が難しいため、通常の仕事に就けるのか分からない
課 題	・体調管理 ・どこまでの作業ができるか自己認識する ・自信をつける
支援内容・詳細	・体調管理をしながら社会生活に対応した生活リズム作り ・幅広い年齢の方との関係構築 ・体調管理と活動可能範囲の把握 ・企業見学や体験による得意分野や興味がある分野の把握
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・職業訓練プログラムを受けたい
支援状況 2カ月目 (2023年11月14日)	状況 ・週4日（火水木土）10：00～15：00 ・訓練内容：施設外訓練（こんにやく工場でのピッキング作業）、創作活動 ・健康状態：糖尿の数値が落ち着いてきた。作業による目や体への負担はない 本人の発言 ・就労意欲がでてきた。今までの支援機関では実践的な作業がなかったが、企業実習をし、出来る仕事があることがわかり自信がついた ・他の利用者の方をみて、励まされるところや共感できることがある
支援状況 4カ月目 (2024年1月17日)	状況 ・週4日 10:00～15：00 ・訓練内容：こんにやく工場でのピッキング、清掃作業 ・健康状態：目の状態は安定している 本人の発言 ・作業になれば、これくらいならできるなとわかるようになった ・自分でも就職活動をしようと思う

支援状況 8カ月目 (2024年5月9日)	状況 ・週日：変更なし 週4日 10:00～15:00 ・訓練内容：変わりなし ・健康状態：2月末に脳梗塞になったが後遺症はない 本人の発言 ・働く意欲がわき、ここに来て良かったと思う。 ・病院やグループホームでの食事を作る仕事があればやってみたい
支援状況 9カ月目 (2024年6月13日)	状況 ・週日：変更なし ・訓練内容：変わりなし。企業見学（食品のパック詰め） ・健康状態：脳梗塞、糖尿病、眼科は定期的に受診 本人の発言 ・就職する準備は整っているので、あとは縁があれば就職できると思う ・料理が好きなので、グループホームの調理で検索している ・一番の条件は、（目が悪いため通勤の不安がない）家から近いところ 支援員の発言 ・調理関係の企業を開拓中
支援状況 10カ月目 (2024年9月14日)	状況 ・週3日 月・水・金 10:00～15:00 ・訓練内容：変更なし ・健康状態：二週間ほど前に頸椎性神経根症と診断された。目の症状は変化なし 本人の発言 ・生活リズムが整った ・同じ境遇の人と出会えて価値観を共有し、交流関係が広がった ・企業実習を受けて倉庫作業や清掃の仕事もできると思ったが、自分としては好きな料理関係の仕事に就きたい 支援員の発言 ・可能な限り本人の希望に添える仕事（食品・料理関係の仕事）での就職支援をしたい
支援状況 13カ月目 (2024年12月4日)	状況 ・週4日（月水金土）10:00～15:00 ・訓練内容：12月中旬以降、有料老人ホームの調理実習に6日間行く予定 ・健康状態：11月に車との接触事故にあったが、怪我、体調変化なし 本人の発言 ・実習先施設は自宅から近いため、以前から求人が出ないかと気にかけていた 支援員の発言 ・実習期間は通所を並行するため少しきついかもしれないが、それができれば就職の体力も大丈夫だと思う
終了面談 14カ月目 (2025年1月24日)	【就職】 ・1月7日から有料老人ホームでの調理員として就労 ・パート職 週3日 15:00～19:30 本人の発言（WDの感想） ・色々な年代の方と話す機会が増えたことが良かった ・作業以外に、スポーツやレクリエーションなど、外出の機会があつてよかった ・自分みたいに障害者手帳を取りたくても取れない人が利用できることが良かった 支援員の発言 ・友達ができ、通所することは楽しかった様子

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

1回目と2回目の比較

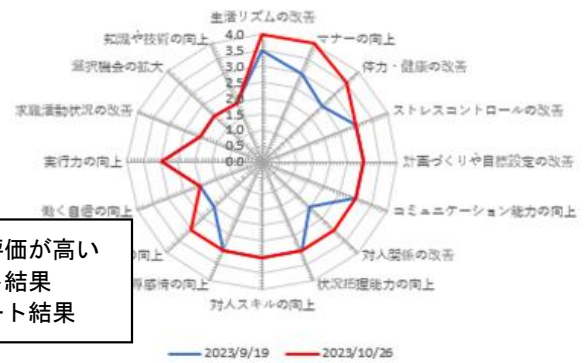
2022年9月末



- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

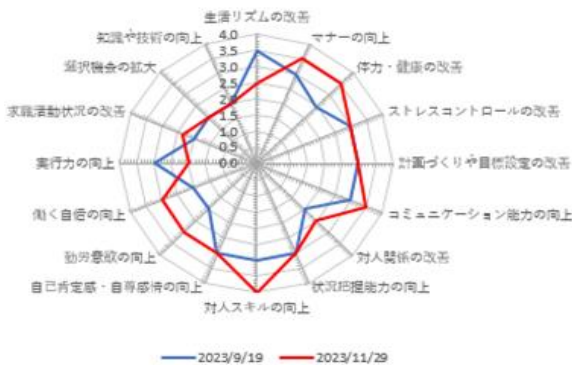
1回目と3回目の比較

2023年10月末



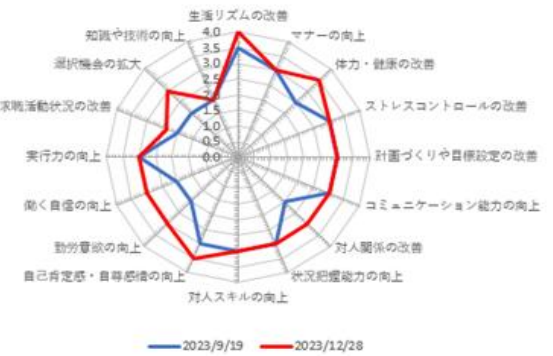
1回目と4回目の比較

2023年11月末



1回目と5回目の比較

2023年12月末



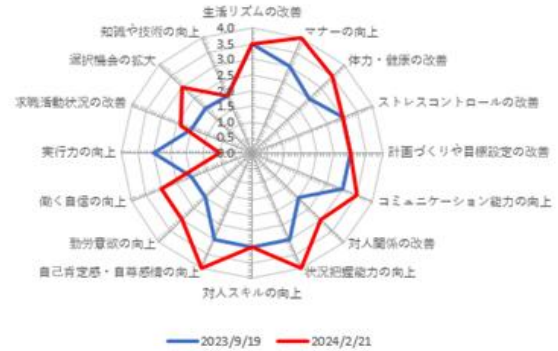
1回目と6回目の比較

2024年1月末



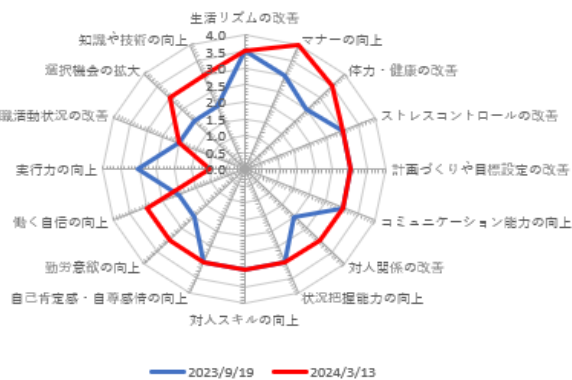
1回目と7回目の比較

2024年2月末



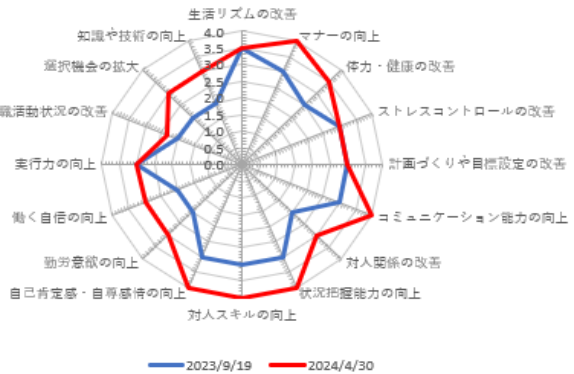
1回目と8回目の比較

2024年3月末



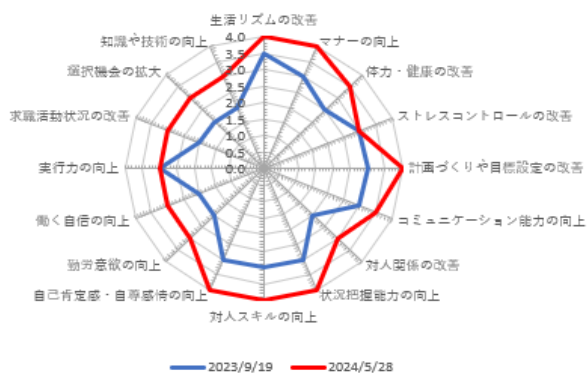
1回目と9回目の比較

2024年4月末

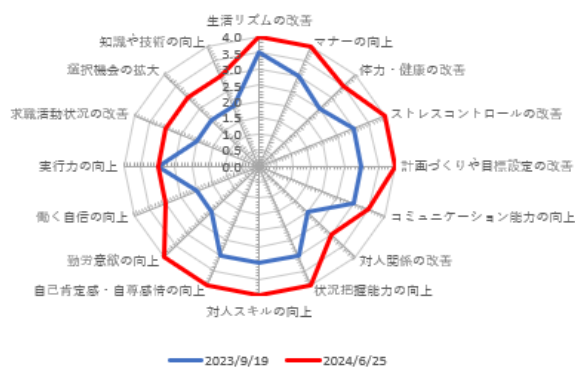


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

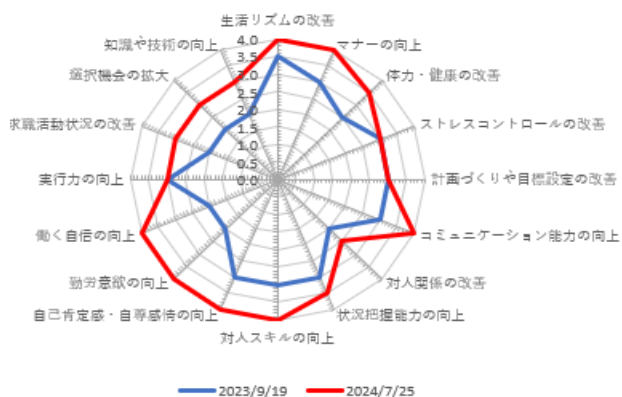
2024年5月末



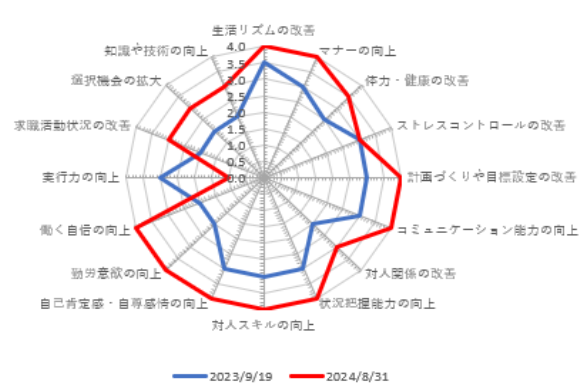
2024年6月末



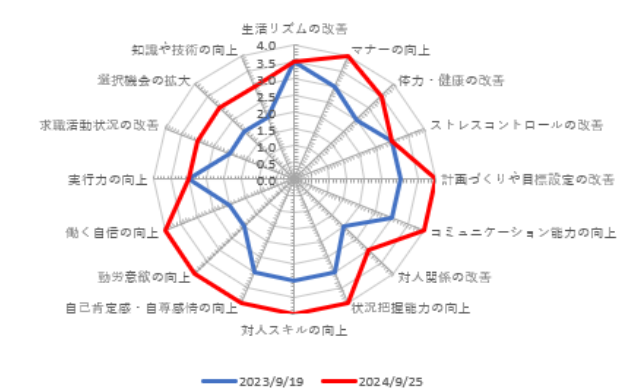
2024年7月末



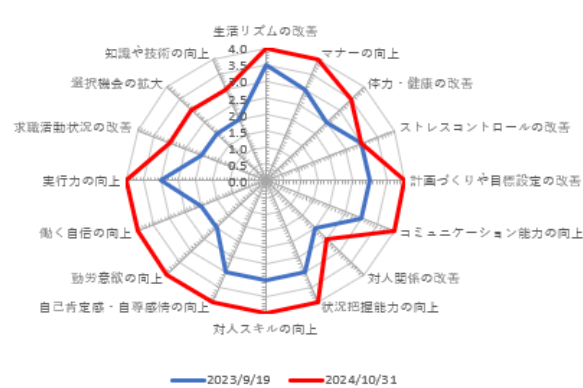
2024年8月末



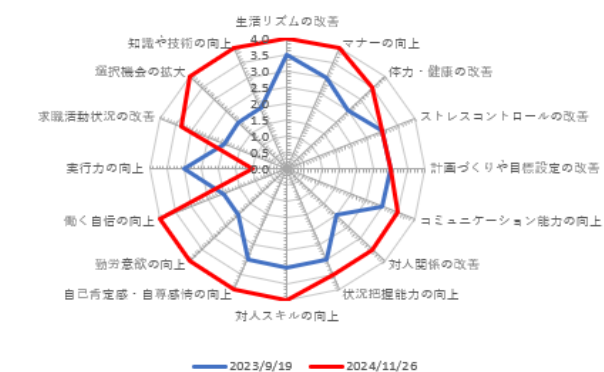
2024年9月末



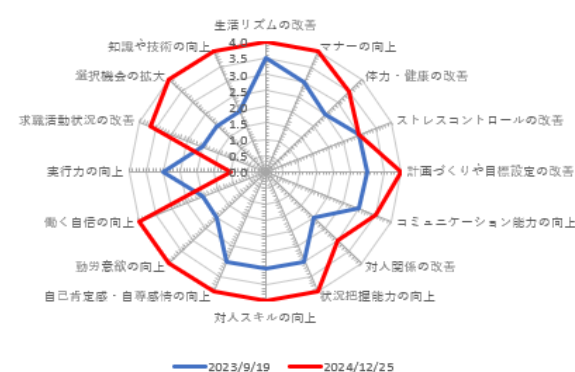
2024年10月末



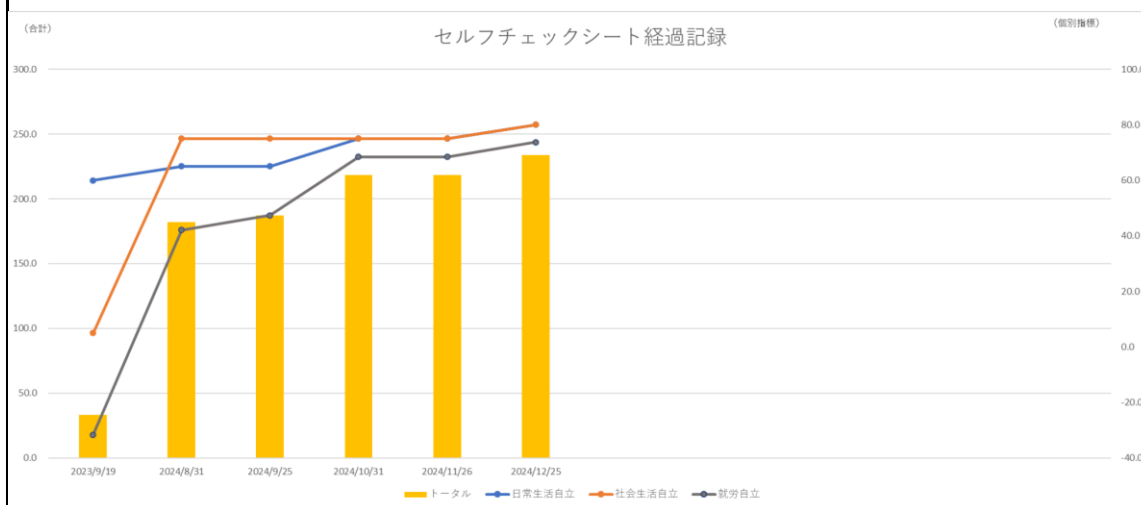
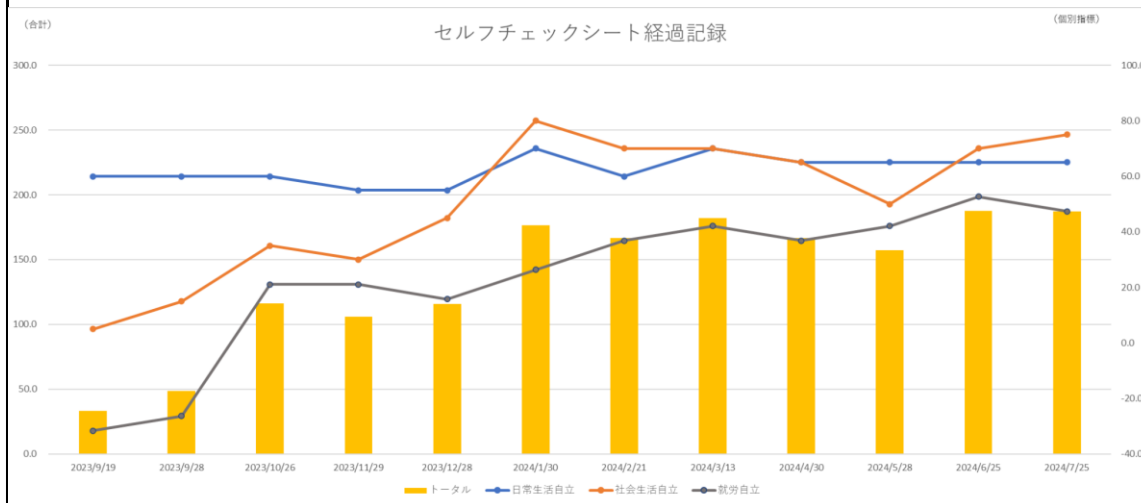
2024年11月末



2024年12月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、事業参加時と比べて全体的な上昇が認められ、特に身体的領域や心理的領域、環境において顕著である。
就労時間（作業時間）の延長については、本人のニーズと就労継続の観点から慎重に判断することが求められる。

<R6年度>

前年度から引き続き、QOLの向上が認められた。R6年度は社会的領域の向上が顕著であった。社会的領域は人間関係や社会的支えと関連があるとされている。WD事業を通じて、似た境遇の人との交流があったこと、支援者と良好な関係が築けたことが要因だと考える。

事例 36

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング飯塚
性 別	男	年 齢	40代
紹介機関等	ウイング飯塚		
支援開始年月日	2023/10/6～2025/3/31 利用終了		
就労困難要因	ひきこもり		
学 歴	専門学校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労（アルバイトなど）		
無業期間(年)	3年	通算勤務年数(年)	20年
具体的な職歴 就労経験(備考)	介護職 正社員 10年以上 布団製造企業 正社員 10ヶ月 製菓企業 派遣 1年9ヶ月		
困っていたこと	・派遣の仕事が終了後の就職に繋がらず、ひきこもり状態になる ・社会にでる不安が大きかった		
課 題	・生活リズムを整える ・職種選択		
支援内容・詳細	・通所による生活リズムの改善 ・実習や活動に参加してコミュニケーションを図る ・自分の出来ること、苦手なことを見極める ・企業見学・体験による得意不得意の把握 ・企業実習・座学による就労に関する知識の向上		
事業所での活動に期待 していること	・自信をつけたい ・生活習慣を整えたい ・働く勘を取り戻したい		
支援状況 1カ月目 (2023年11月30日)	状況 ・週4日（月火木金）13：30～15：00 ・訓練内容：PCタイピング練習、内職（箱折り）、座学、企業見学 ・健康状態：体力がない 本人の発言 ・訓練時間は自分にあっている 支援員の発言 ・就職したいと言われるが、覇気がなく、行動に移せていない ・工場を希望されているが、朝が起きれず、体力がないため、現状では厳しい ・企業実習はまだ難しいため、企業見学を入れるようにしている		

支援状況 3カ月目 (2024年1月22日)	状況 ・週4日（月火木金） 13：30～15：00 変わりなし ・訓練内容：PCタイピング練習、企業見学 ・健康状態：腰痛は変わりなし 本人の発言 ・通所してからの変化はない ・夏までには就職をしたい 支援員の発言 ・企業見学に行くが就労意欲がなく、反応がない ・8時間で正社員のこだわりがあったが、難しいと思えてきたところが変化 ・病院受診は拒否
支援状況 5カ月目 (2024年3月19日)	状況 ・利用日数：変わりなし ・訓練内容：週1日は職場見学（ガラス工場、金属加工、マンション管理の清掃など） ・健康状態：腰痛は変わらない。夜は眠れている 本人の発言 ・体力をつけたい ・就職はしたい。製造業で4時間くらい 支援員の発言 ・協調性はない。病院同行は拒否された ・職場見学を多く入れたが、意欲がなかなかあがらない
支援状況 8カ月目 (2024年6月27日)	状況 ・日数：変わりなし ・訓練内容：求人検索 座学(マナー・アンガーマネージメント) ・健康状態：良くも悪くもないが、腰が痛い(ヘルニア) 本人の発言 ・頑張ったことは特にない ・（実習に行かない理由は）昼から来るのに慣れているのと、興味がない 支援員の発言 ・応募をしなくてもいいので求人検索した中で、一番良いと思った求人を印刷するようにいっているが、一度も印刷したことがない ・何を言ってもやろうとしないで困っている
支援状況 11カ月目 (2024年9月6日)	状況 ・日数：変わりなし ・訓練内容：求人検索、マナー講座 ・健康状態：睡眠薬は飲んでいるが、眠れない時がある。腰痛はブロック注射をしたり、薬で治療 本人の発言 ・就職の時期は考えていないわけではないが、これといっていい仕事がない

支援状況 13カ月目 (2024年11月29日)	状況 ・週日：不眠症で時々休む ・健康状態：不眠・腰痛も変わらず。腰痛はブロック注射を打つ 本人の発言 ・就職はしたいが福祉サービスには行きたくない ・（このままの状態でWDが終了した場合は）自分で仕事を見つける 支援員の発言 ・就職すると言うが全く動きがないため、12月までは就職活動をし、難しければ福祉サービスへ移行を進める話をしたが、福祉には抵抗を示した ・親御さんは福祉への移行も含め、どうにかしたいという思いがある
終了面談 17カ月目 (2025年3月13日)	状況 ・訓練内容：求人検索 ・1月に1件応募するが不採用 本人の発言 ・支援員からガソリンスタンドの話があったが、セルフサービスのスタンドの方が良かったので断った ・いまのところ応募や面接の予定はない ・（WD終了後は）自分で求人を探す、今までそうしてきたので ・福祉サービスへの移行は考えていない 支援員の発言 ・反応が薄い、欲がない、感情がない、覇気がないというところは変わりないが、利用当初よりは利用日数は増えており、かなりのスローペースである ・福祉サービスへの移行は本人が抵抗があるのであれば無理強いしないと思っている ・切羽詰まることがないと動かないと思うので、どこか支援機関に繋がるといいと思っている ※3月末で一旦終了し、次年度利用希望する場合は案内する予定であったが、その後、3月末までの間に本人が福祉サービスへの移行を受け入れ、（WD終了後は）福祉サービス利用予定となった。

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2023年10月末

- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

1回目と2回目の比較

生活リズムの改善

マナーの向上

体力・健康の改善

ストレスコントロールの改善

計画づくりや目標設定の改善

コミュニケーション能力の向上

対人関係の改善

状況把握能力の向上

対人スキルの向上

自己肯定感・自尊感情の向上

勤労意欲の向上

働く自信の向上

実行力の向上

求職活動状況の改善

選択機会の拡大

知識や技術の向上

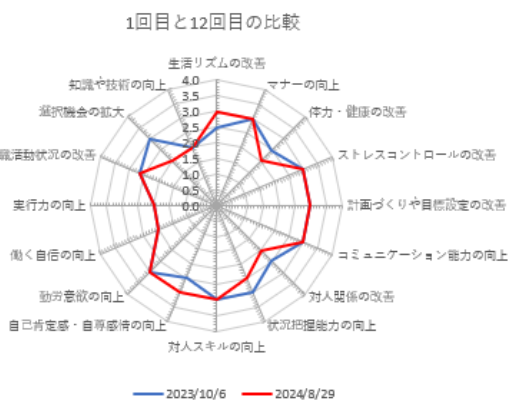
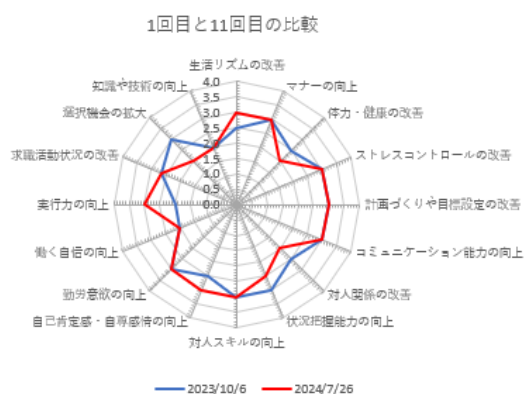
2023/10/6 2023/10/31

項目	2023/10/6 (青)	2023/10/31 (赤)
生活リズムの改善	2.5	3.5
マナーの向上	2.0	3.0
体力・健康の改善	1.5	2.5
ストレスコントロールの改善	1.0	2.0
計画づくりや目標設定の改善	1.0	2.0
コミュニケーション能力の向上	1.0	2.0
対人関係の改善	1.0	2.0
状況把握能力の向上	1.0	2.0
対人スキルの向上	1.0	2.0
自己肯定感・自尊感情の向上	1.0	2.0
勤労意欲の向上	1.0	2.0
働く自信の向上	1.0	2.0
実行力の向上	1.0	2.0
求職活動状況の改善	1.0	2.0
選択機会の拡大	1.0	2.0
知識や技術の向上	1.0	2.0

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

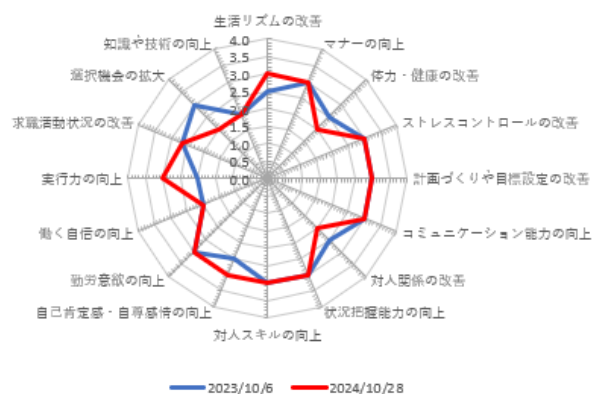
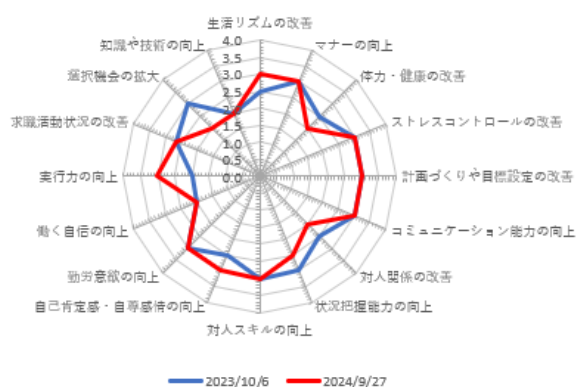
2024年7月末

2024年8月末



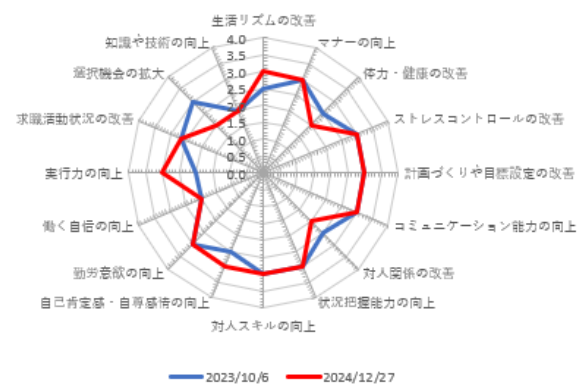
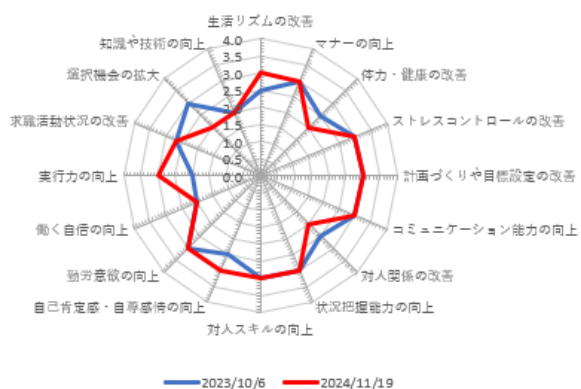
2024年9月末

2024年10月末



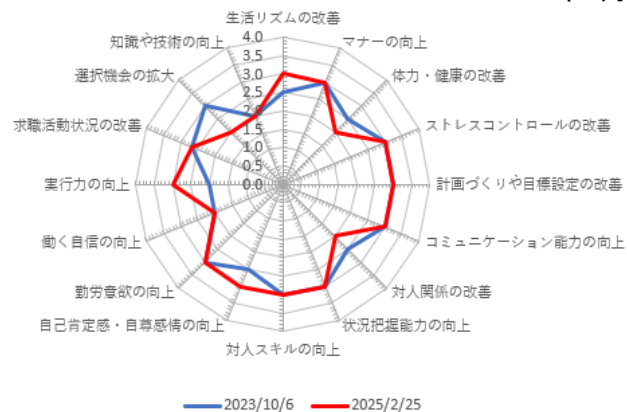
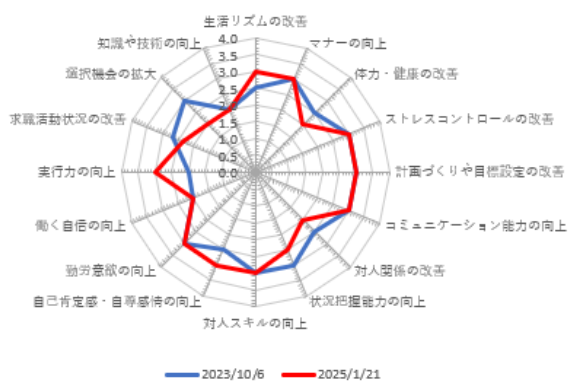
2024年11月末

2024年12月末

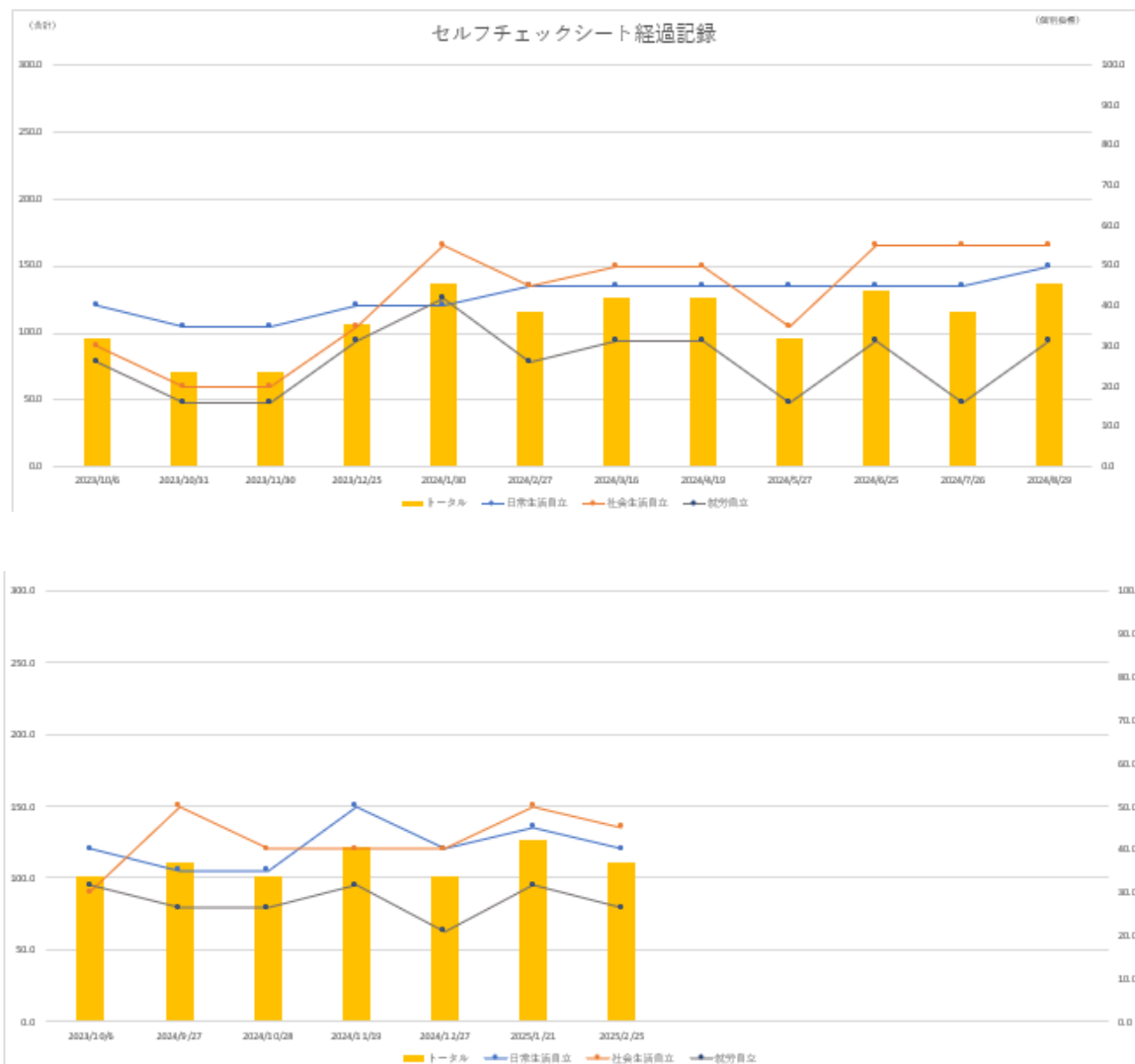


2025年1月末

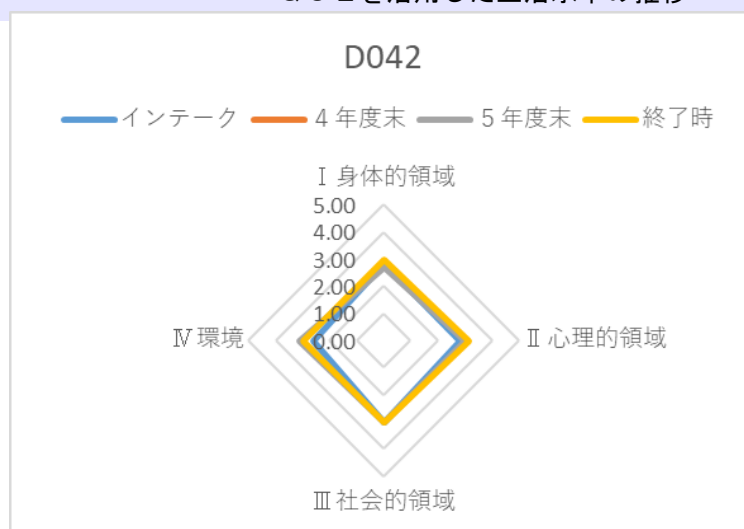
2025年2月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、顕著な変化は認められない。一方で、支援状況にあるように、本人の理想と可能なことのすり合わせが進みつつあることが窺える。

<R6年度>

不眠や身体不調が出現したのちに、利用が不安定になっていることが窺える。QOL評価に大きな変化はない。本人の自己決定を尊重しての利用終了だと考える。

事例 37

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング川津
性 別	男	年 齢	50代
紹介機関等	宮若市困りごと相談室		
支援開始年月日	2023/10/11～2024/3/5 利用終了		
就労困難要因	難病その他の病気、障がい者		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労（パート）		
無業期間(年)	2年	通算勤務年数(年)	40年
具体的な職歴 就労経験(備考)	自衛隊（高卒後） トラック運転手 20年 派遣で倉庫内作業		

困っていたこと	・脳梗塞（R5年2月発症）による後遺症により右半身に麻痺があるため、働きたいが仕事がない ・また脳梗塞をおこすのではないかと不安がある
課 題	・身体機能、言語能力の向上 ・生活習慣を整える
支援内容・詳細	・体調面に配慮して通所による生活リズムの改善 ・作業訓練による身体機能の向上 ・他者との会話を通して言語能力の向上を目指す ・企業見学・体験による得意分野や興味のある分野を把握
事業所での活動に期待していること	・生活習慣を整えたい ・職業訓練プログラムを受けたい
支援状況 1カ月目 (2023年11月30日)	状況 ・週2～3日 10：00～15：00 ・訓練内容：機能回復のための体力作り ・健康状態：体力、身体機能が改善した 本人の発言 ・運動により、起き上がりや杖なしでの歩行、手の感覚が戻り、短期間で回復し感謝している ・人と話すことで、言葉の練習になっおり、刺激を受けている ・働く喜びの希望をもらっている 支援員の発言 ・ご本人が身体機能を良くしてから作業訓練をと考えているため、年明けから企業実習を計画 ・生活面の安定も必要なため、困りごと相談室と一緒に『住まい・車・生活（収入）・仕事』のことを調整していく
支援状況 3カ月目 (2024年1月26日)	状況 ・週5日 10：00～15：00 ・訓練内容：運動を主とした生活訓練 ・健康状態：杖なしで歩行ができるようになった。体力をつけたい 本人の発言 ・体が動くようになり、生活面の整理ができた ・6月までにはパートでもアルバイトでもいいので就職をしたい 支援員の発言 ・2月より企業実習を開始。まずは座ってできる作業から始める

終了面談
5カ月目
(2024年3月5日)

状況

- ・職員とのトラブルをきっかけに2月以降通所なし
- ・支援機関担当者との面談、訓練事業所、コーディネーターとの面談を経て訓練終了の意向を確認し、終了が決定

本人の発言

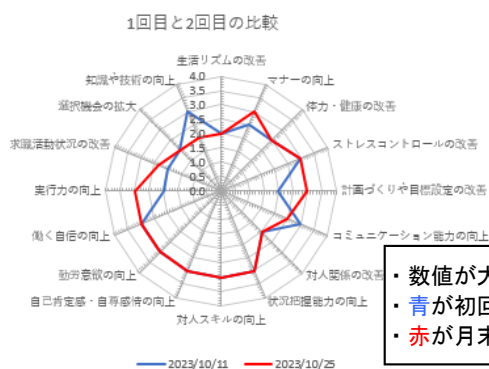
- ・訓練を辞める理由は、病気をして1年が経ち、医師から1年半は用心するように言われた。職員とのトラブルが原因ではない
- ・最初働きたい気持ちより、生活面でのバックグラウンドに不安があり、その後生活面が整ったものの、働くことが不安になった

支援員の発言

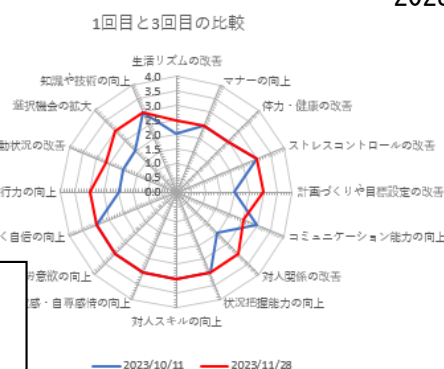
- ・働くために生活環境を整えたり、身体機能回復の支援をしたが、金銭面や生活環境が整ったことで逆に就労意欲は落ちてくるように思う

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

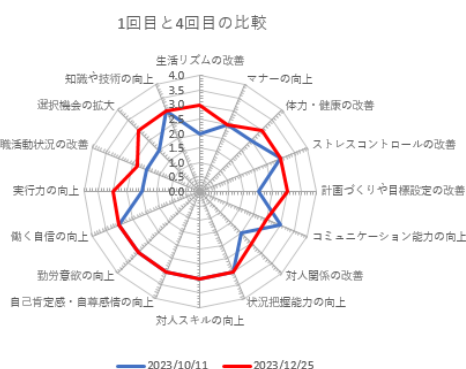
2023年10月末



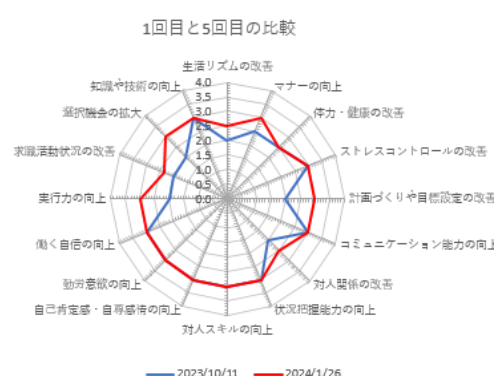
2023年11月末



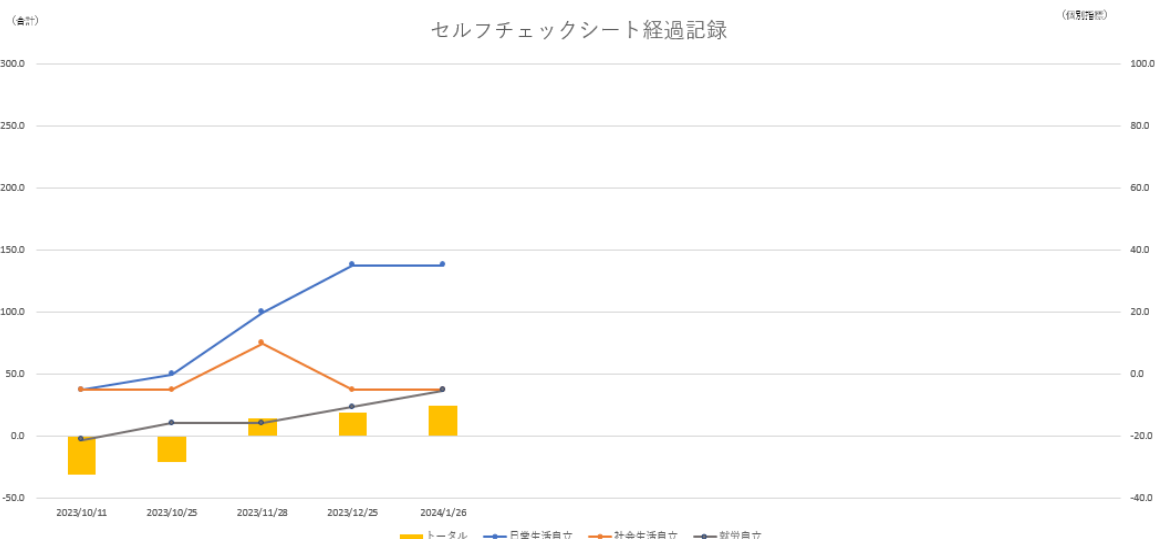
2023年12月末



2024年1月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、事業参加時と比べて全体的な上昇が認められる。

脳梗塞後の麻痺がある。認知機能の状態について医療機関から情報を取得するように支援機関に助言すると良い。必要に応じて、福祉サービスの利用も検討する。

事例 4 3

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	男	年 齢	50代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2023/11/06～2024/7/5 就職		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	中学卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労（パート）		
無業期間(年)	3年	通算勤務年数(年)	20年
具体的な職歴 就労経験(備考)	建設業：日雇いが多かったが、30代の時7年間正社員 ゴルフ練習場での球拾い：パート7年		

困っていたこと	・ 社会との関わりがない ・ 体力がない ・ 就労意欲の減退
課 題	・ 現状に合った職業選別 ・ 生活習慣の改善
支援内容・詳細	・ 生活リズムの安定と健康面の把握 ・ 他者との関わりを増やし適切な意思表示 ・ 得意・不得意を把握し業種選別を行う ・ 定期面談
事業所での活動に期待していること	・ 自信をつけたい ・ 生活習慣を整えたい ・ 職場（企業）実習をしたい
支援状況 1カ月目 (2023年12月19日)	状況 ・ 週5日 10：00～15：00 ・ 訓練内容：施設外実習（野菜を詰める作業、清掃等） ・ 健康状態：身体を動かしたことによる身体の痛み以外は、問題ない 本人の発言 ・ 良かったことは、動くようになったこと ・ 睡眠時間が短いとムカつくので、不安定にならないようにしている
支援状況 3カ月目 (2024年2月29日)	状況 ・ 利用日数時間：変わりなし ・ 訓練内容：施設外実習・求人検索 ・ 健康状態：スポーツ活動で体をひねり、膝を痛めて受診した 本人の発言 ・ 自分は仕事の訓練ではなくて、人との対話することを大切にしている ・ 3年家に引きこもっていたので、人の意見がきけること、対話できることはいいこと 支援員の発言 ・ 仲のいい利用者の就職が決まったため、影響を受けていい刺激になればと思っている ・ 紹介支援機関の担当者から、良く話すようになり通所の効果がでているとの話があった

支援状況 6カ月目 (2024年5月2日)	状況 ・利用日数時間：変わりなし ・訓練内容：変わりなし ・健康状態：腰痛、膝痛あり。自宅から事業所まで自転車で通うようになった 本人の発言 ・今は体力作りが課題 支援員の発言 ・自転車で40分かけて事業所に週5日通所できるようになったのは大きな成長と考える ・先日の面談では、体力づくりが課題ということと短時間で働きたいと言っていた
支援状況 7カ月目 (2024年6月4日)	状況 ・利用日数時間：変わりなし ・訓練内容：変わりなし ・健康状態：変わりなし 本人からの情報 ・訓練には自分を変えたいと思い、辞めずに通っている。実際に体力もつき、通所前の自分とは変わった
終了面談 8カ月目 (2024年7月5日)	【就職】 ・2024年7月8日から造園会社（伐採した草木の片づけ作業、草刈り）にて就労 ・パート職 週2～3日 8：00～12：00 本人の発言 ・就職の決め手は就労時間が自分にあっていたこと ・施設外実習の内容は難しくなかったが、毎日1時間半動いていたことがよかった 支援員の発言 ・元々働くベースがある方 ・通所するようになって身なりがきれいになった

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2023年11月末

- ・ 数値が大きいほど評価が高い
- ・ 青が初回アンケート結果
- ・ 赤が月末のアンケート結果

1回目と2回目の比較

項目	2023/11/6 (青)	2023/11/30 (赤)
生活リズムの改善	1.5	2.5
マナーの向上	1.0	2.0
体力・健康の改善	1.0	2.0
ストレスコントロールの改善	1.0	2.0
計画づくりや目標設定の改善	1.0	2.0
コミュニケーション能力の向上	1.0	2.0
対人関係の改善	1.0	2.0
状況把握能力の向上	1.0	2.0
対人スキルの向上	1.0	2.0
自己肯定感・自尊感情の向上	1.0	2.0
活動意欲の向上	1.0	2.0
働く自信の向上	1.0	2.0
実行力の向上	1.0	2.0
求職活動状況の改善	1.0	2.0
就業機会の拡大	1.0	2.0
知識や技術の向上	1.0	2.0

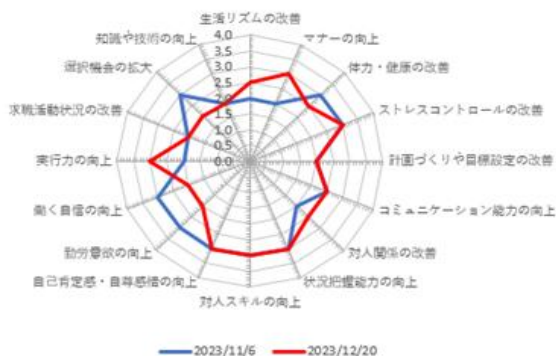
— 2023/11/6 — 2023/11/30

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

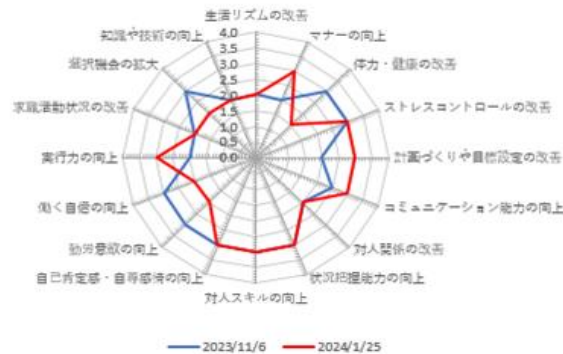
2023年12月末

2024年1月末

1回目と3回目の比較



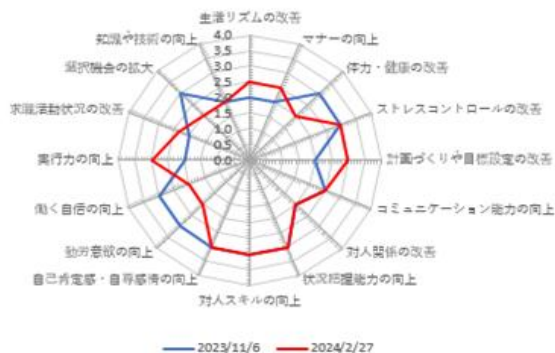
1回目と4回目の比較



2024年2月末

2024年3月末

1回目と5回目の比較

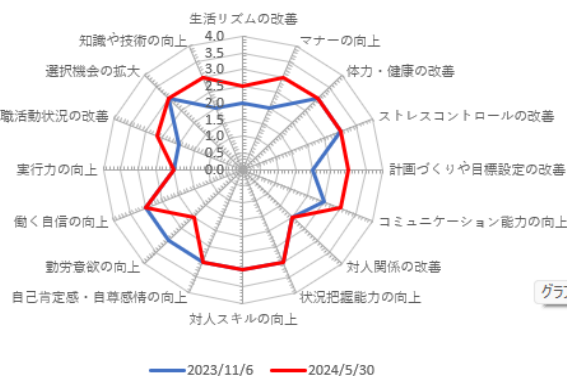
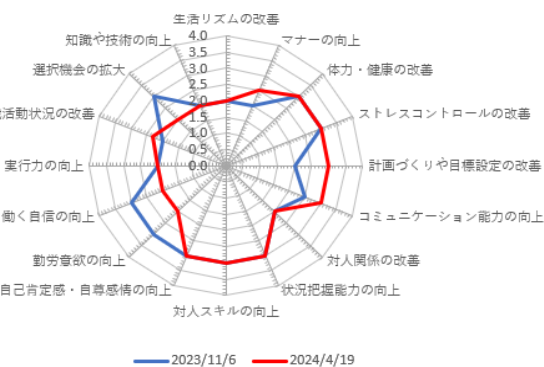


1回目と6回目の比較



2024年4月末

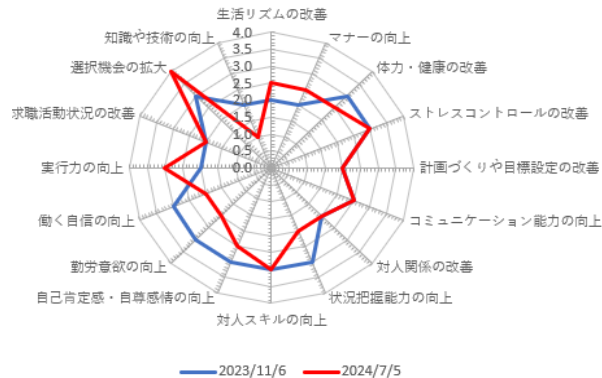
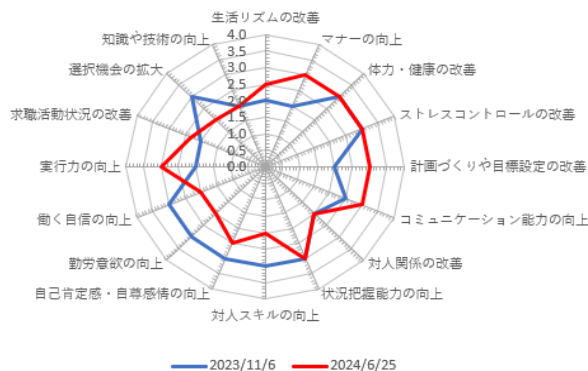
2024年5月末



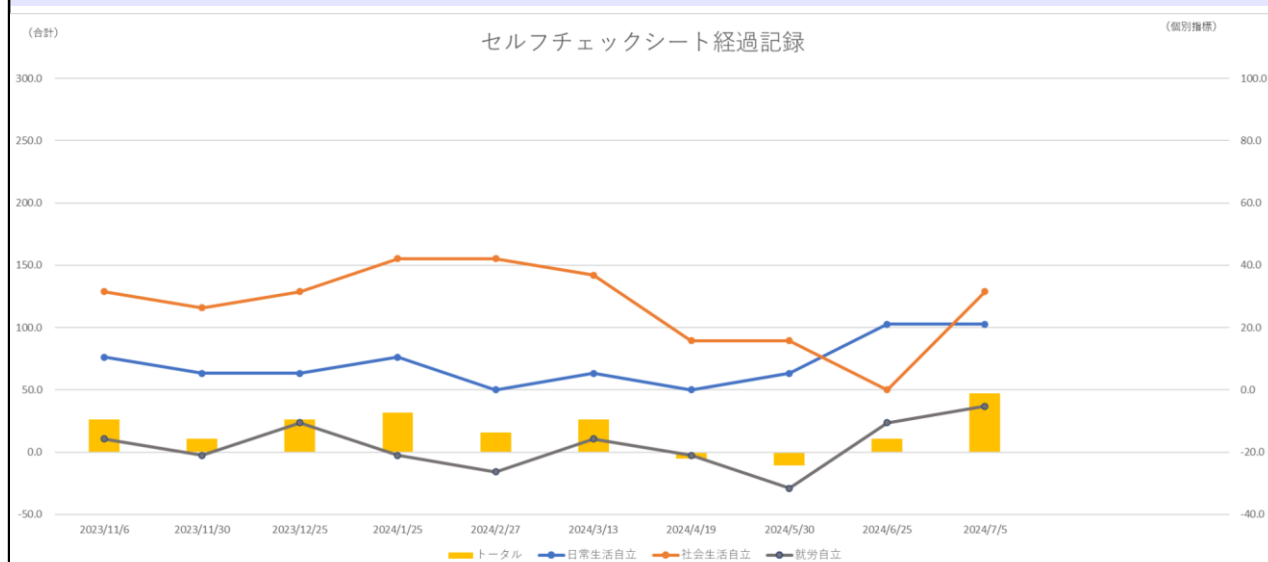
グラフ

2024年6月末

2024年7月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、事業参加時と比べて全体的な上昇が窺える。支援機関に通うことで社会的なつながりを感じることができていると思われる。ただし、11月の支援開始から年度末までに数ヶ月の支援期間があるが、支援状況の詳細が不明である。

<R6年度>

比較的短い利用期間で就労につながった事例である。Q O L としては、3領域で変化なし、社会的領域で低下が見られた。WD事業により定期的に通う場所が設定できたことが効果的であると考えられる。

事例 4 4

地 区	福岡地区	支援機関名	ウイング粕屋
性 別	女	年 齢	20代
紹介機関等	古賀市保健福祉部福祉課		
支援開始年月日	2023/11/06～2024/7/31 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	その他の困難要因		
学 歴	大卒以上		
就労経験	就労経験なし		
無業期間(年)	2年	通算勤務年数(年)	0年
具体的な職歴 就労経験(備考)	大学時代に2週間コンビニでバイトの経験あり (※就労準備支援を1年半受けた後、今年5月から認定就労訓練を半年受けた)		

困っていたこと	・ 大人数が苦手 ・ 情報が多いと混乱する ・ 自分で決めることが難しい（人から指示をもらえる方がいい）
課 題	・ 対人スキルを身につけたい ・ 来春には就職したい
支援内容・詳細	・ 生活リズムを働くリズムに変える ・ 人と関わり、コミュニケーション力を向上 ・ できることを増やし自信をつける ・ 得意・不得意を把握する
事業所での活動に期待していること	・ 対人スキルを身につけたい ・ 職業（企業）実習をしたい
支援状況 1カ月目 (2023年12月21日)	状況 ・ 週2日（木金）10：00～15：00 ・ 訓練内容：施設外実習3か所 清掃・倉庫・こんにゃくの箱詰め ・ 健康状態：変わりなし 本人の発言 ・ 最初はよそよそしかったが、挨拶はできるようになった ・ 話し掛けたい時もあるが、話が終わるときの沈黙が不安になる 支援員の発言 ・ 作業は問題なくできる。清掃では自発的に動き、気がつく ・ わからないところを聞けず、気づいてもらうのを待っている
支援状況 2カ月目 (2024年2月20日)	状況 ・ 1月週3日 2月から週4日 ・ 訓練内容：企業実習先が1か所増えた 清掃は苦手 ・ 健康状態：通所日数が増え少しきついが、筋肉痛はなくなった 本人の発言 ・ 指示されたことをやり、やってから効率とかを考える ・ 失敗を恐れているから空回りする 支援員の発言 ・ 順調に進んでいる

支援状況
6カ月目
(2024年5月9日)

状況
・2月より週3日から4日
・訓練内容：施設外実習（段ボール組立など）、グループ活動

本人の発言
・一度集中が途切れると次に集中するまでに時間が掛かる
・就職については少し不安がある

支援員の発言
・以前、紹介支援機関から「障がいがあると思うが、ご家族の理解が難しい」との情報があっていた。一般就労ができないわけではないと思うが、訓練時こだわりが強くみられるため、就職してもつまづく可能性が高いと思われる

終了面談
9カ月目
(2024年8月5日)

状況
・6月に母親、支援機関担当者に来所していただき、本人が障害福祉サービスを希望したため、医療機関に受診
・社交不安障害の診断がつき、8月1日より障害福祉サービスへ移行し、引き続きウイング粕屋して訓練を継続

本人の発言
・様々な実習体験ができた
・事業所の職員が親切だったので良かった
・WDを利用できてよかったが、利用期限があったため、就職しなければという焦りやプレッシャーがあった

支援員の発言
・本人は一人暮らしを希望しているが金銭管理が課題

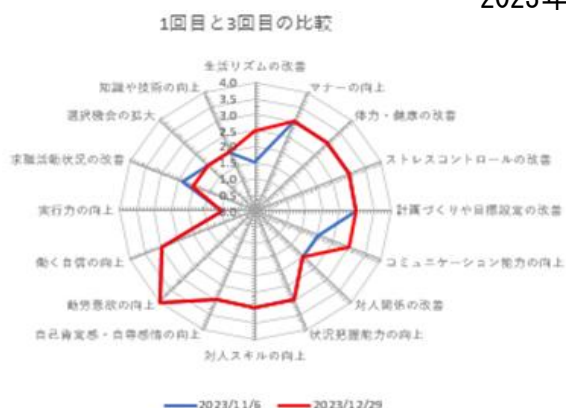
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

2023年11月末



2023年12月末



2024年1月末

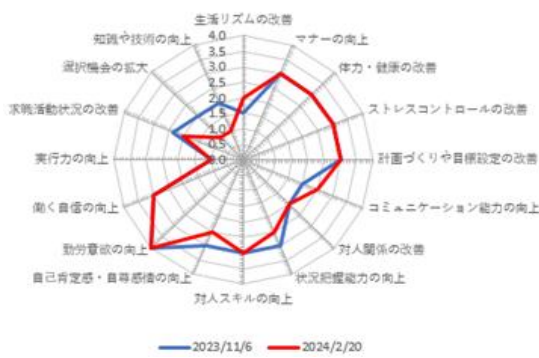


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

2024年2月末

2024年3月末

1回目と5回目の比較



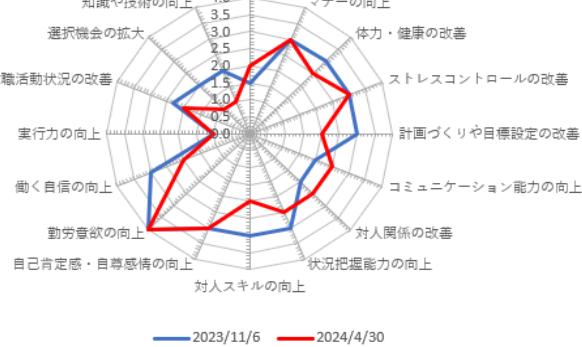
1回目と6回目の比較



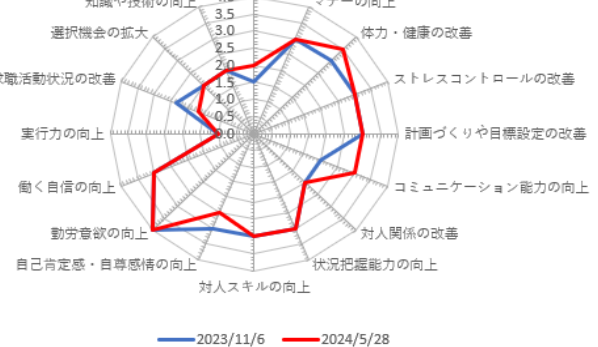
2024年4月末

2024年5月末

1回目と5回目の比較



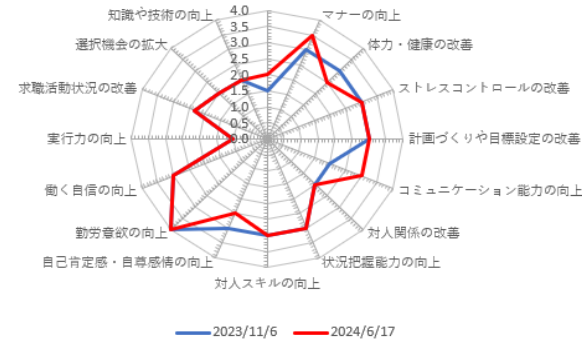
1回目と6回目の比較



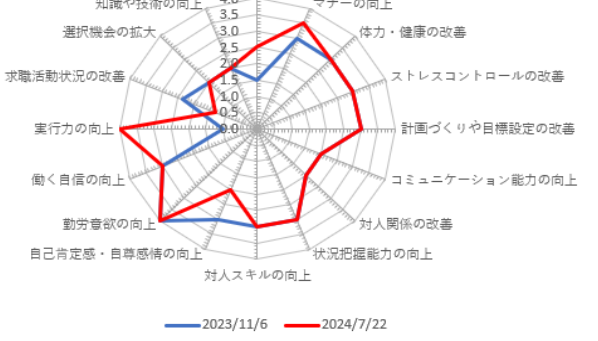
2024年6月末

2024年7月末

1回目と5回目の比較

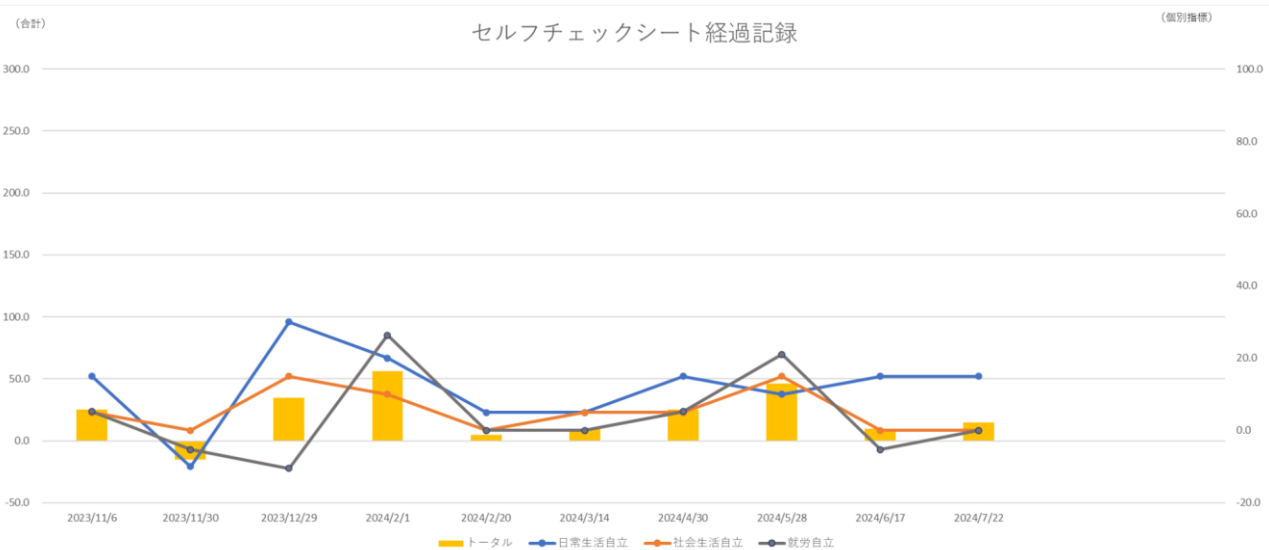


1回目と6回目の比較



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)

セルフチェックシート経過記録



QOLを活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

QOL評価について、事業参加時と比べて特に顕著な変化は認められない。KPS評価より、全体的な傾向として就労に向けた自己評価が高まりつつあることが窺える。
課題にも記載しているように、本人の得意な点を明らかにして就労につなげていくことが求められる。

<R6年度>

障害福祉サービスの利用につながった事例。QOLに大きな変化は見られないが、本人及び家族の医療機関受診の一助になったと考える。診断後にも継続して慣れた事業所を利用できる点は、障害福祉サービス利用に際しての利用者の心理的なハードルを下げるため、WD事業を利用する利用者にとって有益であると思われる。

事例 4 6

地 区	北九州地区	支援機関名	スプラライフ黒崎センター
性 別	女	年 齢	40代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所		
支援開始年月日	2023/11/20～2024/3/14 訓練終了		
就労困難要因	生活困窮 難病その他の病気、障がい者		
学 歴	高校卒		
就労経験	自営業 フリーランス その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）		
無業期間(年)	5年	通算勤務年数(年)	22年
具体的な職歴 就労経験(備考)	リラクゼーションサロン経営 7年 病院でのリハビリマッサージ パチンコ店等の接客業		
困っていたこと	乳がん術後のホルモン治療による更年期症状（うつ症状、体調不安定）		
課 題	・生活リズムを整える ・体調を整え、体力をつける ・就労に必要なスキルを身につける		
支援内容・詳細	・体調を整えるため活動記録表をつけて生活リズムを整える ・活動記録をもとに振り返りを行う ・必要に応じて受診同行を行い、健康管理のアドバイスを行う ・事務作業や就労に必要なスキルの習得		
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・集中力をつけたい ・生活習慣を整えたい		
支援状況 1～2カ月目 (1月)	1/10 面談の日程調整をしていたが、月2日の利用で。通所が不安定で決まらず。事業所よりテレワークの相談有 (ご本人より) ・通所したいが、抗がん剤治療中のため、化粧やウィッグ等で外出準備に2～3時間かかり、最近吐き気、頭痛も増えて通所ができない ・本人の希望とスプラライフからの提案で、P Cやテキスト、訓練資料をご自宅に持って帰っていただき、在宅訓練を受けていただければと思うが、在宅訓練を提供させていただくことは可能か		
支援状況 3カ月目 (2月)	2/8 事業所に連絡 1月より在宅訓練を開始していたが、結局在宅なので訓練も実施できず、月2回の通所のみであった。働きたいと言われるが、就労できる状態ではないのではないかと思われるため、福祉事務所と面談予定		

終了面談
4カ月目
(2024年3月14日)

※担当者会議 紹介支援機関担当者同席
体調悪化により通所できないことが多いため、体調確認と今後の通所、支援について検討

本人の発言

・体調が安定せず、今後の体調も不安なため、辞めた方がいいと思っているが、仕事をしたいという気持ちもある

支援員の発言

・体調を整えることを優先し、WDは一旦3月で終了して、福祉サービスとしての利用やタイミングが合えば再度WDを利用することもできるのではない

支援機関担当者の発言

・訓練を継続できる状態ではないと思うため、まずは体調を整え、その間に福祉サービスも検討してみてもどうか

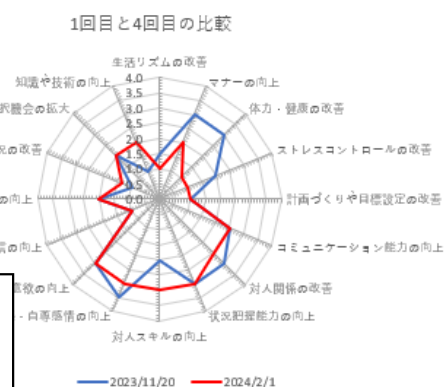
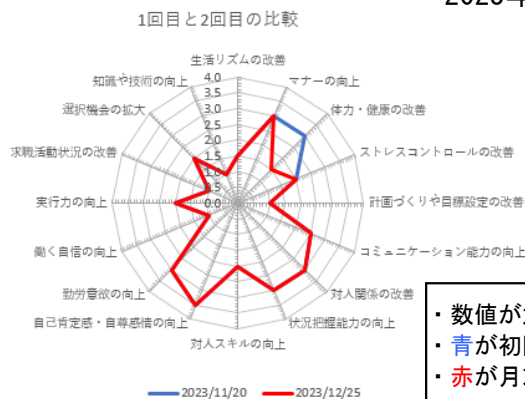
決定事項

・3月27日付けで訓練終了
・体調が整えば、医師の診断書や受給者証により障害福祉サービスとしてプライフ黒崎を利用するか、4月以降WDモデル事業が継続した場合は再度利用を検討する

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

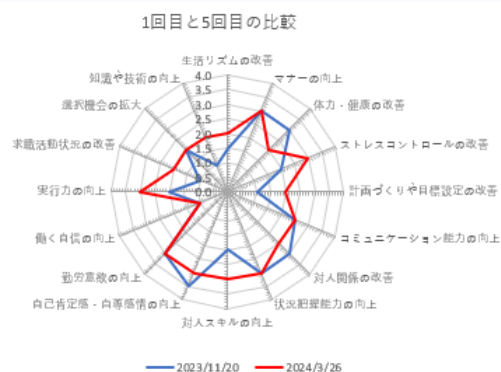
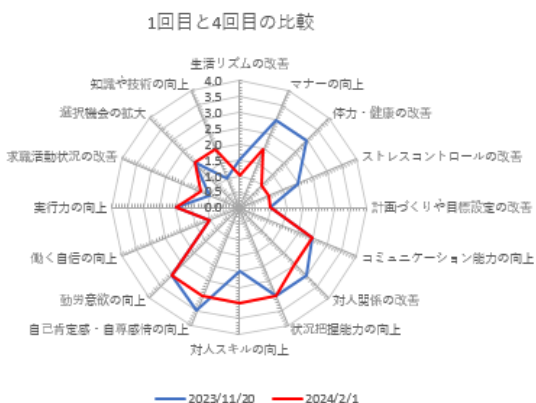
2023年12月末

2024年1月末

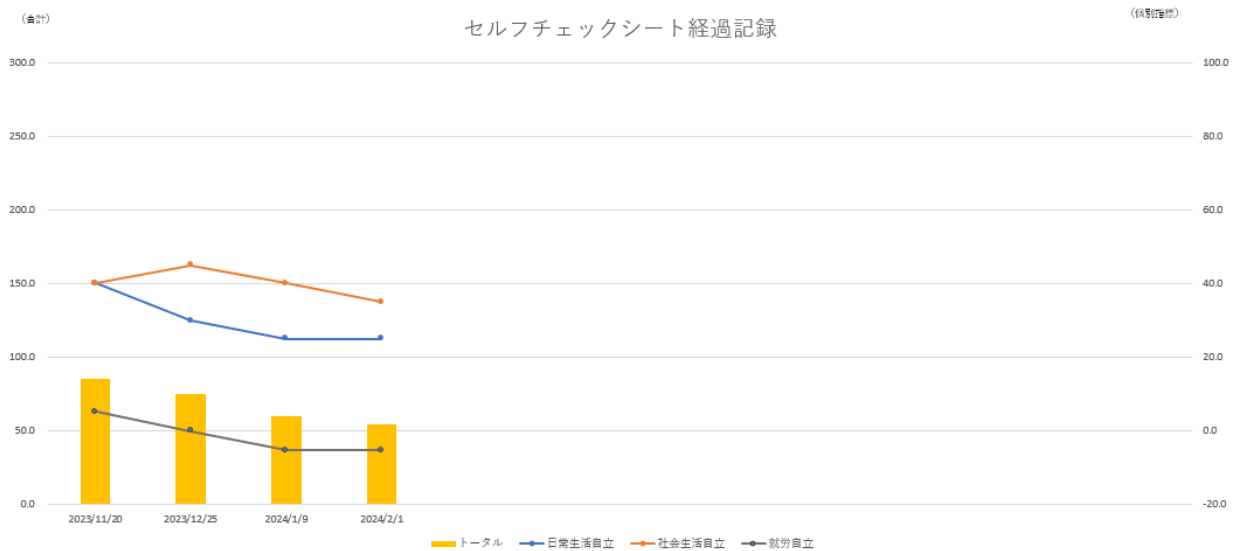


2024年2月末

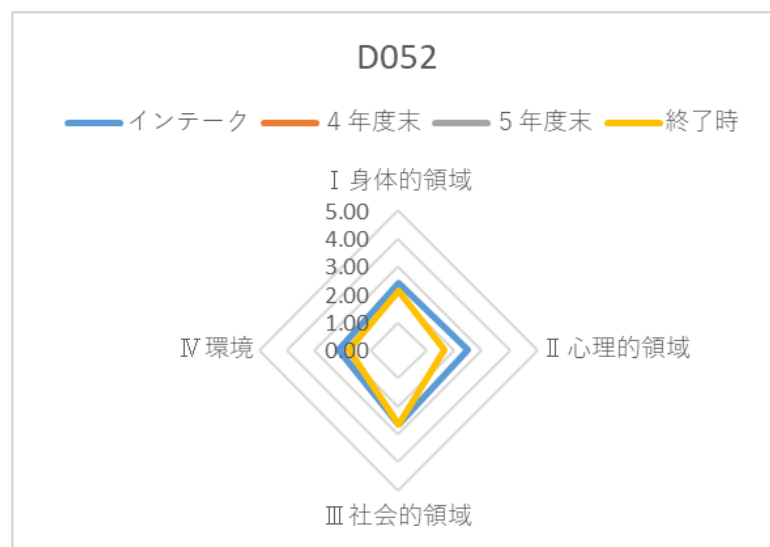
2024年3月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価、K P S 評価ともに低下傾向にある。就労及びその準備を進めることが可能な状態か、医療機関との情報共有が求められる。

事例 4 7

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング飯塚
性 別	女	年 齢	50代
紹介機関等	飯塚市福祉部生活支援課		
支援開始年月日	2023/12/07～2024/07/31 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	生活困窮	母子・父子家庭	
学 歴	中学卒		
就労経験	その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）		
無業期間（年）	1年	通算勤務年数（年）	10年
具体的な職歴 就労経験（備考）	ビルの清掃業 パート 10年 スーパー 土日のみや年末等の単発のアルバイト		

困っていたこと	・ 就職しても指導が外れると教えてもらったことがわからなくなるが聞けない ・ 人より覚えるのに時間がかかり、自信がない
課 題	・ 自信をつける ・ 自分にあった仕事を探す
支援内容・詳細	・ 生活リズムを整え、就職するための体力をつける ・ 実習や活動に参加し環境になれる ・ 出来ること増やし、自信をつける ・ 企業実習にて継続力を身につけ、作業性を高める
事業所での活動に期待していること	・ 集中力をつけたい ・ 働く勘を取り戻したい ・ 仕事が継続できるようになる ・ 自分にあった仕事を探したい
支援状況 1カ月目 (2024年1月16日)	状況 ・ 週3日 10時～15時 先週から週5日 ・ 訓練内容：グループホームで清掃と洗濯の実習、病院での清掃 ・ 健康状態：変わりなし 本人の発言 ・ 色々な体験が出来るのが良い ・ 人と触れ合うことが増えた ・ 清掃は黙々できるところがいい 支援員の発言 ・ 外部見学や体験に意欲的
支援状況 3カ月目 (2024年3月19日)	状況 ・ 週1～2日 午前中2～3時間が多い ・ 訓練内容：内職 ・ 健康状態：睡眠や食欲はとれている 本人の発言 ・ 身体はどうもないが、気分が我慢の限界 ・ 先月くらいから結構休んでいる。家のことで1人になりたいという思いがあった 支援員の発言 ・ 無断欠席で連絡がとれなくなり、就職（清掃）の話はなくなった ・ 障害を抱えた息子さんの不安定さに引っ張られている

支援状況
6カ月目
(2024年6月27日)

状況

- ・週5日 9:00～終了時間はまちまち
- ・訓練内容：製菓会社 菓子の箱折り
- ・健康状態：一番調子が良かったときと比べるとまだ半分くらいだが、体調は戻ってきた

本人の発言

- ・清掃の仕事をしたいと思っていたが、面接にいくと話が違ったり、雰囲気良かったので採用かと思っていたら落とされたので諦めた

支援員の発言

- ・息子さんのことで気分変動が大きい
- ・就職に関して焦っているようで、職員に相談なく求人応募している

終了面談
9カ月目
(2024年8月16日)

状況

- ・8月障害福祉サービス受給者証取得により障害福祉サービスへ移行し、同事業所にて就労移行支援を継続

本人の発言

- ・企業実習は色んなところに行ったが、グループホーム実習で高齢者の方と話すのがよかった
- ・頑張らないといけないと思うほど、心と体が追いつかない
- ・医療機関に繋がりはあった

支援員の発言

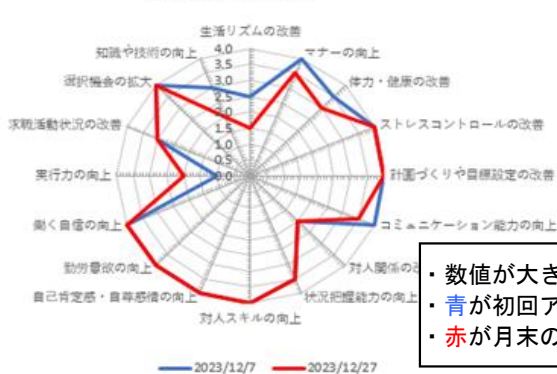
- ・人と関わるのが苦手というが、元々は話し好き
- ・現在意欲が落ちており、メンタル面が心配

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

2023年12月末

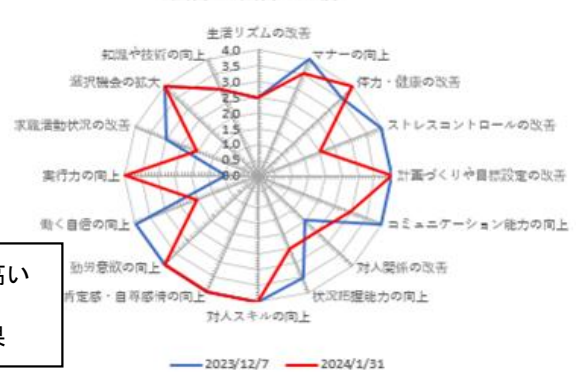
2024年1月末

1回目と2回目の比較



- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

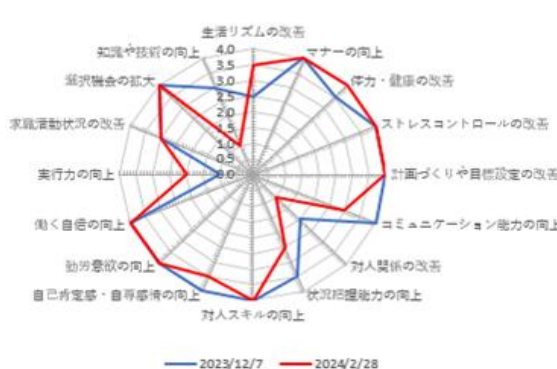
1回目と3回目の比較



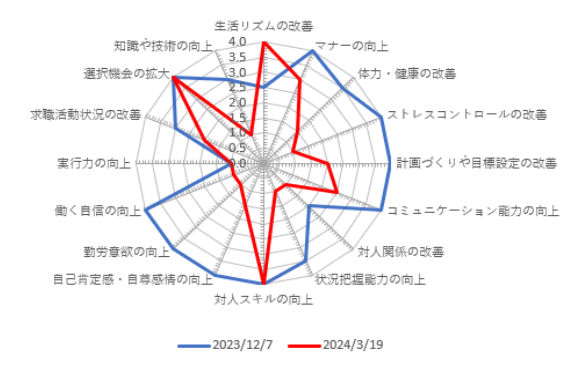
2024年2月末

2024年3月末

1回目と4回目の比較

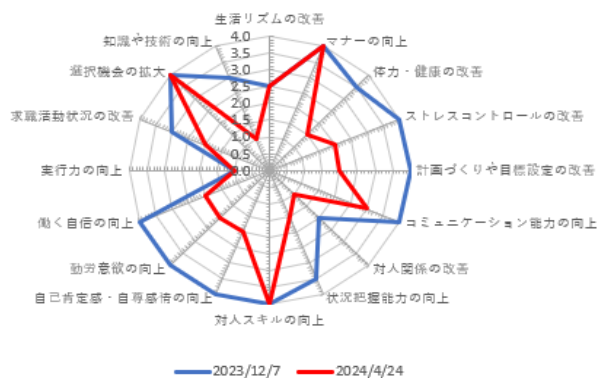


1回目と5回目の比較

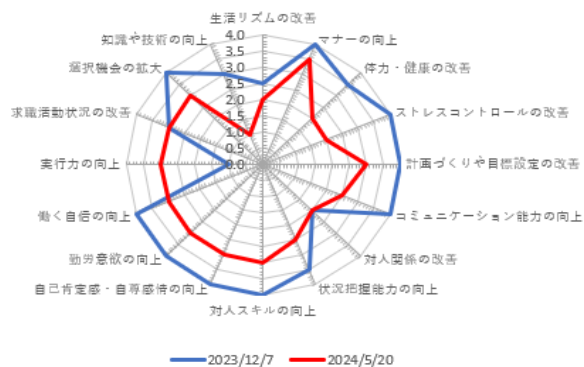


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

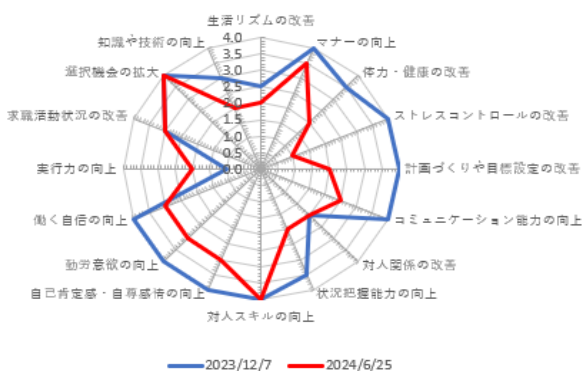
2024年4月末



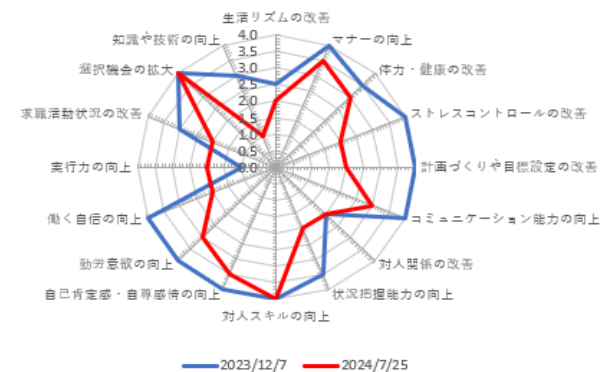
2024年5月末



2024年6月末

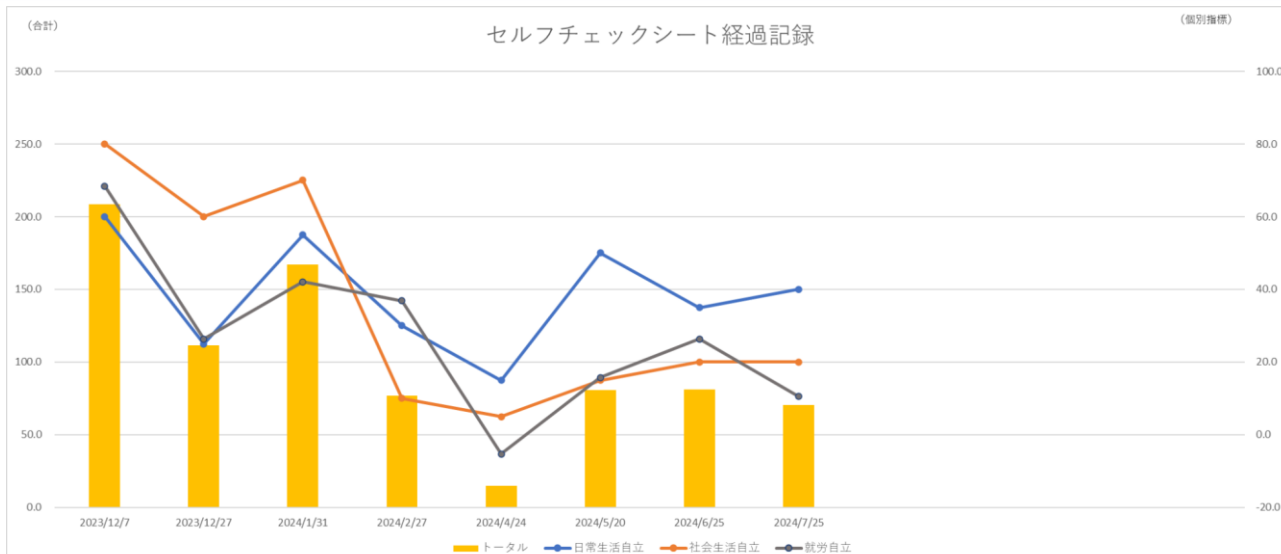


2024年7月末

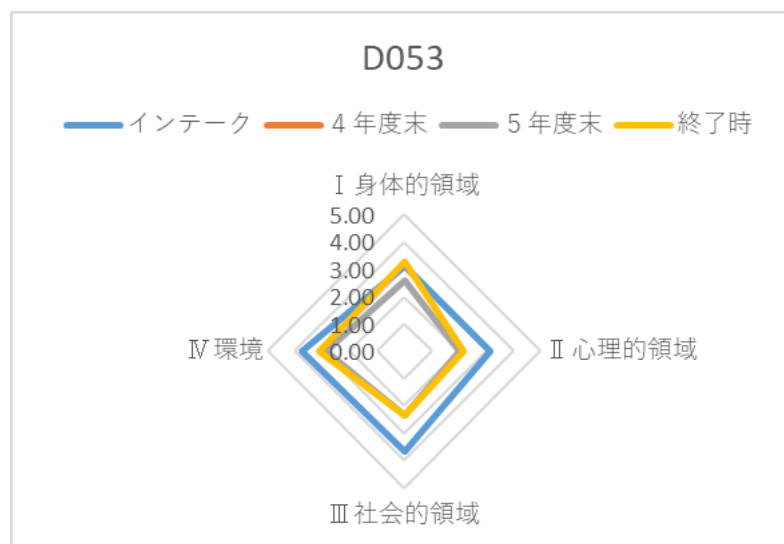


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)

セルフチェックシート経過記録



QOLを活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

QOL評価について、全体的な低下が認められるが、支援状況に記載している情報との関連が明らかではない。KPS評価より、1月末時点で持ち直していることから、経過を見ていく必要があると考える。

<R6年度>

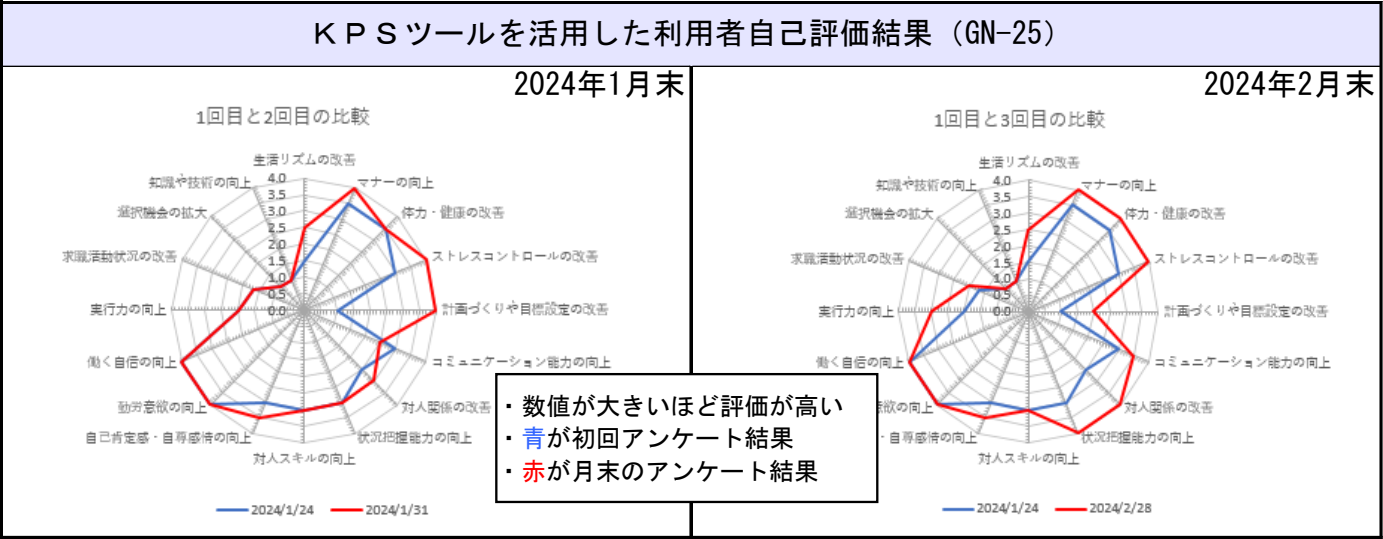
障害福祉サービスの利用につながった事例。QOLはインテーク時よりも低下しているが、前年度末と比べると改善が見られた。利用者と支援者、双方の理解が保たれたまま、障害福祉サービスに移行できる点が良いと考える。

事例 49

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング飯塚
性 別	男	年 齢	10代
紹介機関等	飯塚少年サポートセンター		
支援開始年月日	2024/1/24～2025/3/22 就職		
就労困難要因	その他の困難要因		
学 歴	高校中退		
就労経験	その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）		
無業期間(年)	1年	通算勤務年数(年)	0年
具体的な職歴 就労経験(備考)	ガソリンスタンド（2ヵ月）、工事現場（10日）		

困っていたこと	・ 仕事をしたいが、学歴（高校中退）や年齢で求人がない ・ 社会経験がなく、どうやって働いていいかわからない
課 題	・ 生活リズムを整える ・ コミュニケーション力や社会性を身につける
支援内容・詳細	・ 通所による生活リズムの安定化と体力づくり ・ 企業実習や活動による得手、不得手の確認 ・ 対人スキル、継続力の育成
事業所での活動に期待していること	職場（企業）実習をしたい
支援状況 2ヵ月目 (2024年3月19日)	状況 ・ 週5日 10:00～15:00 ・ 訓練内容 実習（トマト農家と介護施設の清掃） ・ 健康状態 体調いい 本人の発言 ・ 実習の作業は何も考えなくてもやれる ・ 楽しい 支援員の発言 ・ 清掃作業は1週間で覚えている ・ 色んなことに興味を持っている ・ 求人は18歳以上という条件があり、見つけにくい
支援状況 5ヵ月目 (2024年6月27日)	状況 ・ 週5日 ・ 訓練内容：実習はマンション清掃がメイン 午後は座学 ・ 健康状態：問題なし 本人の発言 ・ 訓練が終わったあと、16時～19時に母親の知り合いの農家に手伝いに行っている。バイトではなく無給 支援員の発言 ・ 言葉使いは悪いが素直。色んな活動に参加できている ・ 農家の手伝いに行っているが、母親は好ましく思っていない

支援状況 7カ月目 (2024年8月16日)	状況 ・週5日 ・訓練内容：事業所での座学がメイン ・健康状態：問題なし 本人の発言 ・農家の手伝いは続けている。通所後や土日に行く 支援員の発言 ・農家の手伝いは母親が好ましく思っていないため、見守っている感じ ・就労意欲を保つようにしたい
支援状況 10カ月目 (2024年11月29日)	状況 ・週日：週5日 ・訓練内容：施設内での座学、施設外実習はあまり行っていない ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・単純作業は自分には合わない。時間が経つのが遅いので、身体を動かす仕事がいい 支援員の発言 ・手伝いに行っている農家に就職をするという意思が強く、反対していた母親も今は見守るしかないかなと思っている ・若い子といると羽目を外すことがあり、注意することもあるため、3月までの間にできるだけ社会人教育をしたい
終了面談 14カ月目 (2025年3月13日)	【就職】 ・野菜農家（菜の花や小松菜、ほうれん草等の野菜全般の栽培・収穫に従事） ・正社員 週6日×7時間（＋休憩2時間） ・社員：外国人技能実習生1名、パート2名（収穫期・繁忙期はアルバイト5～6名） 本人の発言 ・座学のコミュニケーション訓練やビジネスマナーはやればできた ・面接練習は中学校の時に何回もやったのでできた（高校受験のため） ・少年サポートセンターとの繋がりはないが、保護司との面談は月1回ある。ちょうど1年になるので、もう保護司も外れる 支援員の発言 ・心配なところがあるが、最初からすると成長したと思う ・コミュニケーションが上手で、素直なところが強み。憎めないところがあった

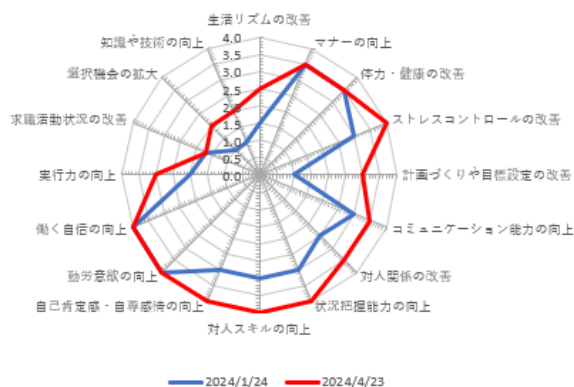
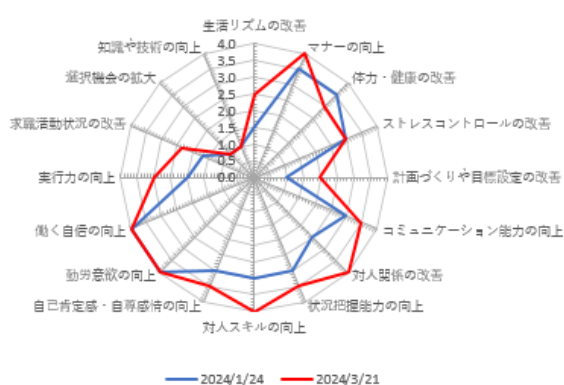


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2024年3月末

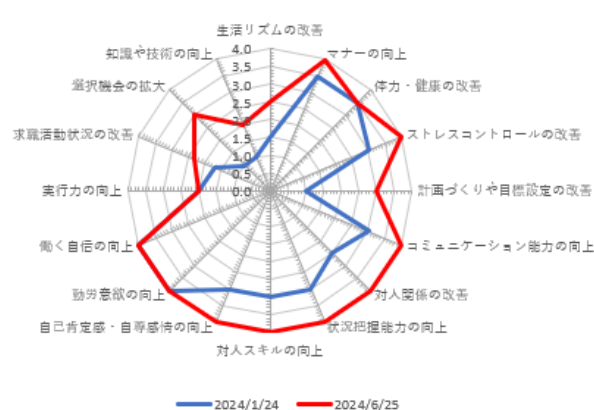
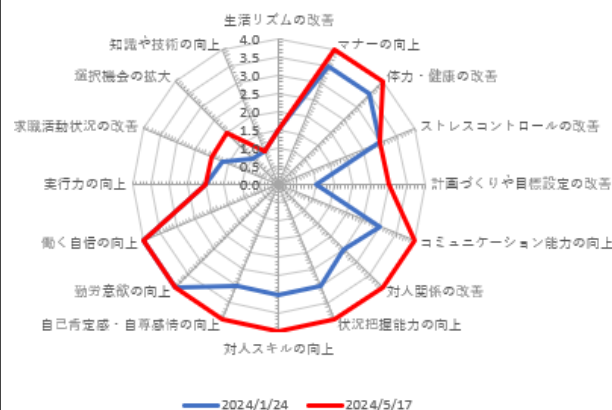
2024年4月末

1回目と4回目の比較



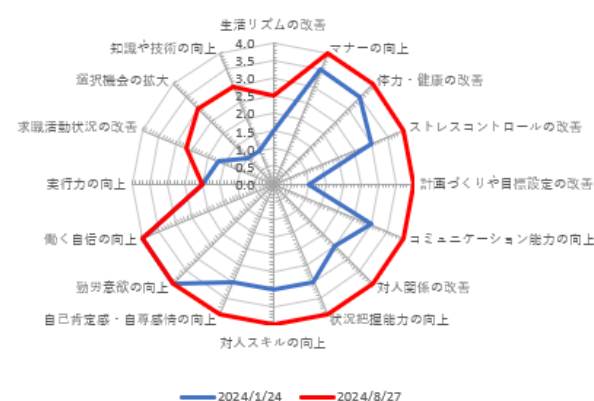
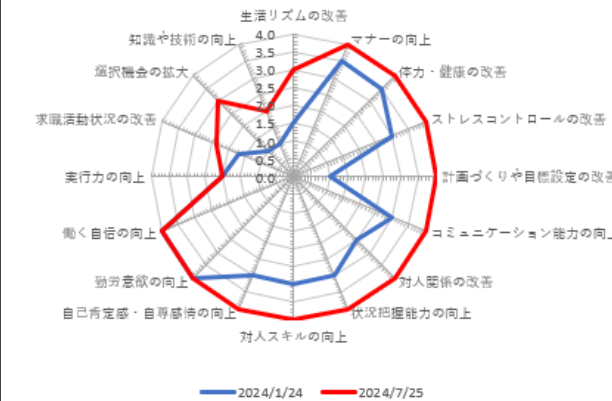
2024年5月末

2024年6月末



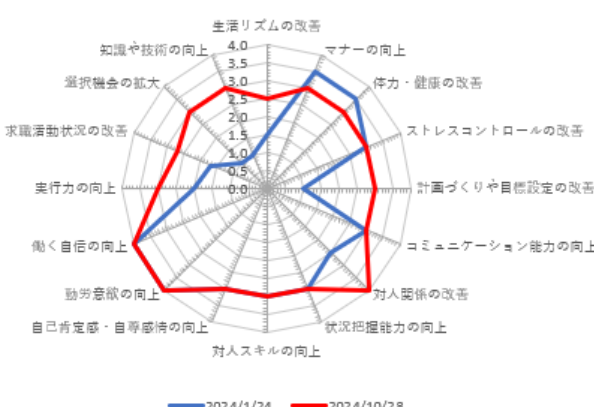
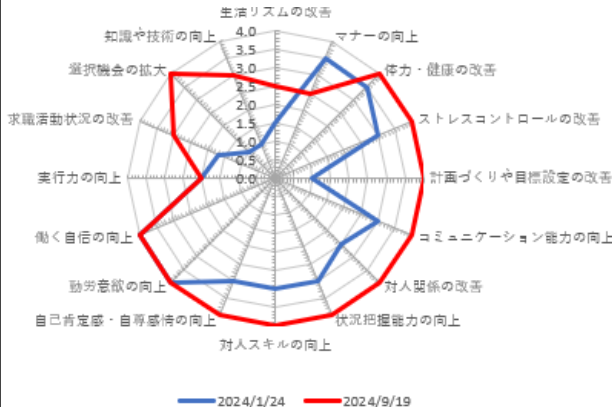
2024年7月末

2024年8月末



2024年9月末

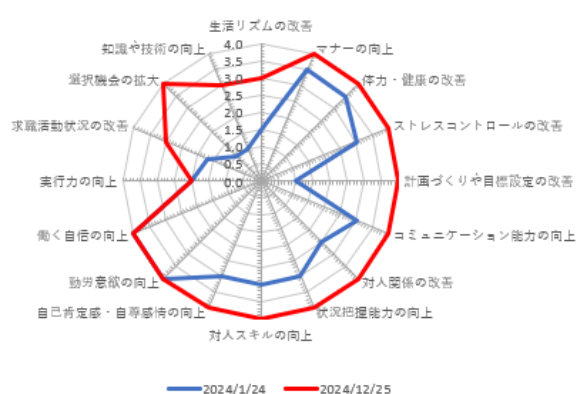
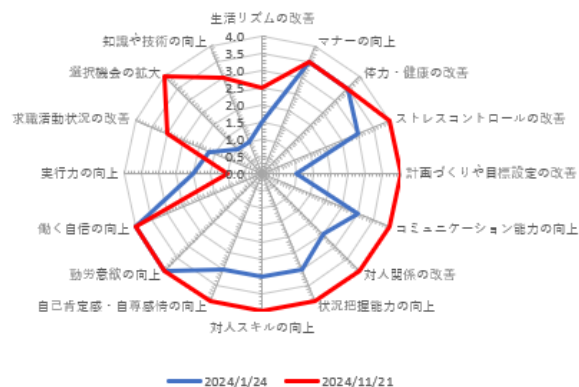
2024年10月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

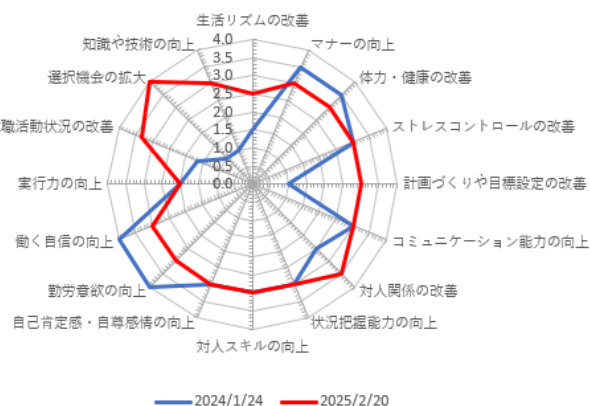
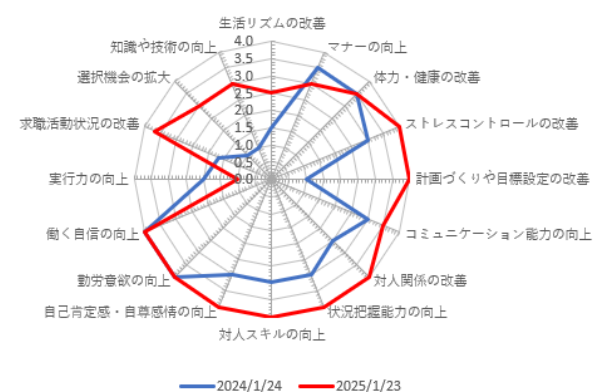
2024年11月末

2024年12月末

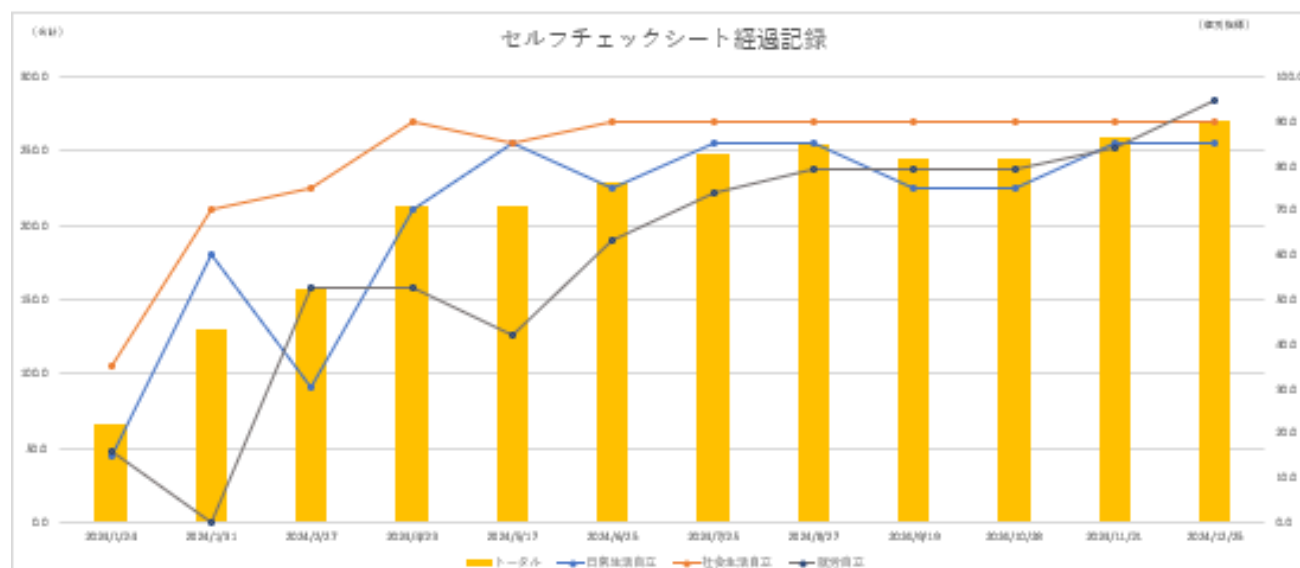


2025年1月末

2025年2月末



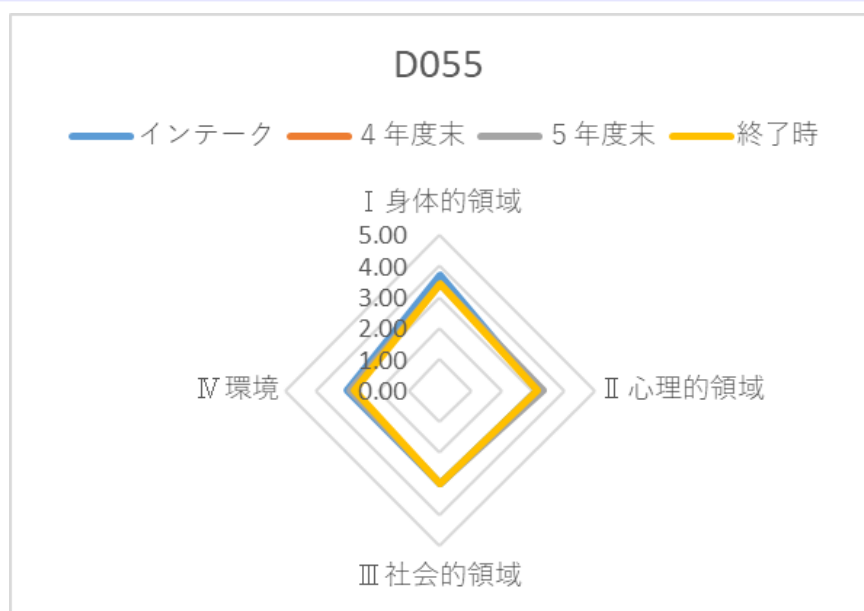
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、顕著な変化はない。本事業参加後、短期間での評価のため経過を見る必要がある。

<R6年度>

就労経験はないものの就労準備性が高い対象者である。家族の理解や職場とのマッチングが重要な要因であったと考える。

事例50

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング直方
性 別	男	年 齢	30代
紹介機関等	宮若市困りごと相談室		
支援開始年月日	2024/02/19～2024/06/28 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	その他の困難要因	生活困窮	
学 歴	高校中退		
就労経験	正社員経験あり	一般就労（パート）	
無業期間（年）	0年	通算勤務年数（年）	20年
具体的な職歴 就労経験（備考）	自動車部品 13年（派遣→正社員） 5～6年前：住宅メーカーの下請け 3ヵ月（正社員） 2020年コロナで仕事がなくなる		

困っていたこと	・吃音、パニック症状に似た症状があり、コミュニケーションが苦手 ・仕事が続かない ・金銭面での不安が大きい ※2023年12月に心筋梗塞で1週間入院
課 題	・コミュニケーション力 ・生活基盤の安定 ・職業能力の見直し
支援内容・詳細	・生活リズムの確認 ・実習に挑戦できるスケジュールの組立 ・職業能力の確認
事業所での活動に期待していること	自信をつけたい 働く勘を取り戻したい 職場（企業）実習をしたい
支援状況 3ヵ月目 (2024年5月15日)	状況 ・週5日 10：00～15：00 ・訓練内容：施設外訓練（野菜の箱詰め、ファンヒーターの清掃）施設内訓練（箱折り） ・健康状態：体力がついてきた 本人の発言 ・通所前は追い込まれていたのがパニックになっていたが、焦らなくなってきた ・実習先は工場系が多いので、他も見てみたい 支援員の発言 ・債務整理をしたことで、落ち着いて話ができるようになった ・作話傾向があったが、なくなってきた ・決められた作業は問題ないが、イレギュラーなことは混乱しやすい

終了面談
5カ月目
(2024年7月9日)

状況

・6月医療機関受診し、軽度精神遅滞、広汎性発達障害の診断がつき、障害福祉サービス受給者証取得により7月1日より障害福祉サービスへ移行。同事業所にて就労移行支援を継続

本人の発言

- ・色々体験できて、苦手なこともみつかった
- ・ブランクがあったので不安だったが、向いている仕事があった
- ・焦りがあったが落ち着いた

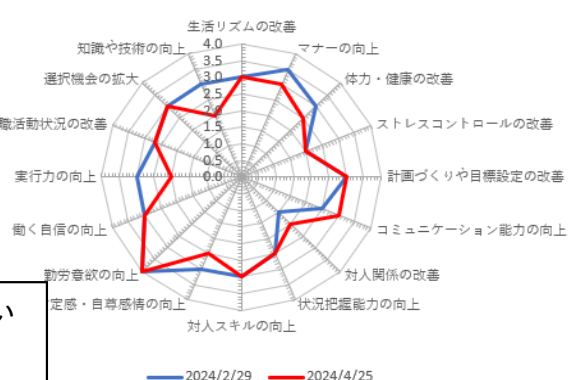
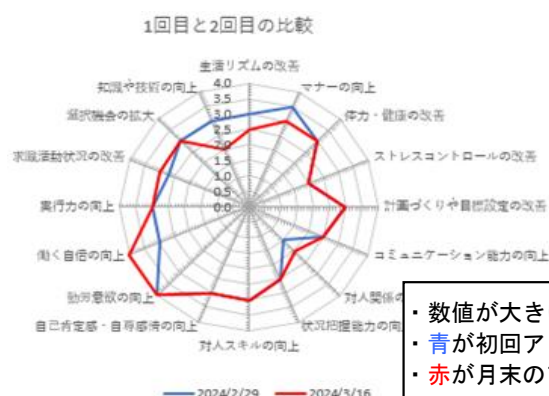
支援員の発言

- ・スタッフが提案した企業に1週間実習に行き、休まず6時間仕事をされた

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

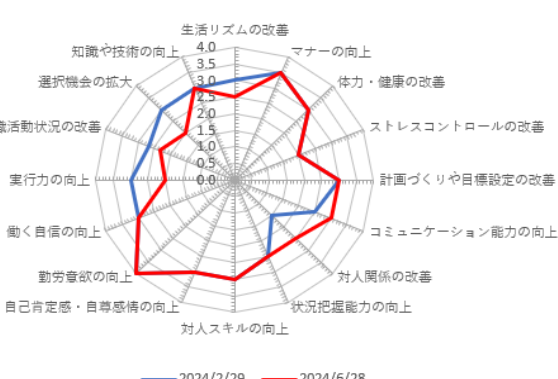
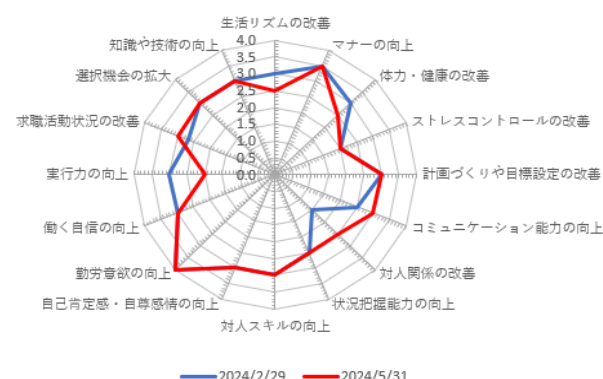
2024年3月末

2024年4月末



2024年5月末

2024年6月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)

(合計)

セルフチェックシート経過記録

(個別指標)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R5年度>

Q O L 評価について、全体的に低く、特に心理的領域や社会的領域、環境の低さが顕著である。今後の支援においては、社会的なつながりの回復と不安感の低減が求められる。

<R6年度>

短期間の利用のため、QOLの変化の考察は慎重に行う必要があるが、全体としては向上していた。WD事業を入り口として、医療機関受診につながり、適切な支援へと移行できたと考える。

事例 5 1

地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング飯塚
性 別	男	年 齢	20代
紹介機関等	小竹高等技術専門学校		
支援開始年月日	2024/04/01～2024/11/29 就職		
就労困難要因	ひきこもり		
学 歴	高校卒		
就労経験	就労経験なし		
無業期間(年)	13年	通算勤務年数(年)	0年
具体的な職歴 就労経験(備考)	なし		

困っていたこと	・働いたことがないため、働くことへの不安がある ・緊張すると声が出なくなり、汗をかく
課 題	・社会にでるための適応力とコミュニケーション力 ・緊張しやすく、ストレスをためやすい
支援内容・詳細	・企業見学やグループ実習等の活動参加 ・業種の絞り込み ・定期面談の実施（不安、緊張軽減）
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・対人スキルを身につけたい ・職場（企業）実習をしたい
支援状況 3カ月目 (2024年6月27日)	状況 ・週5日 09：30～15：00 ・訓練内容：製菓会社の菓子箱折り、テープ貼り ・健康状態：問題ない 本人の発言 ・ミスをするのも慣れるしかないとわかっているが、気持ちを変えれない ・人が多いと目線がきになり、声が出なくなる 支援員の発言 ・ミスについては、不良品をだしているのではなく、スピードや思ったことを言わなかった等の本人が反省したことをミスしたと思っている
支援状況 5カ月目 (2024年9月6日)	状況 ・週5日 1日体調不良で休む ・訓練内容：製菓会社の菓子箱折り、座学 ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・もっと休むかと思っていたが、意外と続いている ・箱折りなどの軽作業は苦にならず割と楽しい。どうしたら早くなるのかと考えて、やりすぎる時もある ・マニュアル通りのことはできるが、想定外のことがあると焦るし、必要以上に考えて落ち込む

終了面談
7カ月目
(2024年11月29日)

【就職】

- ・12月2日から青果卸・関連業務会社（ディスカウストア内勤務）にて就労
- ・パート職 週5日 8:00～12:00

本人の発言

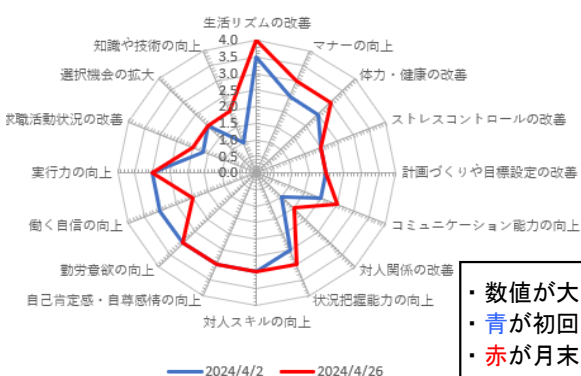
- ・施設外実習はストレスを感じたが、色んな仕事の経験を積めたことは良かった
- ・分からないことを質問できるようになった
- ・苦手な実習先や作業は訓練事業所が変更するなど配慮してくれた

支援員の発言

- ・自分で見つけてきたハローワークの求人に応募。体験実習も行い、自分で決めたことが良かった

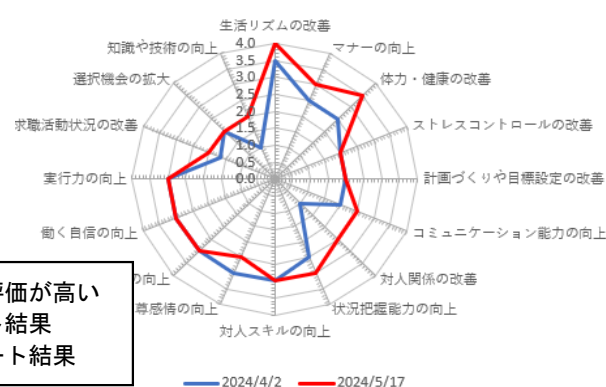
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2024年4月末

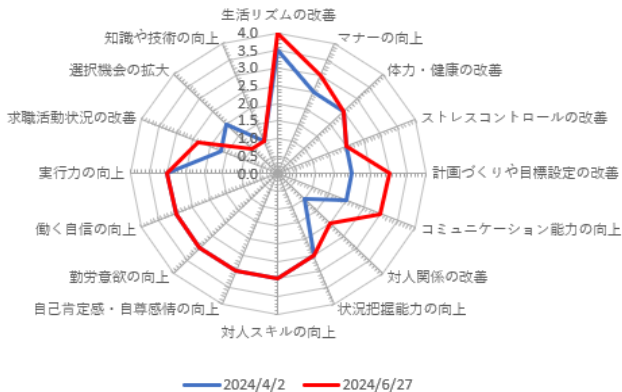


- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

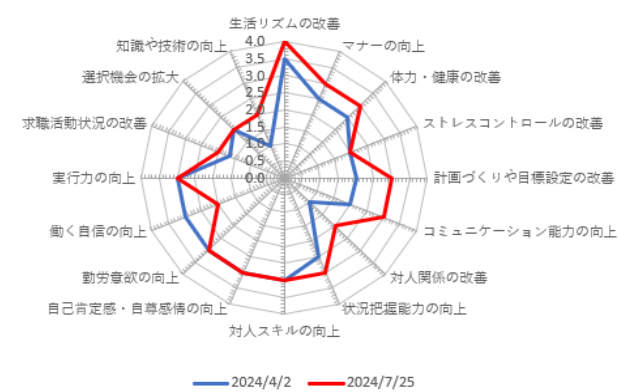
2024年5月末



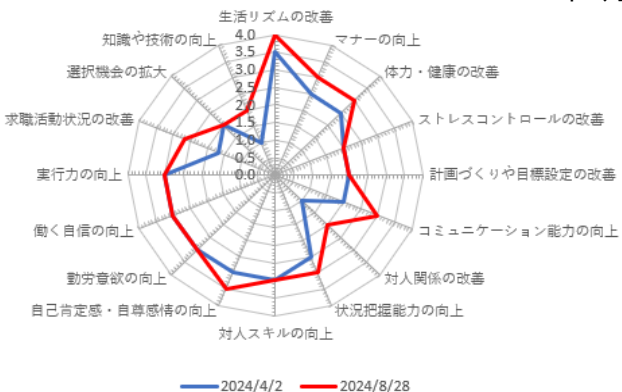
2024年6月末



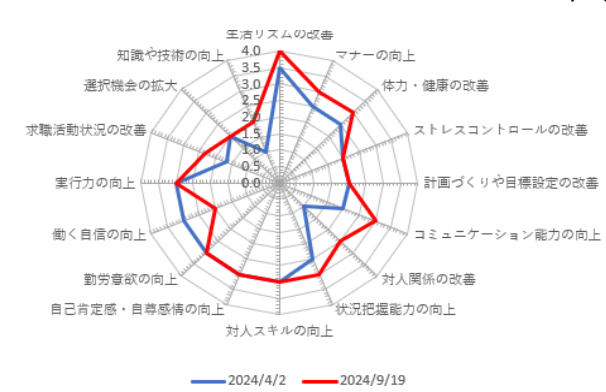
2024年7月末



2024年8月末



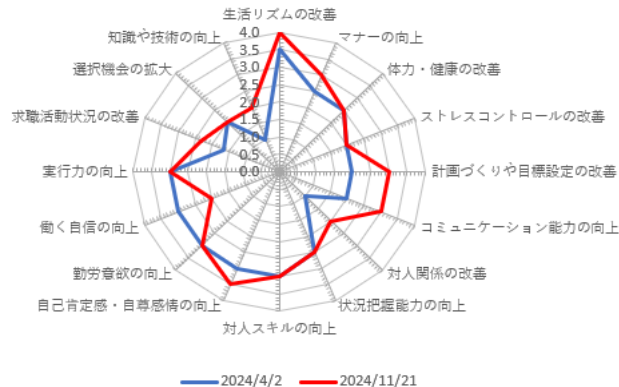
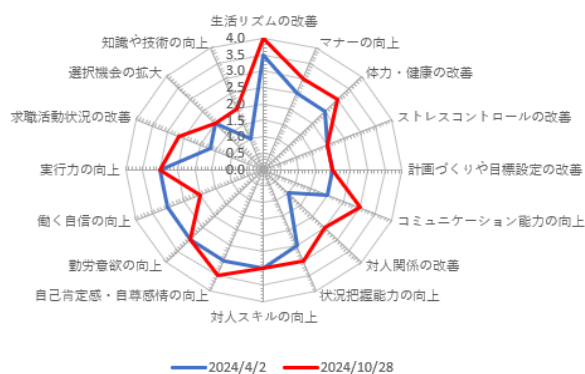
2024年9月末



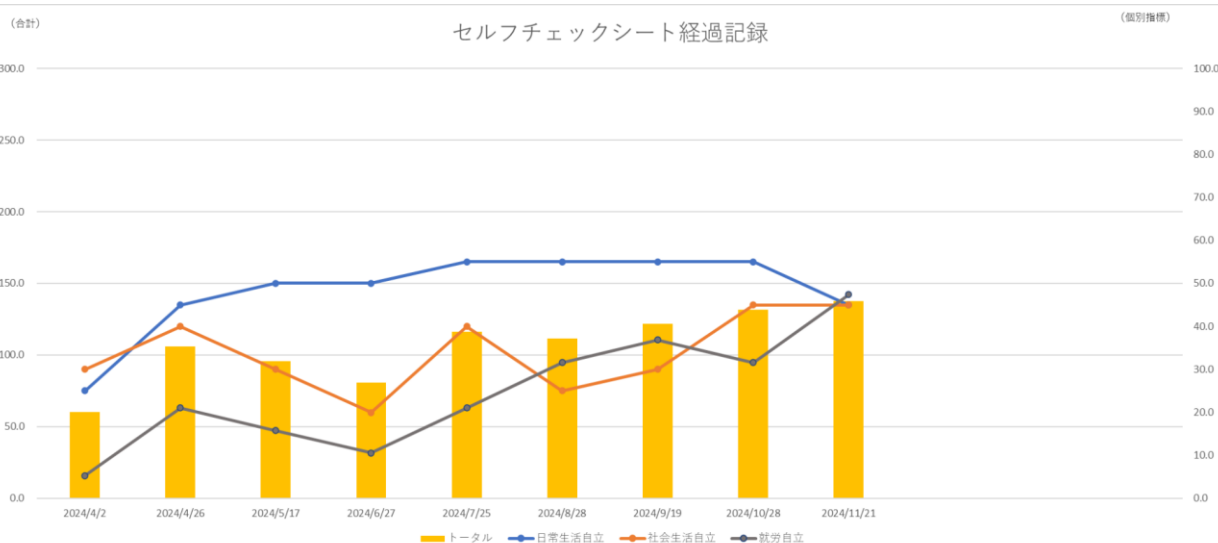
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2024年10月末

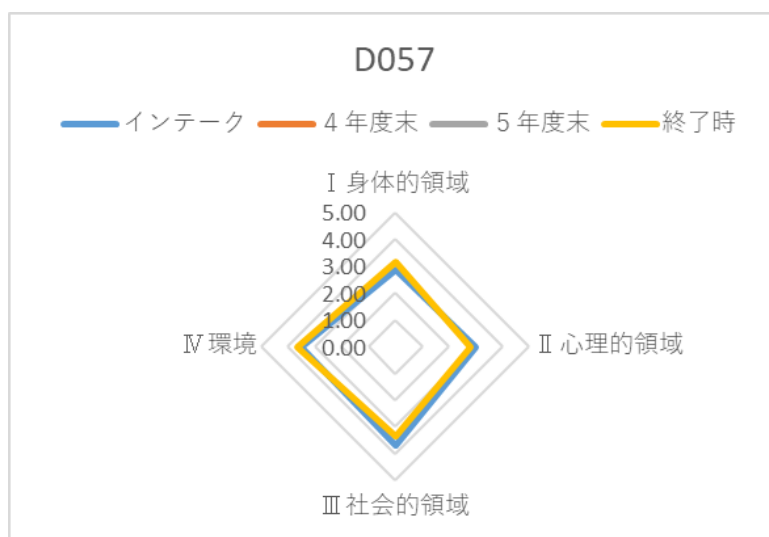
2024年11月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

利用開始時より、一定程度のQOL水準にあった事例である。継続した就業経験がなかったが、様々な就労体験を積む過程で、本人の中で就労に向けた自信を深めたと考える。WD事業での事業所利用が効果的であった。

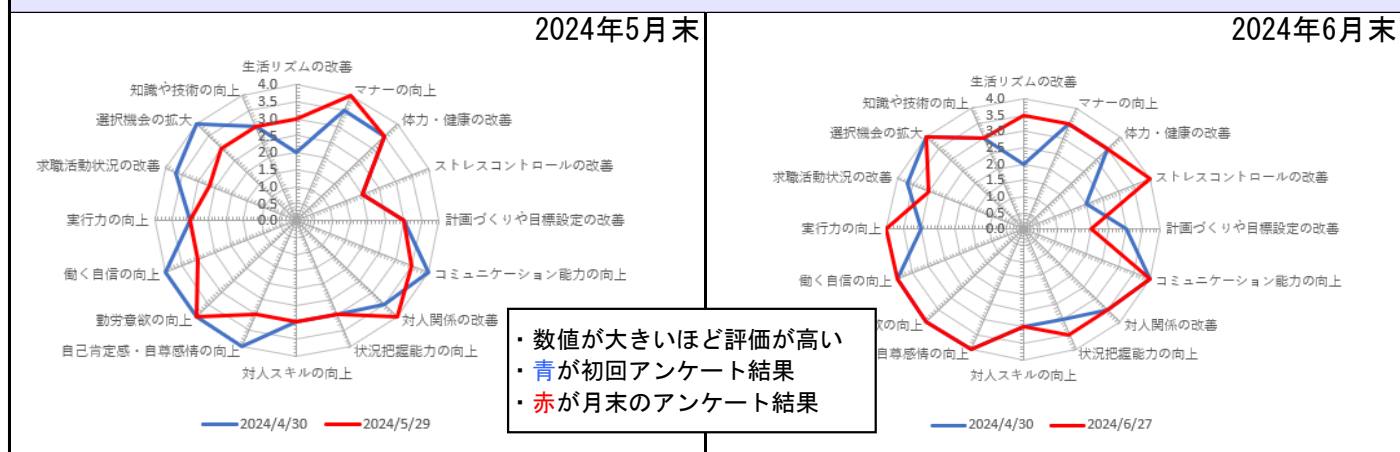
事例5 4

地 区	北九州地区	支援機関名	インクルとばた
性 別	男	年 齢	10代
紹介機関等	北九州若者サポートステーション		
支援開始年月日	2024/04/30～2024/10/31 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	その他の困難要因		
学 歴	高校卒		
就労経験	その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）		
無業期間(年)	0年	通算勤務年数(年)	1年
具体的な職歴 就労経験(備考)	半導体工場1年（二交代：部品洗浄作業）契約社員 正社員採用試験に受からず1年で雇用契約終了		

困っていたこと	・作業の習得に時間がかかる ・自分の意見を言えない
課 題	・自分にどんな仕事合っているのか分からない ・対人スキルに自信がない
支援内容・詳細	・様々な作業や体験を通して自分の適性を知る ・自分に合った働き方、対人スキルを身に付ける
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・集中力をつけたい ・働く勘を取り戻したい ・生活習慣を整えたい
支援状況 1カ月目 (2024年5月24日)	状況 ・週5日 09：30～15：30 ・訓練内容：PC作業（数字チェック、文章入力、タイピング練習） ・健康状態：夜、頭痛と腹痛が続いていて眠れてない 本人の発言 ・魚系か生き物系の仕事に興味がある ・無職は嫌なので、正社員で早く働きたい
支援状況 2カ月目 (2024年6月24日)	家族面談（父親、支援員同席） ※家族に自分の思いを伝えられないため、家族と利用者の思いを共有し支援の方向性を合わせるために開催 状況 ・変わりなし 本人の発言 ・自分に出来ることがないと思うので、前の会社に戻りたい ・魚や船の仕事は興味ある 父親の発言 ・実習をしたらどうかと思っていたが、クリニックの先生から短期間で一気にいろんなことが起きているため、まだ早いのではと言われた 支援員の発言 ・遅刻早退なく、体力、集中力もあることが強みだと思う ・作業は全般的にできる。最初は時間がかかるが、一度自分に落とし込む事ができると継続してできる

支援状況 3カ月目 (2024年7月3日)	家族面談（父親、支援員同席） ※父親主導で障害福祉サービス移行の手続きを先行しているため、再度利用者の思いを共有 状況 ・ 変わりなし 本人の発言 ・ 漁師に興味があるので、海のハローワークに行ってみたい 支援員の発言 ・ 漁業就職説明会に参加予定。漁業体験があるようなので、積極的に進めたい
支援状況 5カ月目 (2024年9月4日)	状況 ・ 訓練内容：製造会社で企業見学・体験実習（フルタイム1週間） ・ 健康状態：体調は良い 本人の発言 ・ 体験実習は自分には合ってるかなと思ったが、ずっと働けるかと思うと違うと思った 支援員の発言 ・ 企業実習は無遅刻無欠席だったが、自発的な動きがなく指示が必要で、雇用する状態に達していないとの評価を受けた
支援状況 5カ月目 (2024年9月19日)	家族面談（父親、支援員同席） 支援員より ・ 漁業体験、企業実習の振り返り、訓練のアセスメントを提示し、本人の得手不得手を説明 ・ 障害福祉サービス移行の説明
終了面談 6カ月目 (2024年10月31日)	状況 ・ 療育手帳（軽度知的障がい）、障害福祉サービス受給者証取得したため、11月1日より障害福祉サービスへ移行し、同事業所にて就労移行支援を継続 本人の発言 ・ 集中力がついた ・ 年内には就職したい 支援員の発言 ・ 父親と話すようになり、意見を言えるようになっている

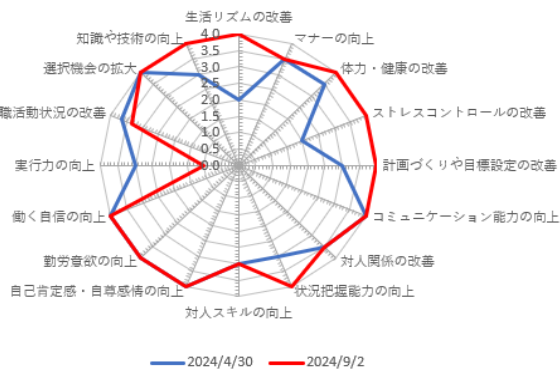
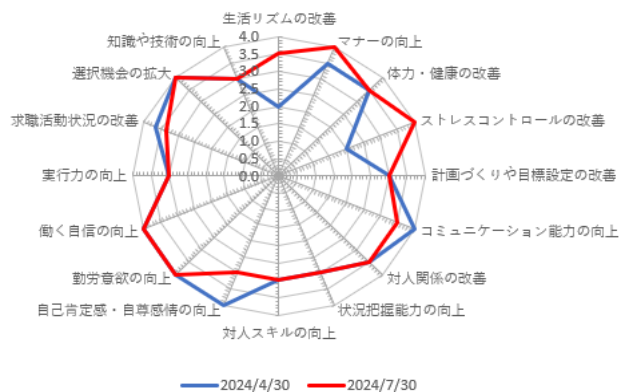
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

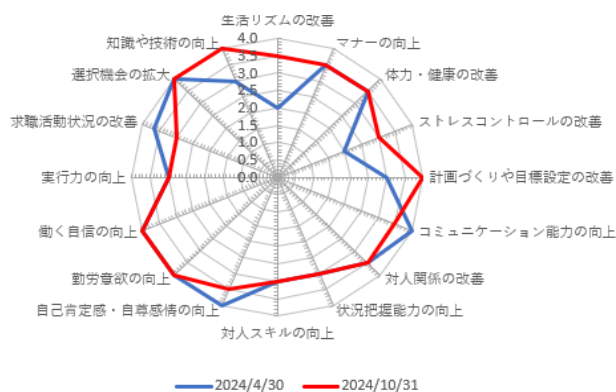
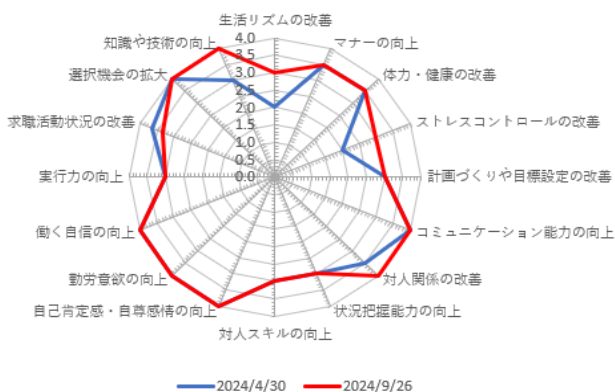
2024年7月末

2024年8月末



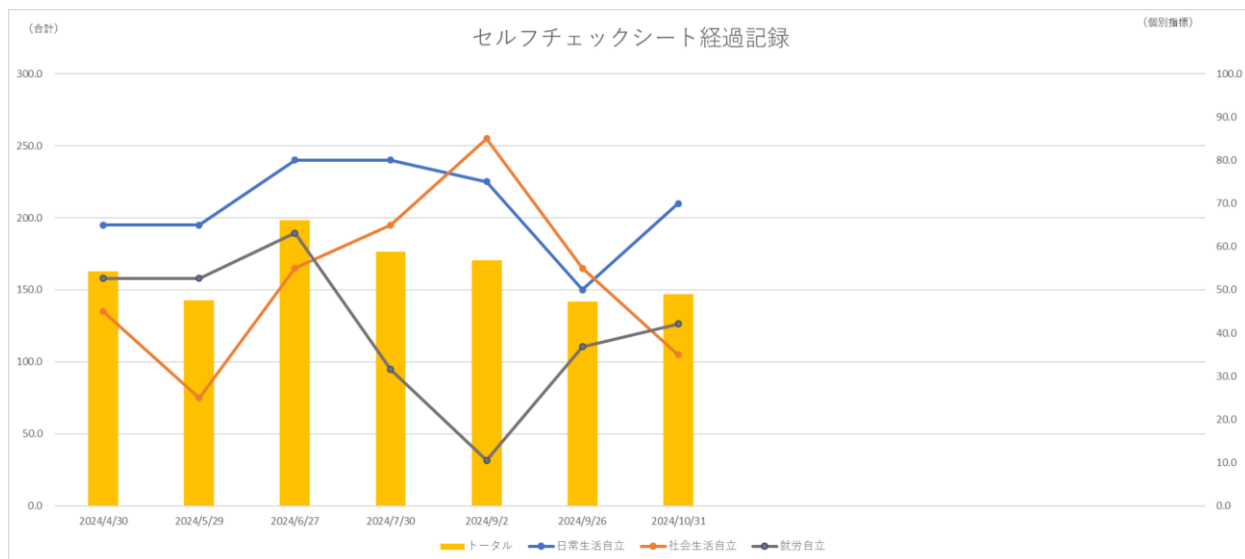
2024年9月末

2024年10月末

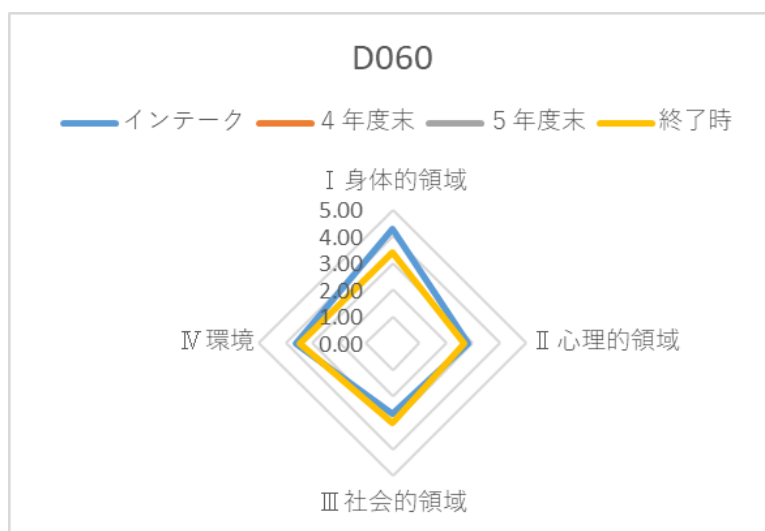


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)

セルフチェックシート経過記録



QOLを活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

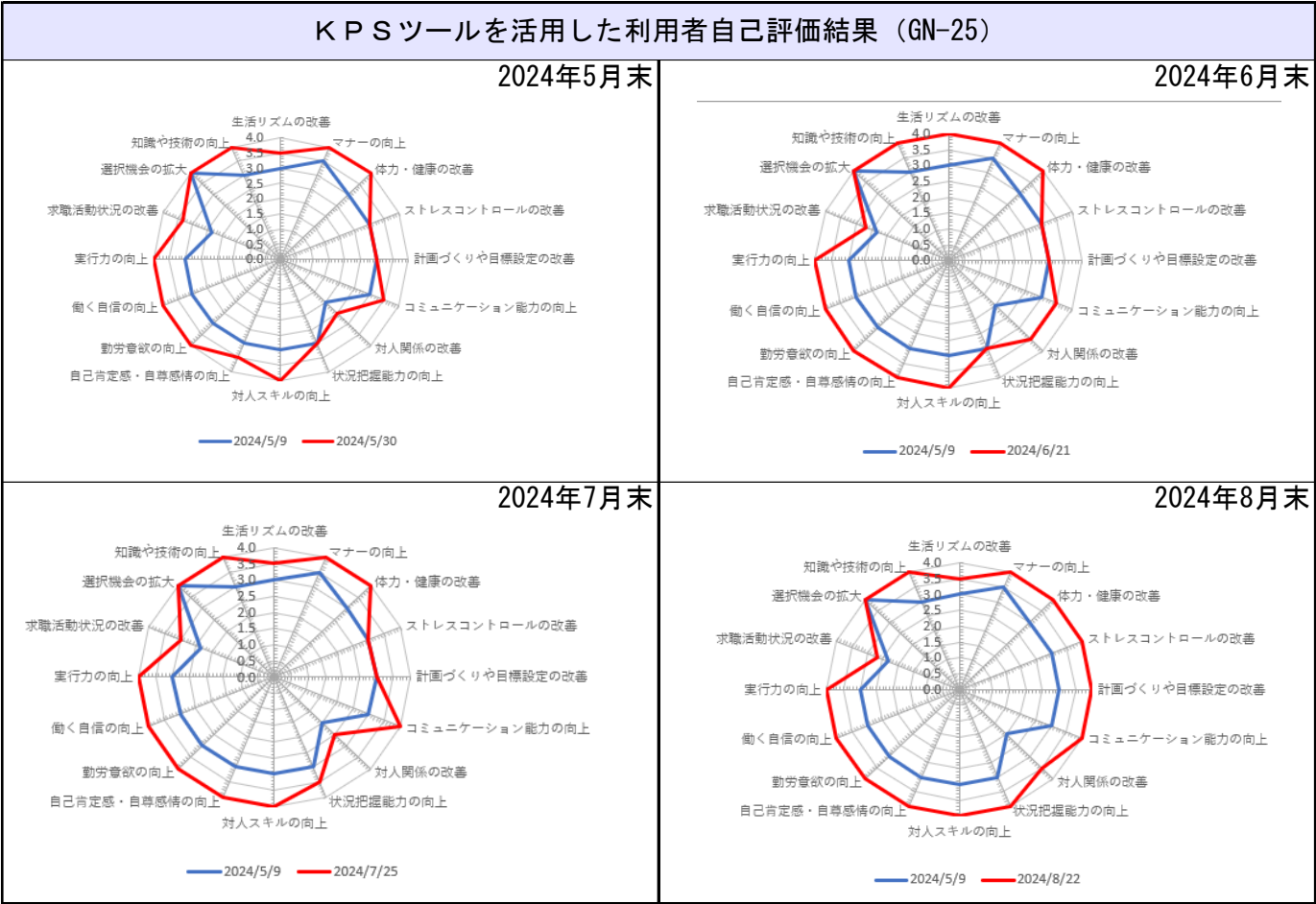
障害福祉サービスの利用につながった事例。QOLはインテーク時と同水準にあった。支援者が本人の意向を尊重しながら丁寧に支援をしていることが窺える。支援者が介在することで父親との関係性にも変化がみられた。利用者と支援者、関係者の理解が保たれたまま、障害福祉サービスに移行できる点が良いと考える。

事例 5 5

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	男	年 齢	50代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2024/05/08～2024/11/29 就職		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり 一般就労（パート）		
無業期間（年）	4年	通算勤務年数（年）	25年
具体的な職歴 就労経験（備考）	建築設計会社 CADオペレーター（正社員） お好み焼き屋の店員 4店舗（雇用形態不明） スーパーの青果部門 3社（正社員・パート）		

困っていたこと	・ 対処スキルがない ・ 自信がない
課 題	・ 職場での対人関係 ・ 困りごとを一人で抱え込む ・ 体力面の向上
支援内容・詳細	・ 体調管理、体力の向上 ・ 実習を通して職場での対人関係を確認 ・ 振り返り面談による課題解決
事業所での活動に期待していること	・ 自信をつけたい ・ 職場（企業）実習をしたい ・ 職業訓練プログラムを受けたい ・ 人との関りについてのストレス改善 ・ 得手・不得手の確認
支援状況 1カ月目 (2024年6月4日)	状況 ・ 週5日 09：30～15：00 ・ 訓練内容：施設外実習（野菜の袋詰め、清掃）、内職 ・ 健康状態：肉体的にも精神的にもバランスがよかった 本人の発言 ・ 少しずつ緊張の度合いが減ってきている 支援員の発言 ・ 職員、利用者ともよく話をされ、とても明るくなった
支援状況 2カ月目 (2024年7月17日)	状況 ・ 利用日数：変わりなし ・ 訓練内容：変わりなし ・ 健康状態：体力が少しずつ上がってきている 本人の発言 ・ 個別実習の誘いがあったが遠かったため断った ・ 年内に就職できるか不安 支援員の発言 ・ 職種の絞り込みができているため、タイミングを見ながら個別実習を進めていく

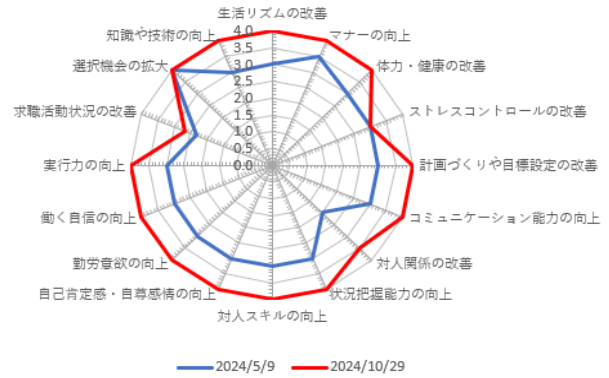
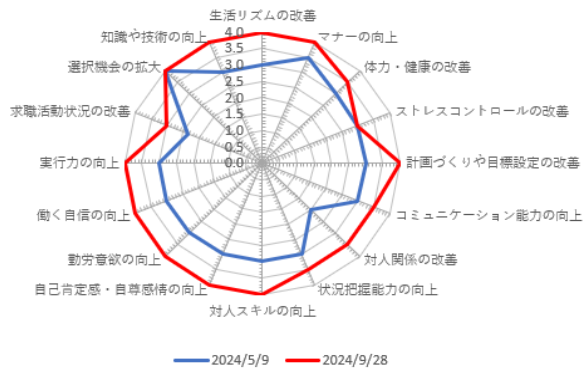
支援状況 3カ月目 (2024年8月28日)	状況 ・利用日数：変わりなし ・訓練内容：変わりなし ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・パート求人の紹介があり、通勤に1時間かかるため断ったが、勤務条件が希望通りだったため、スタッフにしっかり見てもらってと思った 支援員の発言 ・求人を紹介しても理由をつけて断るため、今は働きたいと思っていないとみている ・人と協力してやる仕事より1人でやる仕事が合っているように思う
支援状況 5カ月目 (2024年10月17日)	状況 ・利用日数：変わりなし ・訓練内容：グループ実習、企業見学、事業所内作業 ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・年内に就職をしたい 支援員の発言 ・仕事を遂行するのに周囲の協力を得ながら進めようという意識はなく、全部自己流でやるという意識が強い
終了面談 6カ月目 (2024年11月22日)	【就職】 ・12月2日から青果卸・関連業務会社（ディスカウントストア内勤務）にて就労 ・パート職 週5日 8:00～12:00 本人の発言 ・同じ様な境遇の人達に出会えて話すことができて良かった ・障がいのある方と一緒に訓練を受けたことで配慮の仕方やコミュニケーションの取り方を学び、就職の際に役立った



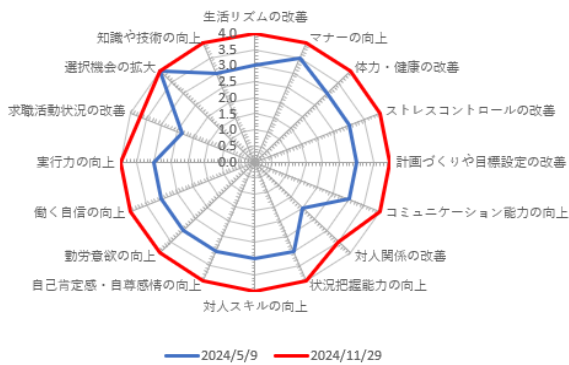
K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

2024年9月末

2024年10月末

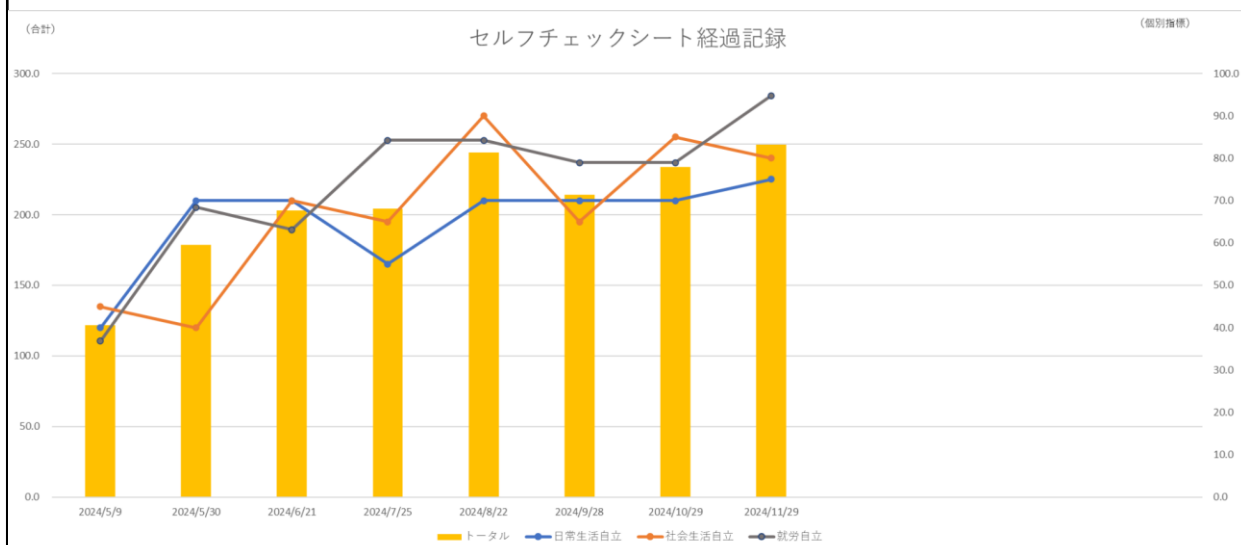


2024年11月末

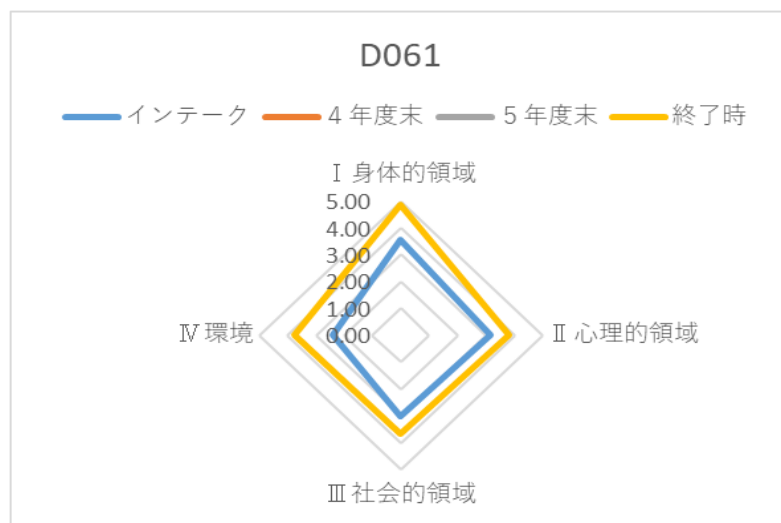


- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（TS-59）



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

全体的なQOLが向上した。25年の就業経験があったが、無職の状態が数年続いたことで自信を喪失していたことが窺える。事業所での活動を通じて自信を回復したと考える。

事例 59

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	男	年 齢	30代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2024/06/05～2024/9/21 就職		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり	その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）	
無業期間（年）	0年	通算勤務年数（年）	9年
具体的な職歴 就労経験（備考）	工場や食品関係の仕事 スイッチの製造（半年）・食品会社（1年半）・ディスカウントスーパー2カ所（2年）（1年）・車のエンブレム検品（派遣）・土木関係（2ヶ月）・電気機械器具製造（3ヶ月）		

困っていたこと	※D037と同一の方 2024年3月電気機械器具製造に就職したが退職 ・体力がない ・自分にあった仕事をみつけ再度就職したい
課 題	・健康管理の維持 ・ストレスへの対処 ・意思表示が苦手
支援内容・詳細	・健康管理の維持 ・実践練習でビジネススキルや対人関係を磨く ・職種選定のための実習機会の拡大
事業所での活動に期待していること	・体を鍛える ・再就職
支援状況 1カ月目 (2024年7月5日)	状況 ・週5日 10:00～15:00 ・訓練内容：施設外実習、施設内作業 ・健康状態：問題なし 本人の発言 ・今後働くときは、短時間からスタートして慣れてから時間を増やしていく ・やりたい仕事はまだわからない
支援状況 2カ月目 (2024年8月28日)	状況 ・週5日 変わりなし ・訓練内容：施設外実習（老人ホーム清掃が増えた）、施設内作業 ・健康状態：問題なし 本人の発言 ・（訓練再開して見えてきたこと）まだない ・家で腕立て伏せをしたり、しっかり食べている 支援員の発言 ・断れずに他の人の作業までやるところがある

終了面談
3カ月目
(2024年9月19日)

【就職】

- ・ 9月24日からリネンクリーニング会社にて就労
- ・ パート 週5日 9:00～15:00

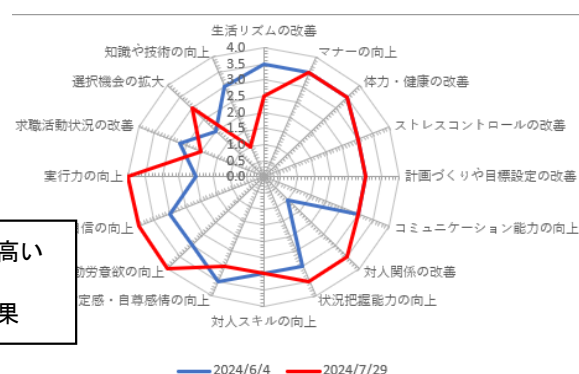
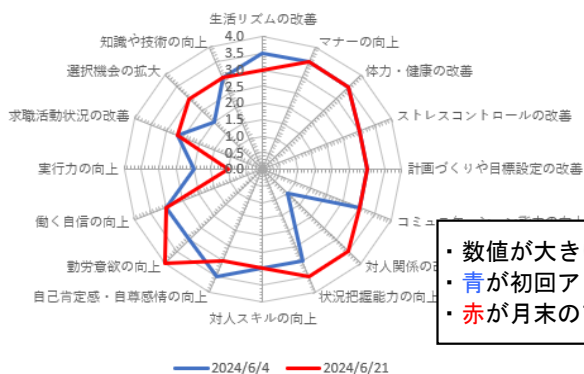
本人の発言

- ・ (訓練再開にあたって) 人が変わっていたので、コミュニケーションが心配だった
- ・ 夏の暑さが心配だが長く続けたい

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

2024年6月末

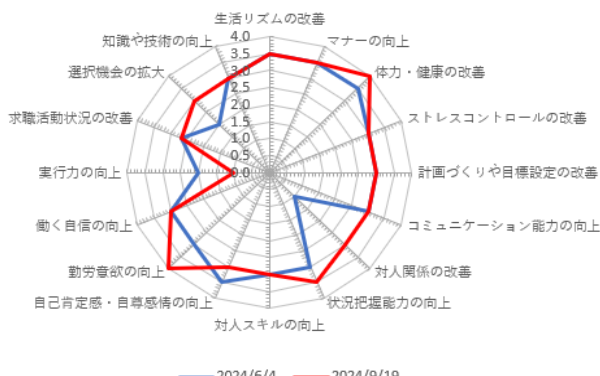
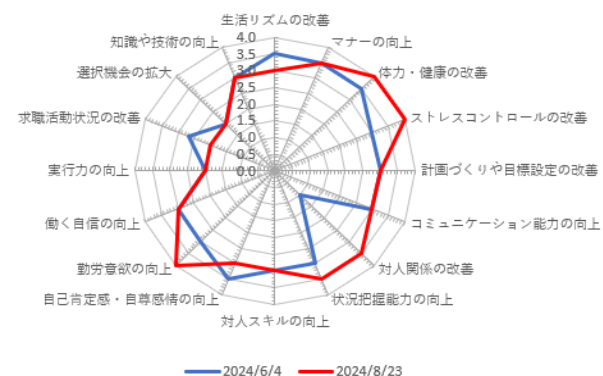
2024年7月末



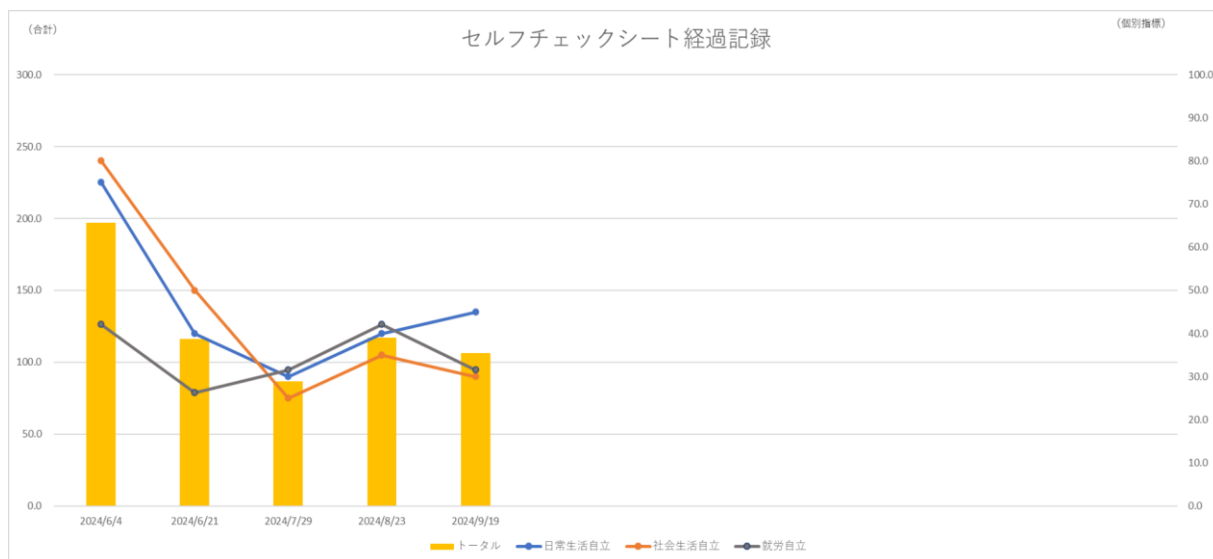
- ・ 数値が大きいほど評価が高い
- ・ 青が初回アンケート結果
- ・ 赤が月末のアンケート結果

2024年8月末

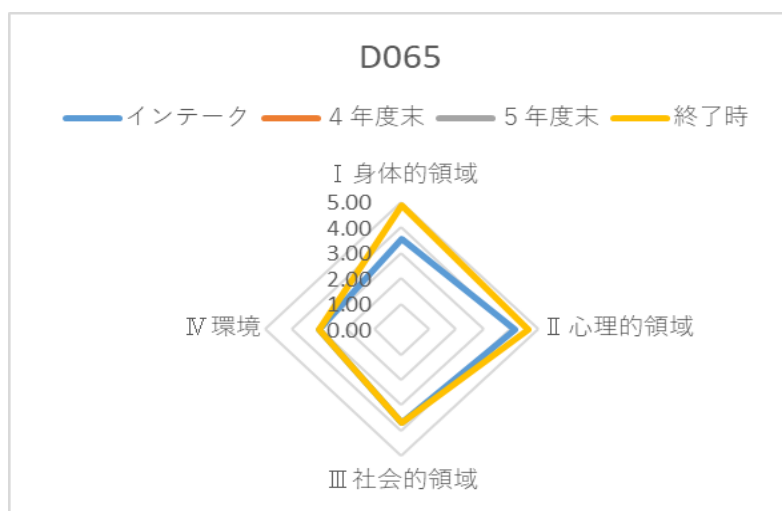
2024年9月末



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

短期間で就職への移行した事例。身体的領域のQOLの変化が顕著である。これは、本人の利用当初の体力がないとの訴えが、WD事業を通じて改善傾向にあることを窺わせる。これまでの職歴からも、状態の変動性が懸念点であり、就労継続に向けた支援が求められる。

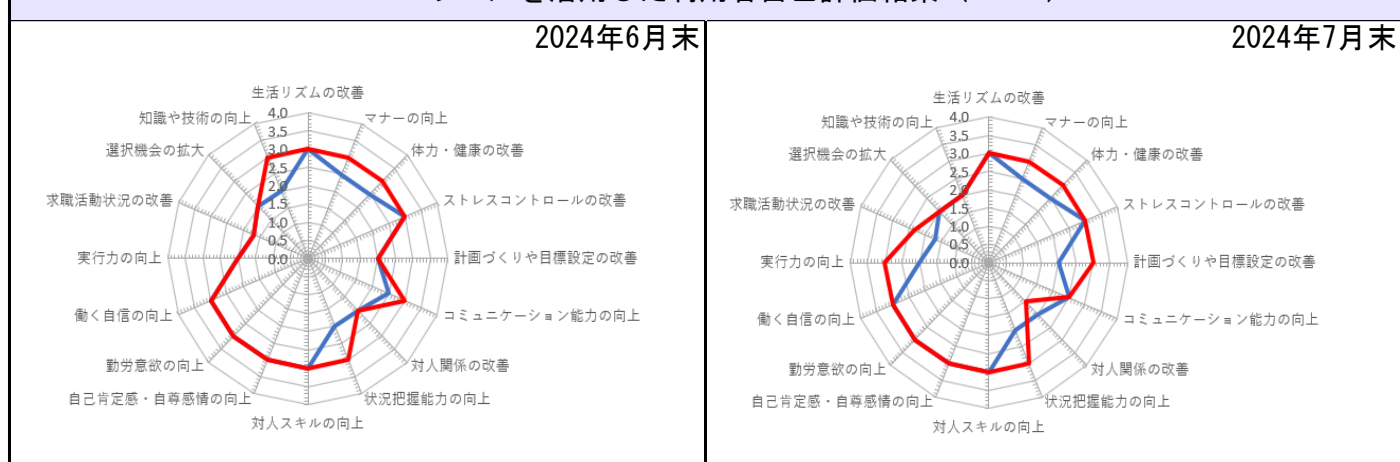
事例60

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	男	年 齢	40代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2024/06/12～2024/12/27 障害福祉サービスへ移行		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	高校卒		
就労経験	正社員経験あり		
無業期間(年)	約18年	通算勤務年数(年)	約9年
具体的な職歴 就労経験(備考)	・ 学生時代に弁当屋でアルバイト ・ 滋賀県で発動機、農機等の製造、販売企業（派遣社員） ・ 携帯電話の部品を作るプレス加工の仕事（正社員）約6年勤務 ・ 品質管理の仕事（派遣社員）2、3年間 ・ セラミック加工会社（派遣社員）2、3カ月 ・ 他、単発での派遣業務		

困っていたこと	・ 無業期間が長く仕事を始めることに不安がある ・ 介護が長かったので睡眠が上手くとれない
課 題	・ 体調管理への不安 ・ 会話に対して苦手意識がある ・ 業種選別
支援内容・詳細	・ 安定した通所による体調管理 ・ 実習を通し得意・不得意を把握 ・ 相談しやすい環境づくり ・ 活動を通しコミュニケーション力の向上
事業所での活動に期待していること	・ 自信をつけたい ・ 働く勘を取り戻したい
支援状況 1カ月目 (2024年7月17日)	状況 ・ 週5日 10:00～15:00 ・ 訓練内容：施設外実習（卵トレイの選別）施設内作業（封入作業） ・ 健康状態：腰痛や腹痛が時々出現 本人の発言 ・ まだ慣れてはいないが緊張は少しずつ減っている ・ 不安なことは特にない 支援員の発言 ・ 求人検索では介護の求人ばかり持ってこられる
支援状況 2カ月目 (2024年8月28日)	状況 ・ 週5日 10:00～15:00 ・ 訓練内容：施設外実習（清掃業）、施設内作業 ・ 健康状態：変わりなし 本人の発言 ・ （感想）特にない。得意・不得意など嫌なものもない 支援員の発言 ・ 利用者とコミュニケーションがとりづらいようで、通所することが苦痛になってきている感じがある

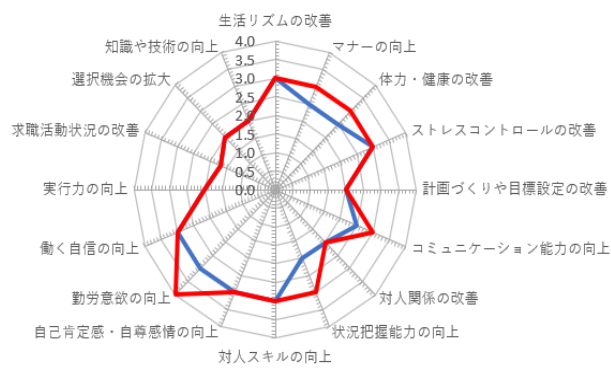
支援状況 4カ月目 (2024年10月17日)	状況 ・週3日 ・訓練内容：施設内作業 ・健康状態：問題はないが休むことが増えている 本人の発言 ・質問に対して、「わからない」か反応がない 支援員の発言 ・表情がなく協調性も見られない ・一般就労は困難と思われるため、障害福祉サービスへの移行を検討している
支援状況 5カ月目 (2024年11月22日)	状況 ・週3日～4日 ・訓練内容：施設内作業、運動 ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・質問に対して無言が多く、意思表示が少ない 支援員の発言 ・心療内科を受診済みで、その結果をもって今後の方向を決める
終了面談 6カ月目 (2024年12月24日)	状況 ・週3日～4日 ・訓練内容：変わりなし ・健康状態：変わりなし 本人の発言 ・仕事はしたいが今は自信がない ・引き続きウイング中間で訓練を受けたい 支援員の発言 ・本人の今後を考え、自閉の疑いがあるがあることを考慮すると障害者手帳は必要と判断 ・本人も引き続きウイング中間で支援を希望しており、福祉サービスに移行して就労を目指すことになった

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果（GN-25）

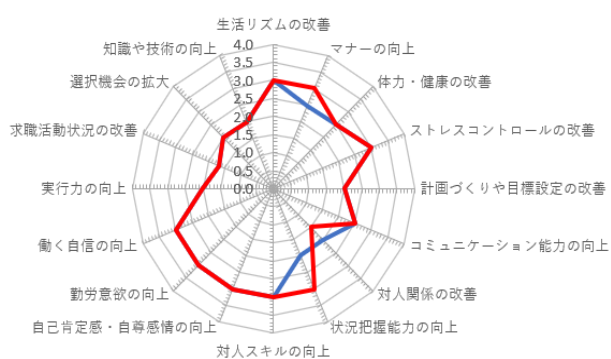


K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

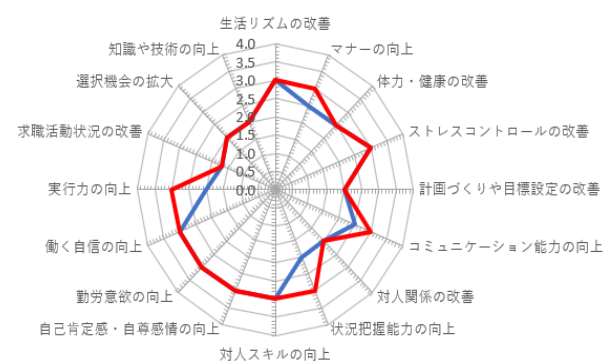
2024年8月末



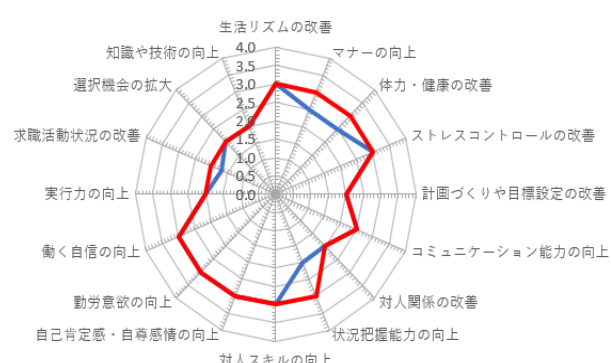
2024年9月末



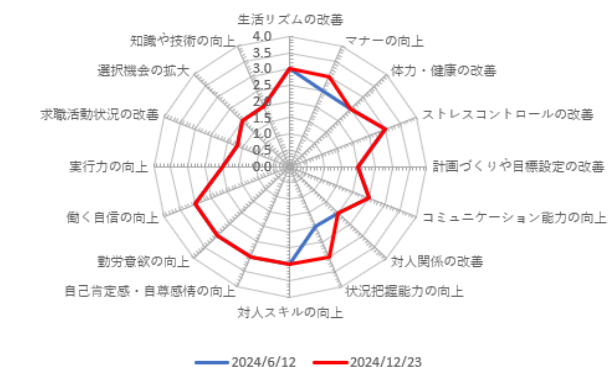
2024年10月末



2024年11月末

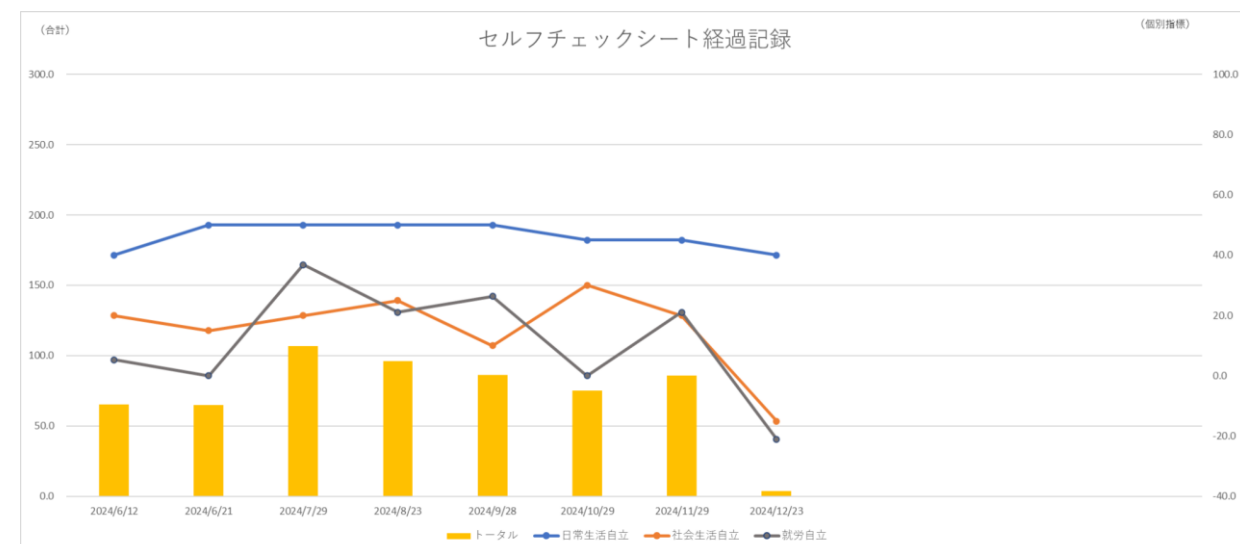


2024年12月末

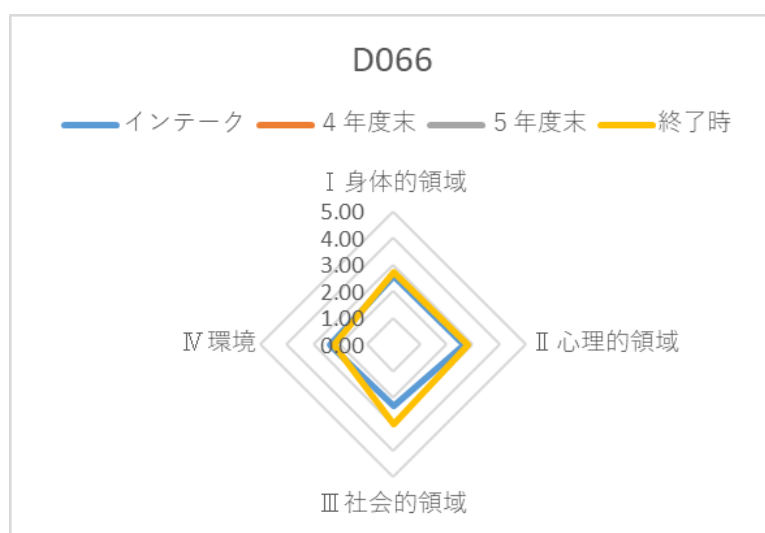


- ・数値が大きいほど評価が高い
- ・青が初回アンケート結果
- ・赤が月末のアンケート結果

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



QOLを活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

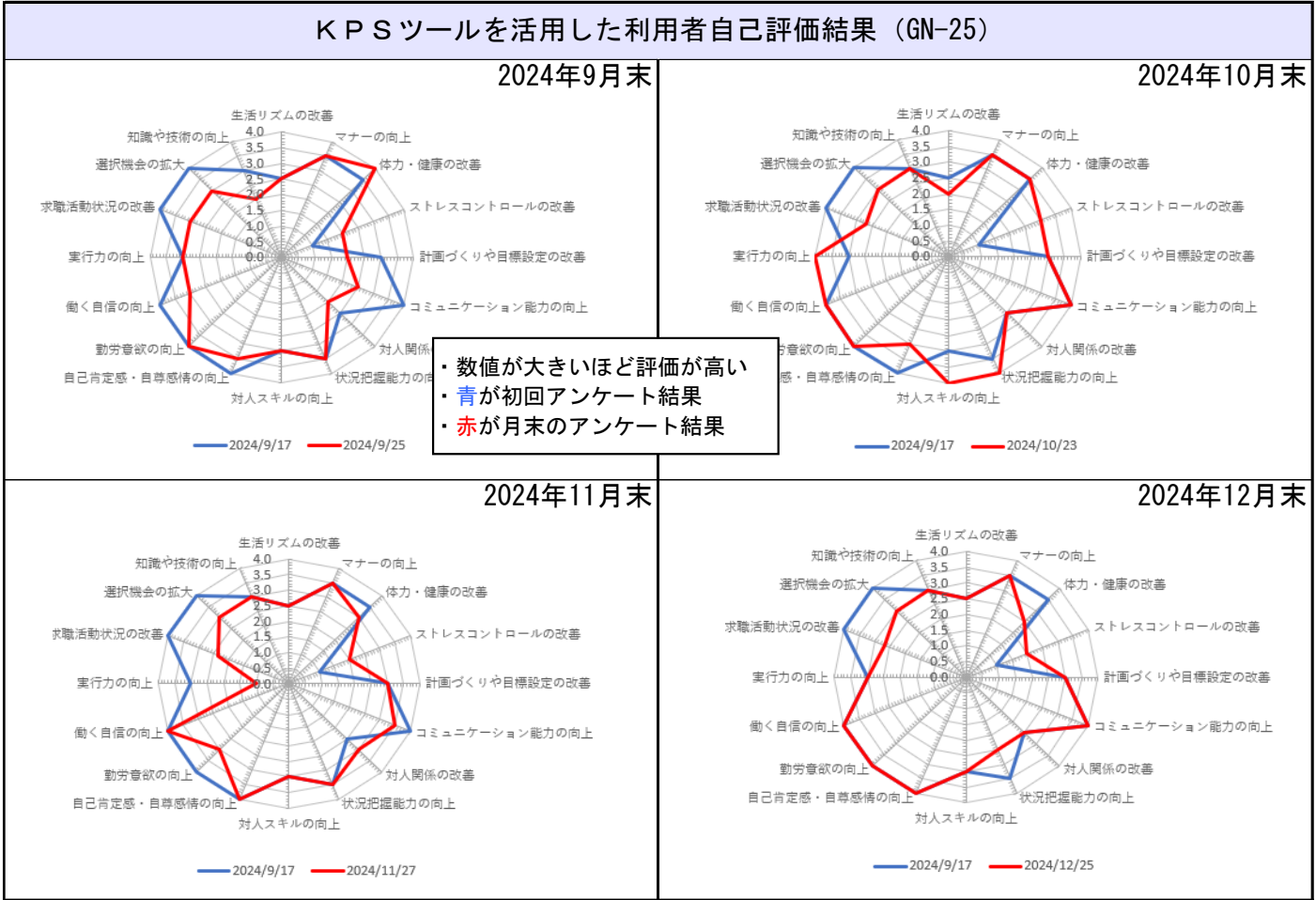
障害福祉サービスの利用につながった事例。QOLはインテーク時と同水準にあった。数ヶ月の行動観察から、障害福祉サービスへの移行を促している。本人は他者と関係を築くことの苦手さが想定されるが、引き続き同じ事業所を利用したいと意思表示している点からも、支援者との関係性が深まりつつあることが窺える。これは、QOLの社会的領域の変化とも一致する。

事例65

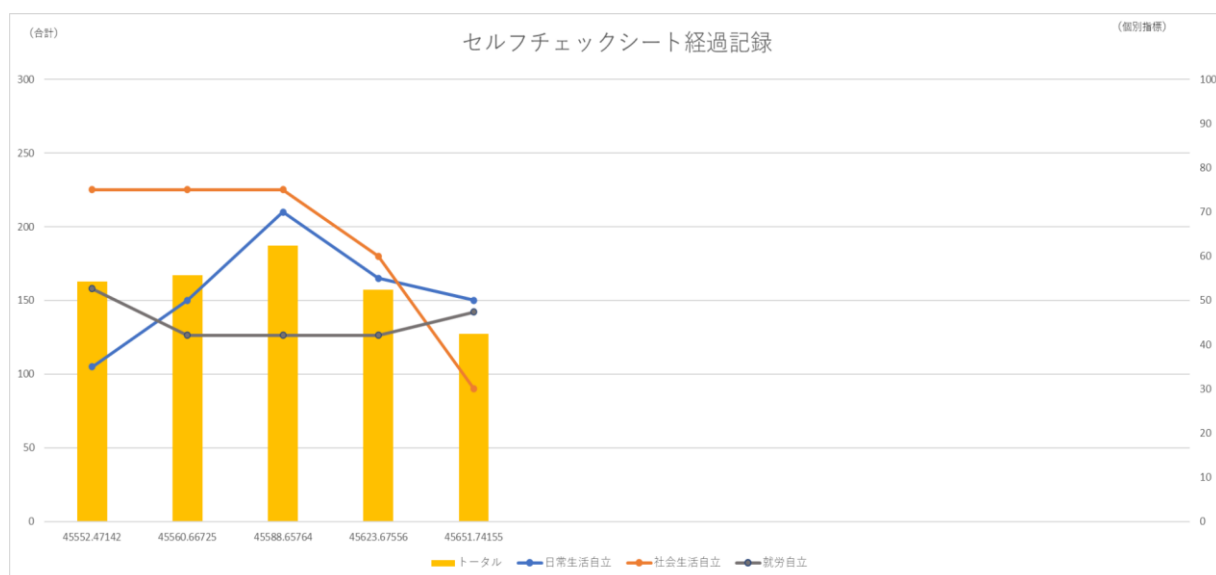
地 区	筑豊地区	支援機関名	ウイング田川
性 別	女	年 齢	30代
紹介機関等	田川保健福祉事務所		
支援開始年月日	2024/09/17～2024/12/25 利用終了		
就労困難要因	生活困窮者	母子・父子家庭	
学 歴	高校卒		
就労経験	その他一般就労の経験あり（パート・アルバイトなど）		
無業期間（年）	3年	通算勤務年数（年）	7年
具体的な職歴 就労経験（備考）	・ 高校卒業後サンリブに就職（精肉・青果等の部署） ・ 精肉店、リネンクリーニング業者、うどん店等でバイト		

困っていたこと	・バイト先で叱責を受け、精神不安定となったことがトラウマになっている ・人との関わりに不安があり、踏み出せない ・小学生の子ども二人の母子家庭で生活の不安を抱えている
課 題	・ストレスへの対処 ・家事、育児との両立 ・家族の抱える問題
支援内容・詳細	・話しやすい環境づくり ・企業見学、グループ実習 ・定期面談
事業所での活動に期待していること	・自信をつけたい ・生活習慣を整えたい ・働く勘を取り戻したい ・対人スキルを身につけたい ・職業訓練プログラムを受けたい ・職場（企業）実習をしたい
支援状況 1カ月目 (2024年10月30日)	※訓練終了の相談があり、支援員を含めた三者面談状況 ・週5日 10：00～15：00 ・訓練内容：施設外実習、施設内作業 ・健康状態：体調特変なし 本人の発言 ・通所するようになってから小1の子どもが不安定になり、親の介護もあるため11月末で辞めようと思っている ・人と話すことが苦手だったが、通所することで色々な人と話すことができて楽しかった 支援員の発言 ・先日相談があったが、今朝改めて退所の申し出があった ・役場への相談は、職員が付き添ったほうがいいと思っている

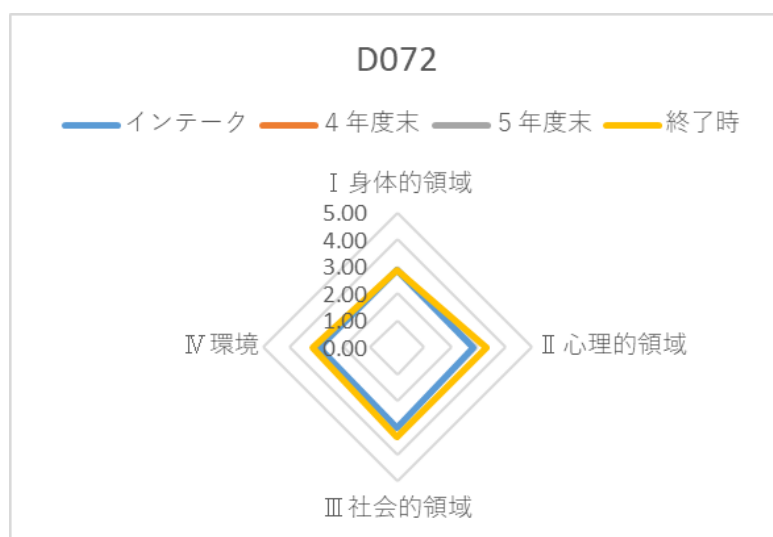
支援状況 2カ月目 (2024年11月29日)	電話にて支援員へ進捗確認 ・11月末で終了予定であったが、家庭の問題も含めて継続的な支援が必要と思われるため、福祉サービスへの移行を行うこととし、手続きの期間WDを利用することとなった ・12月は引越しと子どもの冬休み等でWDの利用なく、2月くらいに福祉サービスへ移行予定
終了面談 3カ月目 (2024年12月25日)	家族都合により12月25日付けで終了 (理由) 12月訓練を休んでいた間、自分が家にいたことで子どもの状態が落ち着き、自分も先月胃潰瘍で入院後体調が良くないため、通所を辞めて様子をみたい 本人の発言(訓練の感想) ・外にでると人の目が気になっていたが、働けるかなという気持ちができて、求人募集を見れるようになった ・就職は子どものことが落ち着いたらしようと思う



K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

本人や家族の要因が複合的に生じて、利用の終了を判断した事例。必要な支援につながるためのワンストップとしてWD事業が機能したと考える。

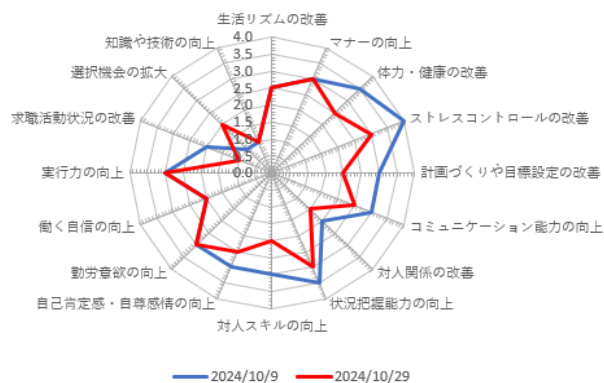
事例 7 2

地 区	北九州地区	支援機関名	ウイング中間
性 別	女	年 齢	50代
紹介機関等	宗像・遠賀保健福祉環境事務所遠賀分庁舎		
支援開始年月日	2024/10/10～2024/12/24 利用終了		
就労困難要因	生活困窮		
学 歴	高校中退		
就労経験	就労経験なし		
無業期間(年)	32年	通算勤務年数(年)	0年
具体的な職歴 就労経験(備考)	就労経験なし		

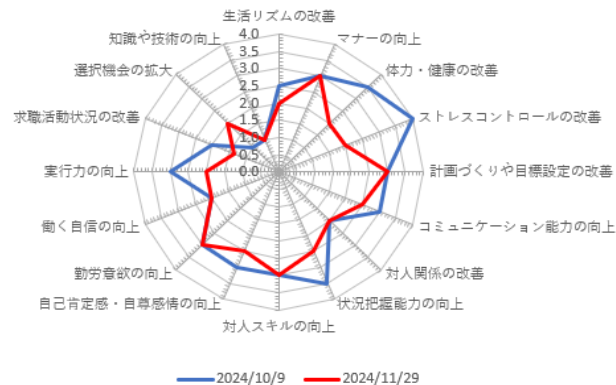
困っていたこと	・ 高校中退後、働いた経験がなく、働くイメージがわからない ・ 体の痛み（首の整形外科受診中）
課 題	・ 社会との接点が少ない ・ 自分にあった仕事が見つからない
支援内容・詳細	・ 相談しやすい環境作り ・ 実習を通し得意なことを見つける ・ 定期面談、振り返り面談
事業所での活動に期待していること	・ 職業訓練プログラムを受けたい ・ 自分ができること、得手、不得手を知りたい
支援状況 1カ月目 (2024年11月22日)	状況 ・ 週2～3日 10：00～13：00 ・ 訓練内容：施設内作業 ・ 健康状態：健康状態はいいが、体力は自信がない 本人の発言 ・ 自分でも出来る仕事を見つかる 支援員の発言 ・ ルールが理解ができないことが多く、他者との協調性がない ・ 就労経験がないため、何事にも報告、連絡、相談という意識がない
終了面談 2カ月目 (2024年12月24日)	状況 ・ 週2日は通っているが体調不良時は休む ・ 訓練内容：内職や座学が主 自分で探した100円ショップの品出しの求人へ応募したが、不採用であった 本人の発言 ・ WDが自分に合っていないと思うので辞めたい。WDを辞めて自分で仕事を探したい ・ 色々と言われるが苦痛 保健福祉事務所担当者の発言 ・ 面談を行ったがWDを辞めたいとの気持ちが強い ・ 意味不明な発言も多く会話がかみ合わなかった ・ WDを利用しながら福祉サービスに移行できればよかった ※利用者の意志により利用終了。保健福祉事務所担当者へ引き継ぐ

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (GN-25)

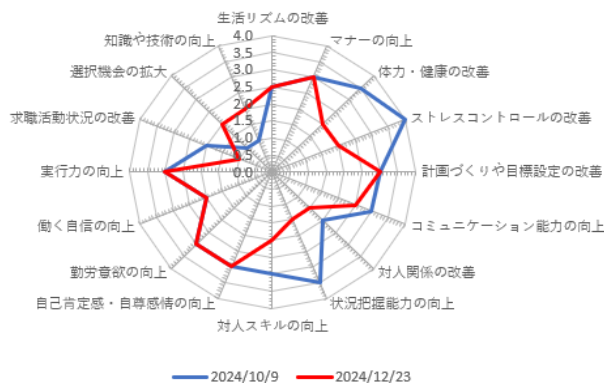
2024年10月末



2024年11月末



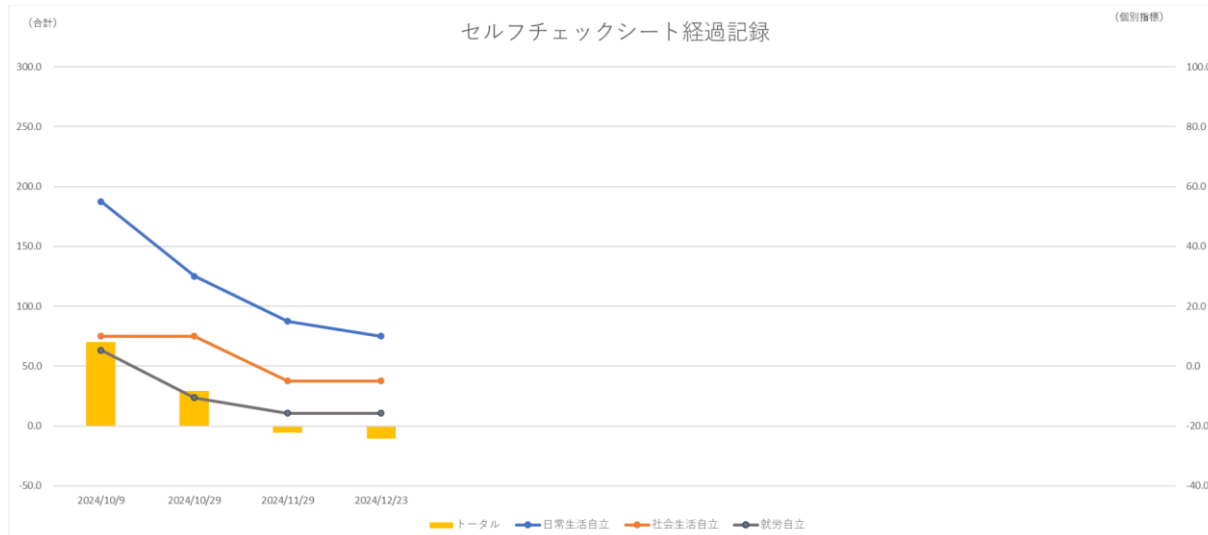
2024年12月末



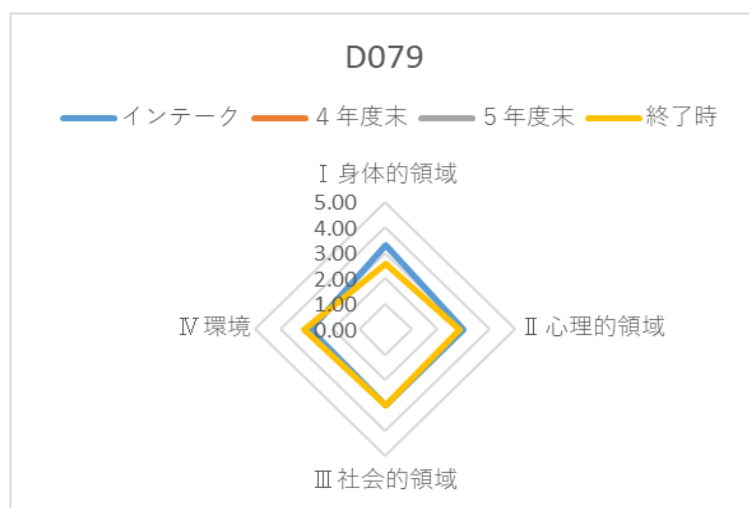
- ・ 数値が大きいほど評価が高い
- ・ 青が初回アンケート結果
- ・ 赤が月末のアンケート結果

K P S ツールを活用した利用者自己評価結果 (TS-59)

セルフチェックシート経過記録



Q O L を活用した生活水準の推移



事業アドバイザーのコメント

<R6年度>

利用を終了した事例。保健福祉事務所担当者の発言にあるように、適切な福祉サービスに移行できることが望ましかったと思われるが、WD事業の現時点でも目的等を踏まえるとこれ以上の介入は難しかったと推察する。事業所は就労に向けた支援及び活動機会の提供を行ったと考える。